TAKAMICHI
LOVE・WORKS

LO画集

TAKAMICHI LOVE WORKS

TLW

FLOW COMICS

AKANESHINSHA

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

CONTENTS

008　目次

COVER ILLUST GALLERY
010　カバーイラストギャラリー

SPECIAL ILLUST GALLERY
116　描き下ろしイラストギャラリー

NOVEL
132　小説「子供時間、最後の恋人。」

CREATIONS COMIC LO
152　LO創作ノート

TLW

To a direction that this book is being read with English. If to feel a sense of incongruity in to love the front cover of an "HENTAI manga magazine" of Japan, it is same as a reader of Japan completely. Of course a person who has a Lorita complex is culture unique to Japan that does not exceed world, a beautiful thing passes things such as a border and a word. I ignore for example a cultural basic problem completely and if I can merely receive a work of an illustrator representing Japan with pleasure meekly, I am happy. I would like to be bought if it is ready...does your country receive this book?

This book expresses it loudly. A " girl is beautiful! A " " pretty girl is treasure of world! There is no value certain thing more beautifully than a girl in " " this world! ". It is a word of a spirit that was not a principle insistence and was similar to also a shout. If I see small quantity of a book and world beautifully only to people that this word hears, this book becomes what was fulfilled meaning.

LO画集
TAKAMICHI LOVE WORKS

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
I am only matchless, I am similar, and I am not anywhere. It is a concept of this magazine.
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

TLW

Comic LO DON'T TOUCH LO

TAKAMICHI LOVE・WORKS

ILLUSTRATION：TAKAMICHI ART DIRECTION and DESIGN：KAZUO MIYAMURA(5GAS) NOVEL：YURI HIMENO EDITOR：W PUBLICATION：AKANESHINSHA

季刊 美少女と旅の雑誌
子供旅
第1号
定価 560円
特別付録 グルメMAP
特集
日本海とニッポンジンの深い関係
荒波をつらぬく光芒
子供は静かで楽しい場所が好き
文豪達が選んだ温泉と半玉物語
子供にも大人気のご当地キャラクター

季刊 子供旅
200X年 第1号
描き下ろしイラスト

Smile
DIGITAL and MOBILE and GIRLS

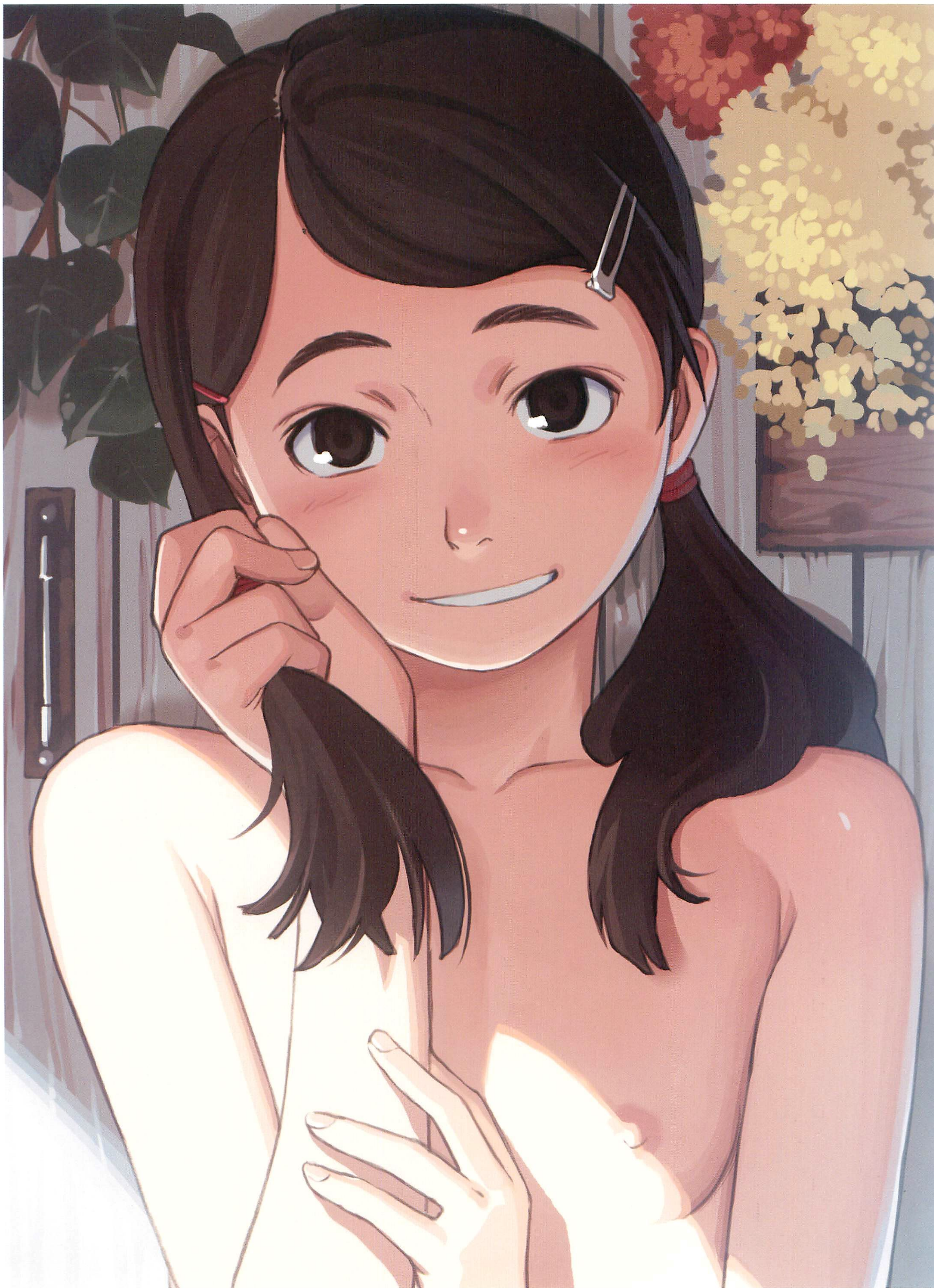
200X年 Vol.0 準備号
描き下ろしイラスト

子 供 で す が 何 か ？

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2002年 Vol.01 (OCT)

子 供 は 世 界 の 宝 物

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2003年 Vol.02(JUL)

*A Child is Beautiful. 輝け、子供達。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2003年 Vol.03 (SEP)

さあ、子供達と共に。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2004年 Vol.04(MAR)

春の子供。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2004年 Vol.05(MAY)

まだ子供やっちゅーねーん!

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2004年 Vol.06(JUN)

子供日和
KODOMO BIYORI

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2004年 Vol.07（JUL）

子供最高

こどもさいこう

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2004年 Vol.08(AUG)

がんばれ!
ニッポン!
の子供!

ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2004年 Vol.10（NOV）

脱衣子供宣言。

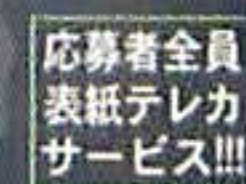
2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.12(JAN)

LOLBY DIGITAL

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.14 (APR)

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.15（MAY）

This is Japanese flower.
これが日本の花です。
ONE AND ONLY FLOWER'S MAGAZINE

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.16（JUN）

光の魔法
Magic of light

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.17（JUL）

私は海になりたいっ!

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.19 (SEP)

ただいみゃー。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.20 (NOV)

「ほら。拍手が止んだ。」

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.21 (DEC)

「僕は、ロリコンであってよかったと、時々思う。」

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 Vol.22 (JAN)

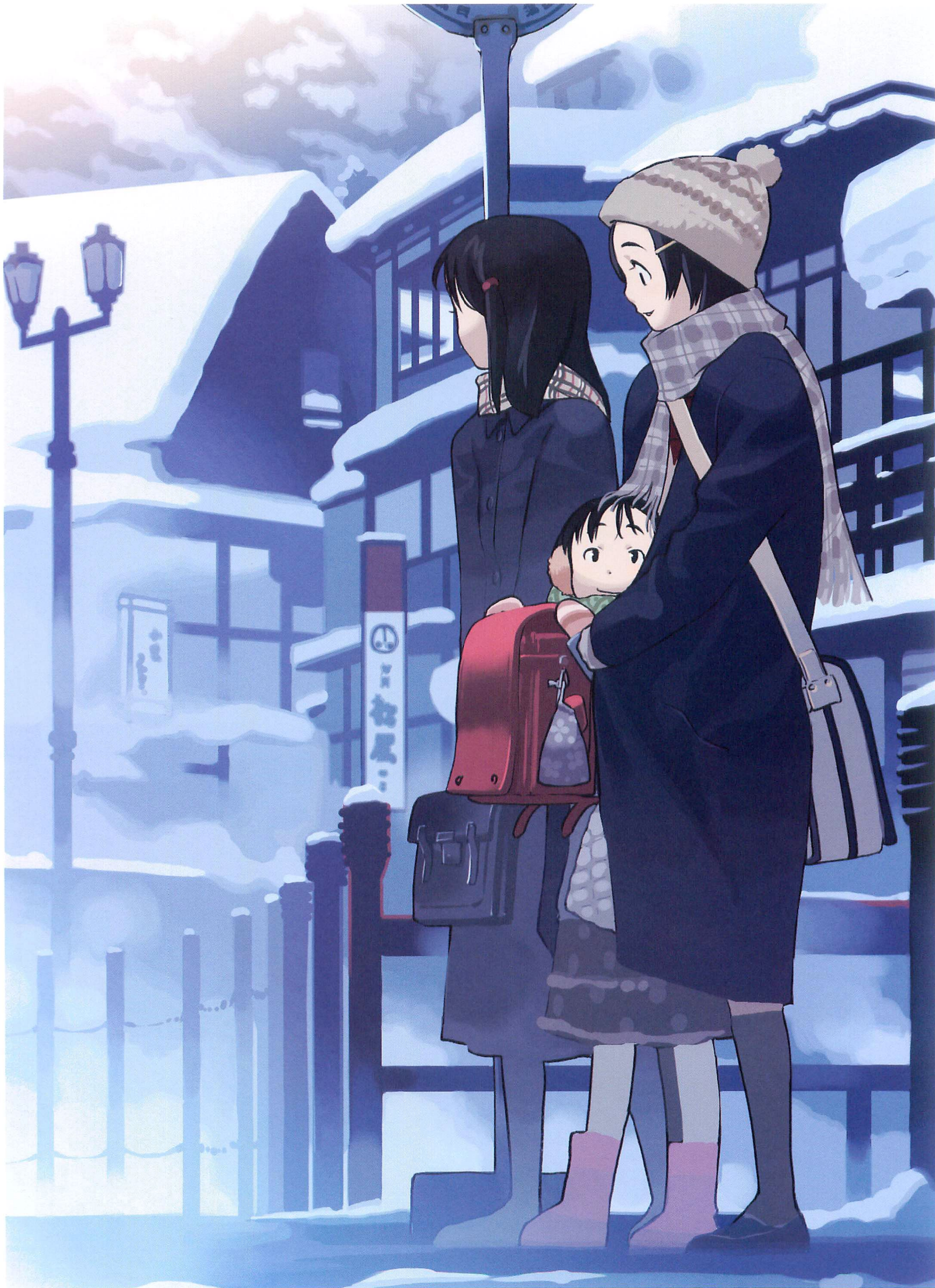
あなたに愛を♪

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 Vol.23 (FEB)

Le Beau Japon この美しき日本

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 4月号（Vol.25 APR）

それでも世界は美しい

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 5月号（Vol.26 MAY）

君がいれば、ゲームはいらない。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 6月号（Vol.27 JUN）

練習、青春、ディシプリン。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 7月号（Vol.28 JUL）

ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

どこにもない、どこかへ

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 9月号（Vol.30 SEP）

健全なるもの

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 10月号（Vol.31 OCT）

「ライトノベルより、ちょっとエッチかも♡」

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 11月号（Vol.32 NOV）

…ぬおっ!

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2006年 12月号（Vol.33 DEC）

「つい見とれてしまう私は、ロリコンなのかもしれません。」

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 1月号（Vol.34 JAN）

天使のスピード

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 2月号 (Vol.35 FEB)

ん‼まい。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 3月号（Vol.36 MAR）

おはよう!
ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 4月号 (Vol.37 APR)

巡り来る少女

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 5月号（Vol.38 MAY）

「僕は生きる。君のために。」

2007年 6月号（Vol.39 JUN）

「ただいま地球は、
静かに寒い。」

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 7月号（Vol.40 JUL）

「君は遠く輝く。僕は少し泣く。」

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 8月号（Vol.41 AUG）

夏・大爆発！

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 9月号（Vol.42 SEP）

ぼくは単純に興奮していた。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 10月号（Vol.43 OCT）

The Virgin Spirit

ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 11月号（Vol.44 NOV）

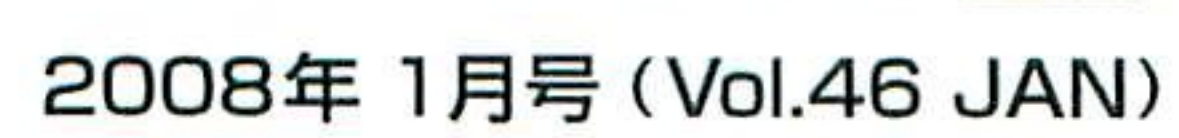
幸福はここに。そしてすべてに。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 12月号（Vol.45 DEC）

そのうち、
どこかが、
目的地。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

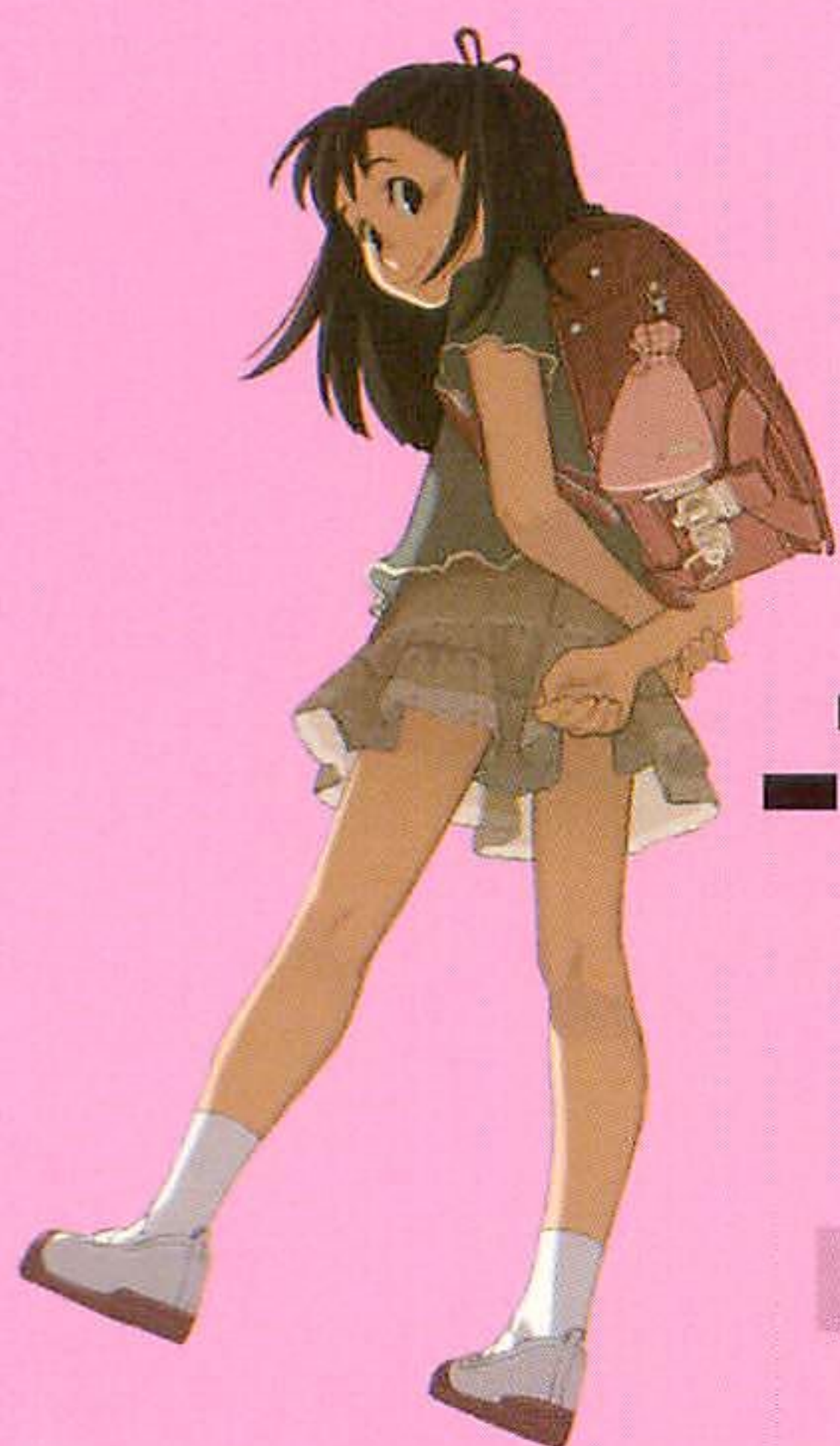
2008年 1月号（Vol.46 JAN）

雪の甘み。白の暖かさ。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2008年 2月号（Vol.47 FEB）

陽 だ ま り の 神 様

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2008年 3月号（Vol.48 MAR）

ファンシーPINKタイフ〜ン♥♥

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2008年 4月号（Vol.49 APR）

賭けろ。未来へ。

-Bet it on the future-

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2008年 5月号（Vol.50 MAY）

-TAKAMICHI LOVE WORKS-

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

TLW 2

SPECIAL ILLUST GALLERY

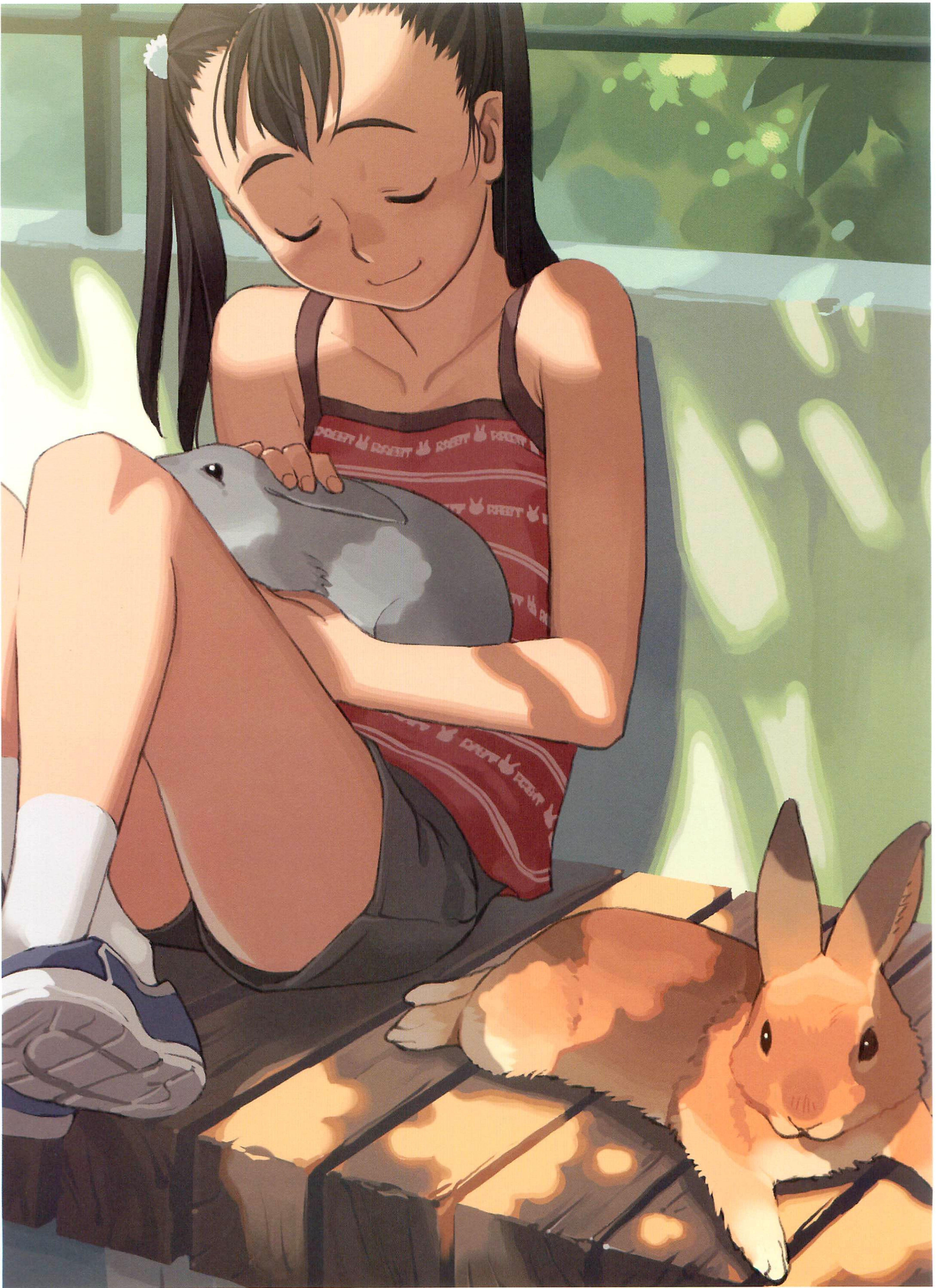
SPECIAL ILLU

LO画集
-TAKAMICHI LOVE WORKS-
描き下ろしイラスト

-TAKAMICHI LOVE WORKS-

描き下ろしイラスト

LOCL'07

LOlendar
ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE
Printed in Japan

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 2月号(Vol.35) PINUP CALENDAR A

LOlendar

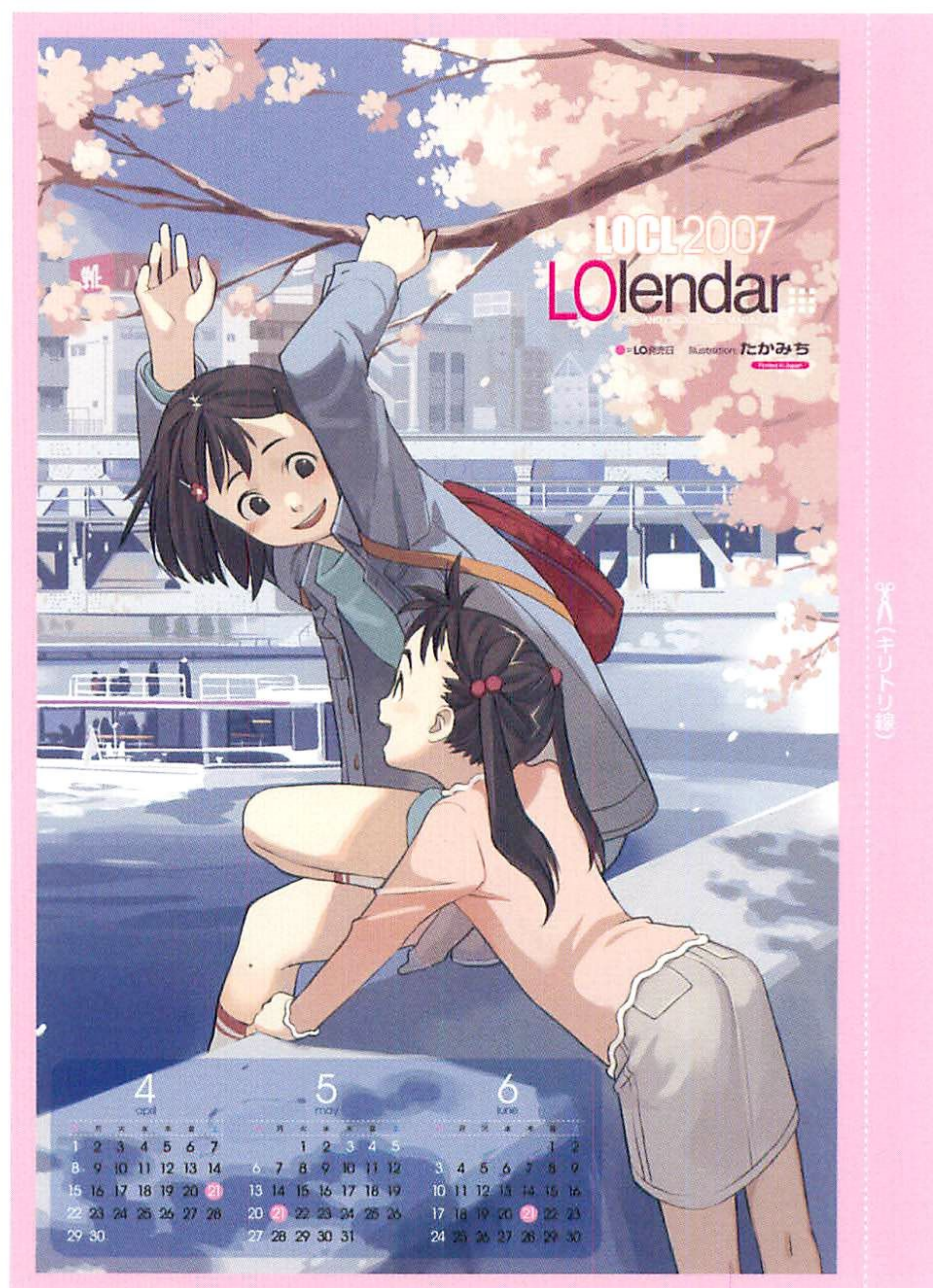
ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2007年 2月号(Vol.35) PINUP CALENDAR B

LOlendar

ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

2005年 Vol.20 PINUP CALENDAR A

LOCL 2005

「君待つ 2005年時間」

10
october

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11
november

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12
december

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

LOlendar
ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE

● = LO発売日　Illustration たかみち

(キリトリ線)

LO画集
-TAKAMICHI LOVE WORKS-
描き下ろしイラスト

TAKAMICHI
LOVE
WORKS

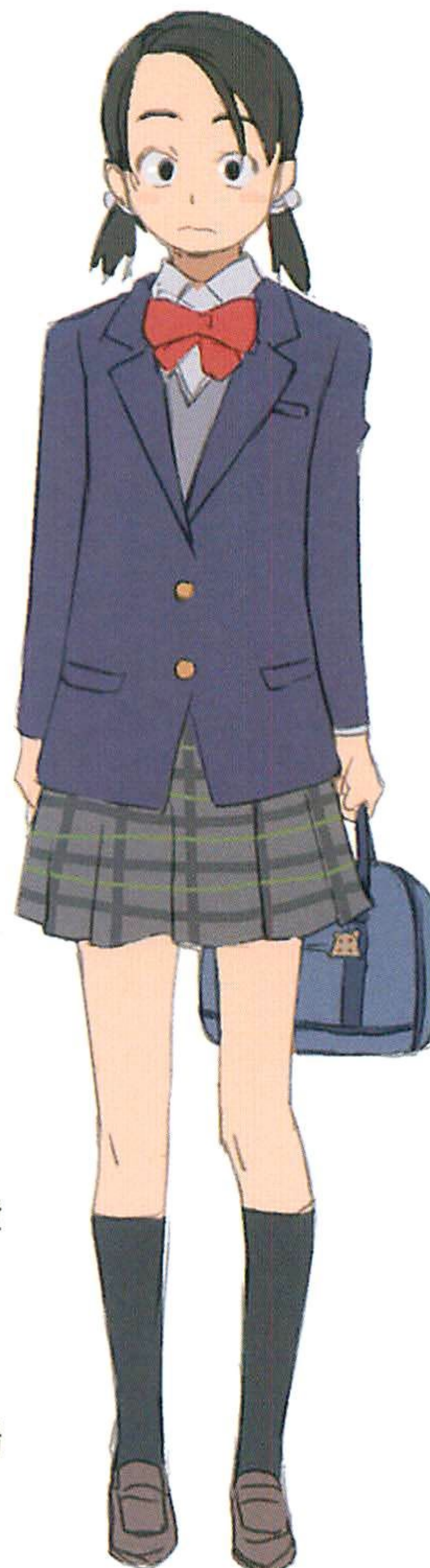
描き下ろしイラスト

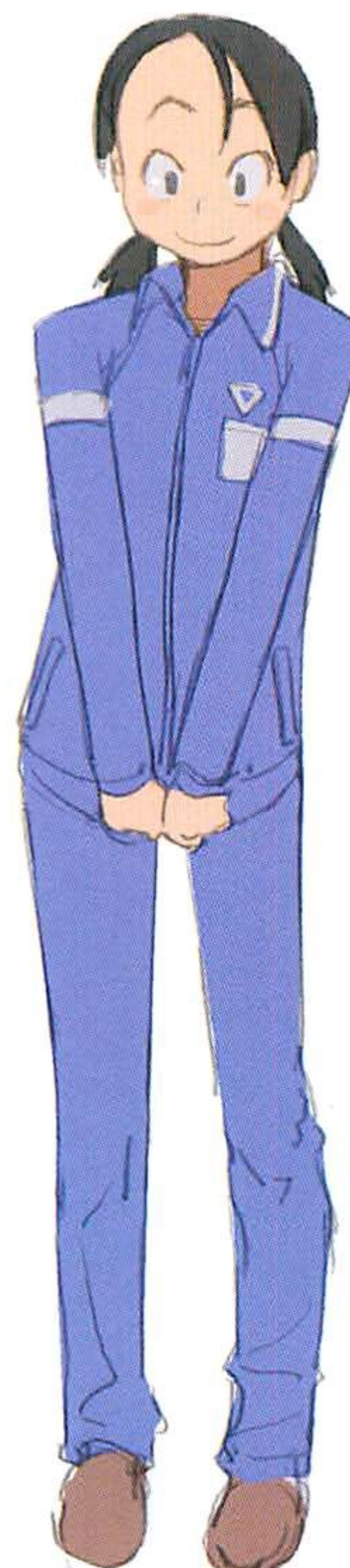
子供時間、最後の恋人。

文：姫野百合　絵：たかみち

Yuri Himeno × Takamichi

*Characters 登場人物

鷹村（たかむら）ハル（はる）

二年時に山根と同じクラスになった女の子。陸上部のエースで人気者。スタイル良し。わりとズケズケモノを言うタイプ。

山根美紀（やまねみき）

茜市立第一中学二年生。ごく普通の女の子だがちょっと内向的で物事を溜め込むタイプ。ナイ乳がけっこうコンプレックス。

それは入学式の日のことだったの————。

あたしは新入生でクラスのみんなと体育館の外の渡りろうかに並んでた。

クラスの人は中には同じ小学校から来た人もいたけど、大部分が知らない人。

(なんか緊張する～)

あたしこういうの苦手なんだよ～。

落ち着かない気持ちで待っていたらようやく列が動いた。

新入生の入場が始まるらしい。

一歩踏み出したその時突然強い風が吹いた。

春風が砂ぼこりを舞い上げる。ほとんど散ってしまった桜の花びらを飛ばしていく。

ついでにあたしの新しい制服のスカートも。

「えっ？　やだ。うそ……！」

あたしはあわてて両手で真新しい制服のスカートを押さえた。

(見られた？)

もしかして見られちゃった？

おそるおそる周囲を見回したけど、みんな知らんふりしてる。

てことは見られて…ない？

(一瞬だったもんね)

急いでスカートを押さえつけたから誰にも見られずに済んだのかも。

(よかった……)

ほっとしてあたしは両手を胸に当てた。

その時————。

うしろのほうで誰かがぼそっとつぶやくのが聞こえてきて……。

「……ひよこ……」

(だ、誰……？)

あたしはばねじかけのおもちゃみたいに振り向いた。

短い髪。

あたしのほうをじっと見てた女の子と目が合う。

ちょっと目尻の吊り上がった瞳。

短いスカートの下からのぞく足はすんなりとしなやかでちょっとボーイッシュな感じの子。

ついでにちょっとカワイイ…かも……。

(あれって隣のクラスの子…だよね)

その子は顔いっぱいににっこりと笑みを浮かべあたしのほうを見て言った。

今度はさっきよりはっきりした声で。

「ひよこ！」

周囲でくすくすと笑い声が起きた。

みんなが笑ってる。

おかしくておかしくてたまんないっていう感じにあたしのことをこそこそ見てる。

「あ……」

やっぱり見られてた？

そういえば今日のあたしのパンツは……。

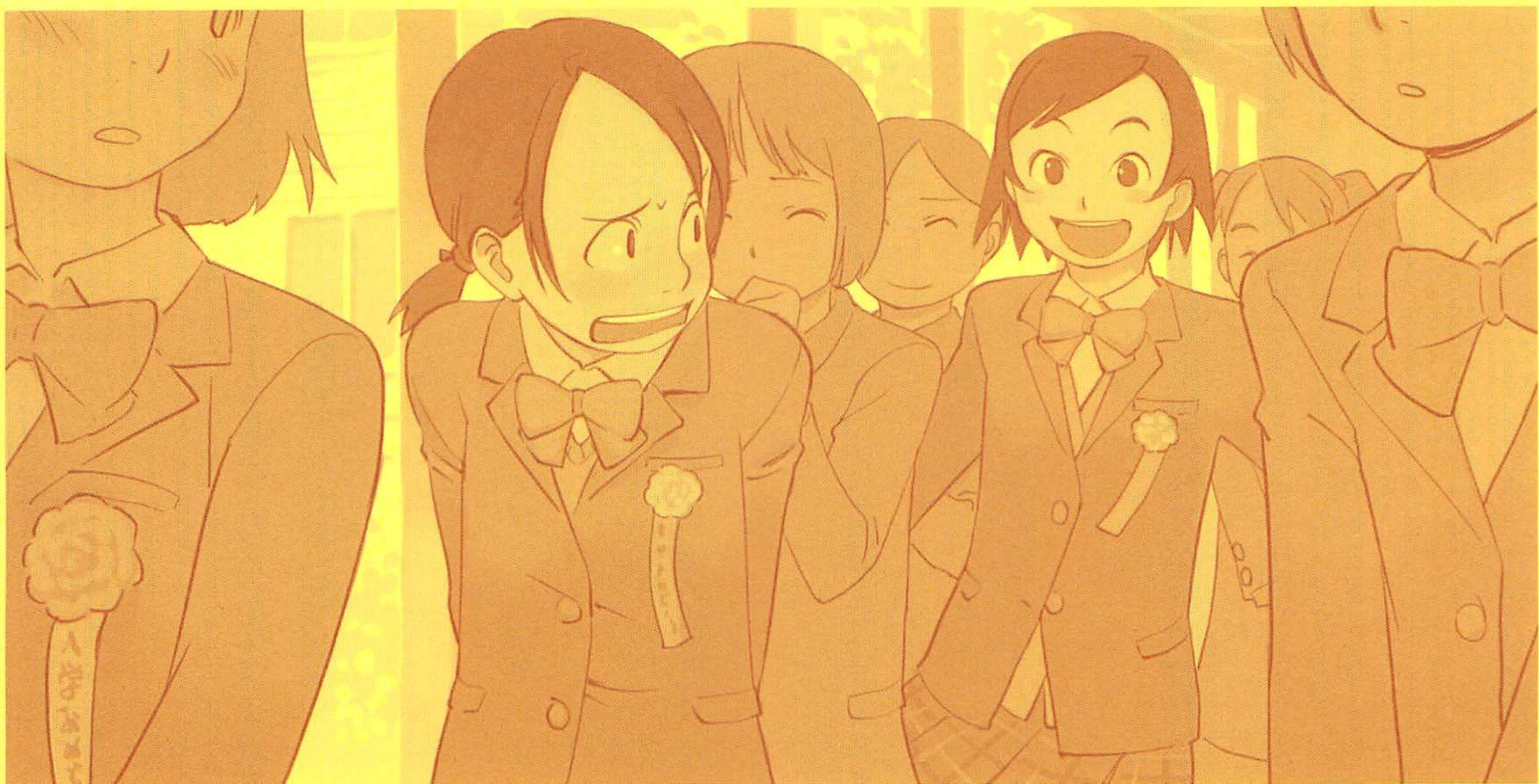
ひよこ————。

「いやーっっっ」

ほっぺたがカーッと熱くなる。

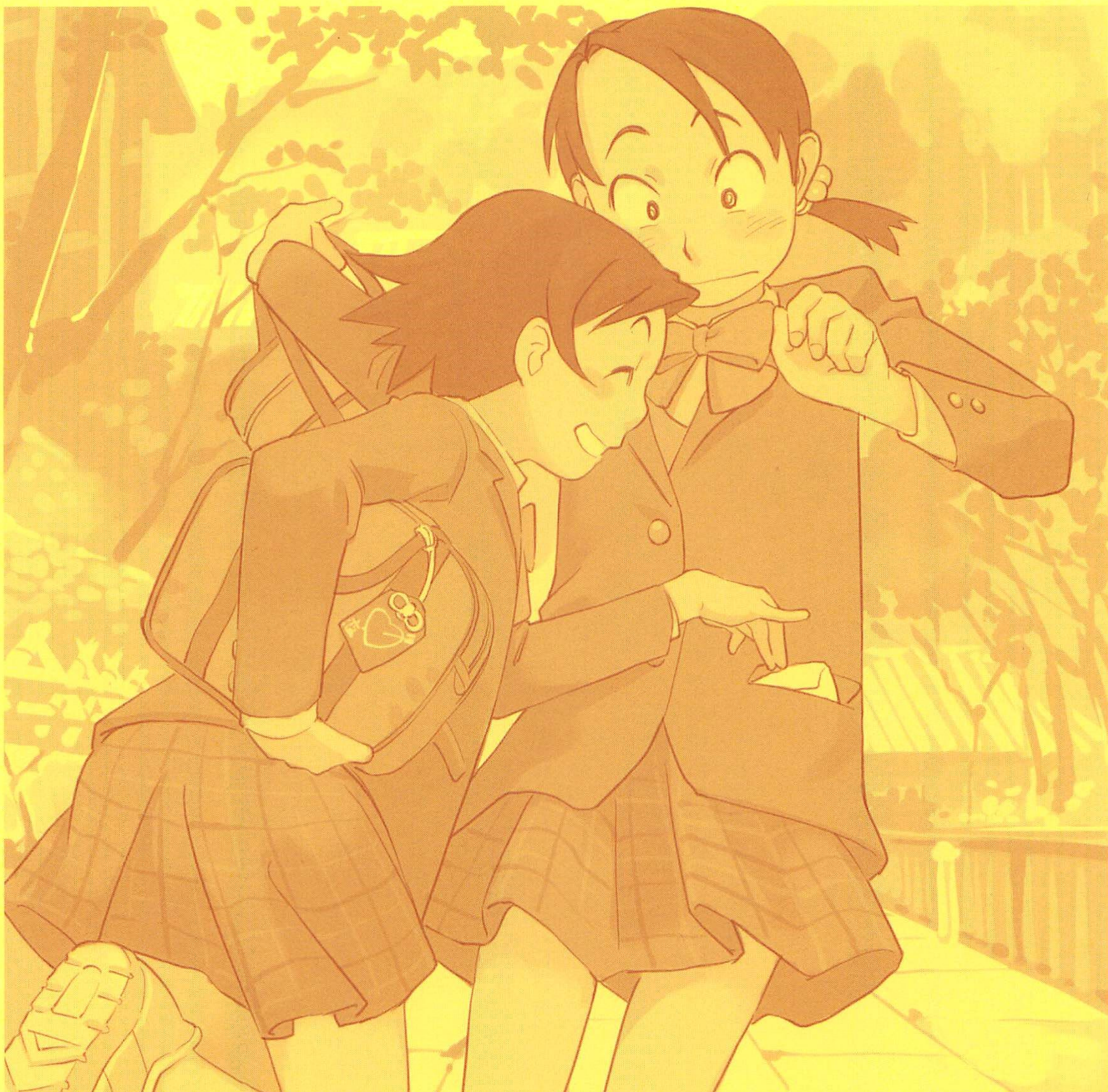
恥ずかしくて恥ずかしくて頭の中がふっとうしそう。

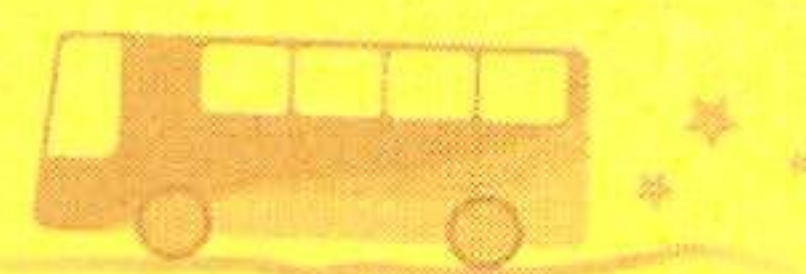
あたしはその場から逃げ出して家に帰った。

入学式もそのあとのホームルームももちろんサボった。

だってあのまま入学式に出席してたらもっと恥ずかしい思いをしてた。
みんながあたしのことを指差してひよこのパンツの女って笑うに決まってる。
(これって絶対あの女のせいだよ)
黙ってればいいのにわざわざ『ひよこ』なんて言ってあたしを笑いモノにしたあのショートカットの女。
それがハル。
鷹村ハル。
その日からあたしはハルのことが大大大っキライになった。

あたしは山根美紀。
中学二年生。
今あたしは修学旅行で京都に来ている。
楽しい楽しい修学旅行のはずだけど、でもあたしはかーなーりーユウウツ。
なぜかっていうと……。
あたしはバスの中通路をはさんで隣の隣の席をちらっと見た。
そこには鷹村ハルが座っている。
(なんでこうなるかなぁ……)
ため息が出る。
二年になって初めて今の教室に入った瞬間そこに鷹村ハルの顔を見つけてしまって、あたしはめちゃくちゃショックだった。
(ううっ。このまま回れ右して入学式の時みたいに家に帰っちゃって引きこもりになっちゃいたいよー)
だけど学校に行かないなんて言ったらお母さんに家からたたき出されちゃうに決まってるしー。
(入学式の時だってものすごーく叱られちゃったもんね)
ちゃんと学校に行かないならおこづかいは一円だってあげません、なんて言われちゃったんだから。
アレはいわゆるフカコーリョクっていうヤツだと思うんだけどなー。
わかってくれないなんて。
(お母さんひどい)
仕方ないからハルのことはなるべく見ないようにして、あたしは四月からの数か月を生きてきた。
話しかけない。
近寄らない。
視界に入る前にとっとと逃げる。
なーのーにー。
(修学旅行で同じ班になっちゃうなんてありえない。信じられないよ)
修学旅行で同じ班っていうことは鷹村ハルとずっといっしょにいなくちゃいけないってことなんだよ。
ごはん食べるのもお風呂に入るのもいっしょ。
「あー、もうサイテー……」
思わずつぶやいた声が大きかったのか、それともあたしの憎しみの視線があまりにも激しかったのか。
突然ハルがこっちを向いた。
視線がぶつかる。
くすっ。
次の瞬間ハルはなんだかものすごくおかしいのをがまんしてるみたいに笑った。
あたしはあわててそっぽを向く。
びっくりして心臓がヘンな感じにドキドキしてた。
反則だよ。
(ハルがいきなりこっちを見るなんて思ってなかったよ〜)
うっかりまた視線が合ったりしたらイヤだし、あたしはずっとバスの窓の向こうを見ているふりをしていた。
それから五分くらいしてバスが停まった。
清水の駐車場に着きましたってバスガイドさんが言ってる。
ここでバスを降りて班ごとに自由行動することになってるんだよね。
自由行動っていっても、前もって先生が決めた場所を回ってそこのレポートを作成してあとで提出しなくちゃいけないことになってるから、あんまり『自由』とは言えないけど。
バスを降りるとすぐに同じ班の瀬川さんが声をかけてきた。
「ねーねー。ヤマネ。選んで」
差し出されたのはメモ用紙に書かれたあみだくじ。結果から逆にたどれないようご丁寧に一番下は折りたたんである。
(そっか。バスの中でなんか書いてると思ったらこれ作ってたのか)
でもなんでいきなりあみだくじ???
あたしはわけがわかんないまま一番右を選んだ。
次々にみんなも選んだあと最後にハルが選んで、それから瀬川さんが折りたたんであった下のとこ

ろを開いた。
「結果発表～。アタリはヤマネで～す」
「えっ？　あたし？？？」
（アタリって何かもらえるの？）
ちょっと期待したあたしの手に瀬川さんがメモを取るためのバインダーと筆記用具を押し付けた。別の子からは記録用のデジカメを渡される。
「というわけで、よろしく」
「……どういうこと？」
「あたしたちこれからダッシュで地主神社に行ってくるから、ヤマネはレポートお願いね」
「えぇぇぇっっっ!?　あたしひとりでぇ!?」
「だってみんなで地主神社に行くわけにはいかないじゃん。レポートやんないとあとで大変なことになっちゃうし、ここは一つ誰かひとりに犠牲になってもらうしかないでしょ」
なに？　それじゃ、さっきのあみだくじってそれ決めるためのものだったの？
あたしもしかしてババ引いちゃったわけ？
うそ。
（そんなの聞いてないよ。相談もなしに勝手に決めるなんてひどいよーっっっ）
あたしは思いっきり抗議してやろうとしたけど、でもあたしがそうするより先にみんなもう走り出していた。
あたしのことなんかもう全部忘れちゃったみたいに観光客でごった返している清水坂をかなりの勢いで走って上っていく。
地主神社は縁結びで有名な神社だ。
みんなのお目当てはきっと恋愛成就にご利益があるっていうお守りだよね。
それと恋占いの石。
境内にある二つの石の間を目をつぶってちゃんと歩けたら恋がかなうんだって。
オトメとしてははずせないポイントかも。
だけど予定ではあたしたちの班は仁王門からまっすぐ本堂を目指すという通常ルートじゃなくて、右側の小道から音羽の滝を経由して本堂に上がるコースで回ることになってた。
地主神社は本堂の裏手にあるからそれだと地主神社でゆっくりできないだろうし、みんながレポートさぼってダッシュしたくなる気持ちもわからないではないけど……。
でも……。
（なんかズルい）
そりゃカレシどころか好きな人もいないあたしには地主神社のお守りを買う必要も恋占いの石で恋の行方を占う意味もないかもしれないけどさぁ。
（みんなと同じイベントに参加できないのはやっぱり淋しいっていうかなんていうか……）
あたしは走っていくみんなのうしろ姿をうらみがましく見送ってた。
突然ハルが足を止めて振り向く。
なんだかあたしの表情をうかがうような目。
あたしは急いでそっぽを向いた。
（ハルに気持ちを見透かされるなんて絶対にイヤだよ）
それに一瞬だってハルの顔を見たくないもん。
しばらくして視線をもどした時にはもうみんなのうしろ姿は見えなくなっていた。
もちろんハルも。
ちょっとだけほっとした。
まさかとは思うけどハルがひとりでもどってきたらサイアクだもんね。
置き去りにされるのはイヤ。
でもだからってハルとふたりきりになるのはもっとイヤ。
（それぐらいだったらひとりのほうがずぅ～っとマシだよ）
仕方なくあたしは清水に向かって歩き出す。
しょうがない。
（そのうち本堂のあたりでみんなと合流できるよね。そしたらそこから先は、レポートはほかの子たちに任せればいいんだし）
それにものは考えようかも。
（大ッキライなハルとしばらくの間離れてられるなんてラッキーじゃない）
そんなふうに考えたらちょっとだけ気が楽になった。
足取りも少～し軽くなったみたい。
仁王門横を右に進んで木立の中を歩いていくとそのうち左の上のほうに清水の本堂が見えてくる。
よく『清水の舞台から飛び降りる』って言うけど、ほんとだ。下から見るとものすご～く高い。
（あんなところから飛び降りたりできないよ。ムリ。絶対ムリ）
圧倒されて清水の舞台裏を見上げていたあたしはその時背後からなんだかヘンな音が近づいてくるのに気づいた。
ザッザザッザッ。
なんだろう？
（もしかして誰かの足音……？）
振り向いたあたしの目に映ったのは……。
「げっ……!?」
ハルだよ。
鷹村ハルが全速力であたしに向かって走ってく

る。
げげげげげ。
(なんでこの女がここにいるの？？？)
ボーゼンとしているあたしの目の前でハルが急停止する。
「探したよぉ。ヤマネ。ここにいたんだぁ」
うわっ。
ナニ話しかけてんのよ？
この女っ。
「あれぇ？　どうしたのー？　ヤマネもしかして寝てんのー？」
ハルの手があたしに近づいてくる。
あたしの肩をつかんでゆさぶろうとする。
あたしはあわててあとずさった。
「うわっっっ。な、な、な、なにっっっ？」
「なにってヤマネが返事しないから……」
「だ、だ、だって突然出現するから！　な、な、な、なんでっ？　地主神社に行ったんじゃなかったの？」
「行ったよぉ。地主神社」
ハルはそう言ってにへらっと笑った。
あたしのきらいなハルの笑い顔。
この笑顔を見ているとなんだかバカにされてる気分になる。
めちゃくちゃムカつくっっっ。
「ほ、ほかの子たち…は……？　いっしょじゃないの……？」
(お願いだからほかのみんなもすぐ追いついてくるよって言って〜)
せめてふたりきりだけは避けたいよー。
淡い期待はハルの言葉によってあっさり打ち砕かれちゃった。
「みんなで恋占いしてるよ」
「あ、あんたもしてくればよかったのに。その、恋占い……」
なんだったら今からでも……。
言いかけたあたしの言葉をハルの能天気な声がさえぎる。
「だってぇ、ヤマネひとりにしといたらかわいそうじゃない」
「は……？」
「だからあたしは縁結びのお守りだけ買ってすぐにもどってきたんだよ」
にっこり。
その笑顔を見てあたしは思いっきりほっぺたを引きつらせる。
(かわいそうじゃないよ。ひとりでもちっともかわいそうじゃない)
あんたといっしょにいるほうがよっぽどかわいそうだよ〜。
はっきり言ってやりたくて、でも言えなくて、あたしはふいと横を向く。
あたしは全身で叫んでたと思う。
ハルのことが大っキライだって。
フツーこういう態度取られたらドン引きだよね。
だけどハルはそんなことちっとも気にしていないみたい。
鈍感なのか、それともあつかましいのか。
にこにこの笑顔であたしに小さな包みを差し出す。
「はい。これ。ヤマネにあげる」
「な、ナニ……？」
「縁結びのお守り。さっき地主神社で買ってきたの。あたしとおそろいだよ。すんごいご利益あるんだって」
ハルが自分のカバンを指差して見せた。
カバンの横には矢が刺さった金色のハートが中心にでっかく刺繍してある赤いお守りがぶら下がってる。
「そんなものいらないよ」
あたしはハルの手を振り払った。
だけどハルは強引で。
「いいじゃん。いいじゃん。遠慮することないってば」
「遠慮なんかしてないって。ほんとにいらないもん」
「えぇっ？　もしかしてヤマネもうカレシいるとか？　ちょーラブラブだからこんなお守りいらないって？」
「そ、そういうわけじゃ……」
ないけどさ。
「だったらいーじゃん。はい。プレゼント」
そう言ってハルはあたしの制服のポケットの中に勝手に包みを入れてしまった。
「ちょ、ちょっと！　鷹村さん！　あたしはもらうなんて言った覚えは……」
「ハルでいいよ。ハル」
「え……」
「鷹村さん、なんて呼ばれるとなんか背中がかゆくなっちゃうんだよね。だからこれからはヤマネもあたしのことハルって呼んで」
「……」
あたしは何も言えなくなって黙り込む。
こういうのを肩透かしっていうのかな。
なんかうまくはぐらかされた感じ。
ポケットの中の包みを返すタイミングまで失っ

ちゃったよ。
（こんなものもらっちゃってどうしよう……？）
困るよ。うれしくないよ。
かといって、うっかり捨ててタタられちゃって、そのせいで一生カレシができなかったりしたらイヤだしぃ。
どうしていいのかわからないままだつっ立っていると、突然ハルの手が伸びてきてあたしの腕をつかもうとした。
「行こ。ヤマネ」
あたしは急いであとずさってそれをよける。
「な、な、なに、すんの……!?」
「だってレポートやんないと」
「だからそうじゃなくてぇ」
あたしが言いたいのはあたしにさわらないでよって、つまりそういうことなんだけど……。
でもあたしの気持ちはハルには伝わらなかったみたい。
ハルはなんにもなかったみたいにあっさりとあたしに背中を向けひとりで先に進んでいく。
あたしは少しの間そのうしろ姿をにらみつけていた。
「いったいナニ考えてんのよ……？」
ハルだってあたしがハルのこと苦手に思ってるって気づいてるはず。
フツー自分のこときらってるってわかってる相手にこんなふうに話しかけたりはできないよ？
（なのになんで恋愛成就のお守りなんかプレゼントするかなぁ？）
何かたくらんでるとしか思えないよ。
絶対に。
（もしかして、アレかな？）

入学式の日にあたしに恥をかかせたこと少しは悪いと思ってるからこんなことするのかな？
このお守りっていわゆる謝罪のシルシってヤツなのかな？
（だとしてもあたしは許す気ないから）
だってあの日は入学式だったんだよ？　中学生になって最初の一歩だったんだよ？
それがあんな苦い思い出になるなんてサイアク。
そりゃいきなり強い風が吹いたのもスカートがふわってなったのもハルのせいじゃないけどさ。
それはわかってるけどさ。
わざわざ「ひよこ！」なんて言ってあたしに恥をかかせたのはハルなんだもん。
（こんなチープなお守り一個でごまかされたりしないんだからね）
たとえば土下座して「私が悪うございました」とかなんとか心から謝ってくれたら考えてあげてもいいけど。
（ほんとにハルに土下座させられたら気分いいかなぁ。でもそんなことたぶんムリだよなぁ）
な～んて考えながら、あたしは仕方なく絶対にハルには追いついたりしないよう――だって並んで歩くなんてありえないもん――少し距離を取りつつハルのあとをついていく。
ハルとあたしの間は約十五メートル。
こうやってうしろから見てるとよくわかる。
きらいな相手のことをほめるのはかなりくやしいけど、でもハルって足がきれいなんだよね。
（やっぱり陸上やってるからかな）
足首がきゅっと細くて膝のとこが曲がってないのがカッコいい。
顔だってちょっとカワイイし。
ついでに……。
（あたしより胸があるんだよね……）
だからなのかどうかは知らないけど、ハルは先生にも生徒にも人気がある。
友だちもいっぱいいるし陸上部のエースで校内ではちょっとした有名人。
もしかしてハルのことぎらいなのってあたしだけ？
そう思うと胸がもやもやっとするけど、でもしょうがないよね。
（あんなデリカシーのない人のことなんか好きになれないよ）
あの日のことを思い出させるひよこのパンツもあれから一度もはいてない。
引き出しのすみっこに封印したまま。
「ほんとはお気に入りだったのに……」
あたしはついうっかり本音を声に出していたみたい。
「え？　なんか言った？」
突然声をかけられてビクッとした。
気がつけばハルがすぐ目の前にいてあたしのほうを見てる。
（ヤバっっっ）
いろいろ考えてたからついついハルとの距離が短くなってたのに気づかなかったんだ。
あたしはあわてて首を左右にぶんぶん振って言った。
「な、な、な、なんにも！　なんにも言ってないよ!!」
うわー。我ながらヘタな言い訳。
だけどハルは特別気にはしなかったみたい。
「ふうん」
ってひとこと言ったきりまたあたしに背中を向けて歩き出した。
（ああ。よかった。追及されなくて）
だってパンツのことなんか言い訳したくないよ。
あたしはほっとして少し距離ができたのを確認してから足を踏み出す。
あたしがなかなか追いついてこないからハルが立ち止まる。
そうするとあたしも立ち止まる。
ハルが歩き出せばあたしも歩き出す。
少しもあたしたちの距離は縮まらない。
そういう状況が面倒くさくなったのか突然ハルが両手を腰に当てて振り向いた。
「ねぇ。ヤマネ。どうしてそんなに離れて歩いてるわけ？」
「……え？」
「これじゃ話もできないじゃない」
そう言われても……。
（あたしはあんたと話すことなんかなんにもないっていうか、話したくないからわざと離れて歩いてるっていうか……）
だけどいくらほんとにきらいな相手にでもそんなことはっきり言えないよね。
だってほんとの気持ちを口にするのってけっこうエネルギーがいるんだよ。
たとえばそれが「スキ」でも「キライ」でも。
あたしはなんにも答えないままそっぽを向いてた。
（ううう。やだなぁ。こういう雰囲気）
こういうのがいやだからずっとずっとハルのこと避けてきたっていうのに、なんでこんなことになっちゃうわけ？

あー、もう、サイテー。
おおげさなくらいでっかいハルのため息が聞こえる。
「はぁ……」
次の瞬間————。
いきなりガバッと右腕をつかまれてあたしはビビった。
「えぇっ!? な、な、なにっっっ!?」
「いいじゃない。今はあたしらふたりしかいないんだもん。せっかくだから仲よくしようよ」
「はあ!?」
「それにあんまりゆっくりしてると時間なくなっちゃうよ」
な、な、なんで?
(なんでそうなるの???)
びっくりして固まっているあたしの腕をつかんだままハルがあたしを引きずって歩き出す。
ひどい。
(こんなの強引過ぎるよ)
あたしは抵抗しようと思った。
だけどなぜかそれもできなくてムリやりハルに引っ張られていく。
ヤバいよ。
これって完全にハルのペースだよ。
(あたしなんか流されてる気がする……)
たぶんハルから恋愛成就のお守りをついうっかりもらうことになっちゃったのがマズかったんじゃないかな。
あれを突っ返せなかったのが痛かった。
あれからなんかハルに対する気持ちが弱くなっちゃったみたい。
(ハルのこと大っキライっていう気持ちはちっとも変わっていないはずなのに……)
くやしいんだか悲しいんだかうじうじしてるあたしが腹立たしいんだか。
あたしの胸の中には自分でもよくわかんない気持ちが渦巻いてた。
でもどうしていいのかわかんない。
どうにもなんないままくちびるをぎゅっと噛み締めてハルに引きずられていくだけ。
そのうちに人がいっぱい集まっているのが見えてきた。
そっちのほうを指差してハルがはしゃいだ声を上げる。
「あっ。水! 水が流れてる! ねぇねぇ、ヤマネ。もしかしてあれが音羽の滝!?」
ハルが指差したほうには小さな屋根が見えた。
屋根の下からは雨どいみたいなのが三本伸びてて、そこからきれいな水がちょろちょろって感じに流れて落ちてる。
「滝って言うからもっと水がいっぱい流れてるのかと思ってたのに、なんかショボ〜い」
やっとハルの手が離れた。
あたしはさっと腕を引っ込めてハルに背中を向け、ハルがつかんでいたところを反対の手でこすりながら言ってやる。
「そんなこと言ったらバチが当たるよ」
「え? そうかな?」
「そうだよ。昔っからご利益があるって言われてるありがたい滝なのに」
実はあたしもハルと同じことを思ってた。
意外とショボいんだなーって。
(だけどハルに同意するなんてシャクだもん)
だからわざと逆らってやったんだけど……。
「へー。そーなんだー。もしかしてレイケンアラタカってヤツ?」
途端にハルの目が真剣になる。
「じゃ何? 何に効くの?」
「えー?」
「ご利益だよ。ご利益。ヤマネ、知ってんでしょ。ねぇ教えてよ」
「……」
ショボいって言ってたくせに。
(ほんとゲンキンなヤツ)
無視してやってもよかったけど無視して逆にしつこくされるのもいやだし、あたしはしぶしぶ口を開いた。
「……向かって右が長寿、真ん中が恋愛、左が学問成就にご利益があるって言われてるよ……」
「おおっ。長寿に恋愛に学問成就! 太っ腹だね。三つもかなえてくれるんだ!」
「だけど」
とあたし。
「その中から一つだけ選ばないといけないんだよ。でないとご利益ないんだから」
「えーっっっ? そうなの???」
「うん。それに飲むのも一口だけ。それ以上飲むとご利益半減しちゃうんだから」
「うそーっ。そんなのアリ???」
がっくりとハルが下を向く。
「神さまってケチだね。わざわざ三つのお願いを用意しておいてその中の一つだけしかかなえてくれないなんて、そんなの残酷だよ。迷う人たちを見て面白がってるとしか思えないな」
「ここはお寺だから『神さま』じゃなくて『仏さま』だよ」

「え？」

ハルの目が丸くなった。

「ああ。そっかー。そうだよね」

きゃははっと声を立てて笑ったあとでハルが滝のほうを見て言う。

「でも……よーく考えたらそっちが正解かもね」

「え……？　どういうこと……？」

「だーかーらーご利益のこと。仏さまが一つしか願いをかなえてくれないっていう話」

それが？　何？

（正解って？？？）

やっぱりハルの言いたいことがわからなくてあたしはハルのほうを見た。

それに気づいたみたいにハルが振り向いてあたしの顔を見る。

「あたし思ったんだけどぉ、わざわざ三つのお願いを用意しておいてその中の一つだけしかお願いを聞いてくれないってことはさぁ、要するにー、ほかの二つはかなわなくてもいいからとにかくこれだけは絶対にかなえてほしいっていう強い願いだけ聞いてあげましょうってことなんじゃないのかなぁ」

「強い…願い……」

「そのくらい真剣にお願いする人だけにご利益を与えてあげましょうってことなんだよ。たぶん」

あたしはハルを見てた。

ハルもあたしを見てる。

（あ……）

ハルって意外とキレイな目してるんだ。

キラキラしてて見てるとちょっとまぶしい。

なんだか胸がドキドキしちゃうよ。

って――――。

はっ。

（あたしってば何やってんのよ？）

ハルと見つめあってたって事実だけでもうえ～ってカンジなのに、ハルの目がキレイだなんて思ってついでにドキドキしちゃったりなんかして。

（うわ～っっっ）

我ながら頭おかしいんじゃないの？？？

あたしはあわてて目をそらす。

（うー。ヤバいヤバい）

ハルが珍しくまともなこと言うからついついつられてこっちまで調子狂っちゃった。

ダメだよ。マズいよ。

これ以上ハルに巻き込まれちゃいけないよ。

（あたしはあたしのペースを守らなきゃ）

あたしの態度は思いっきり不自然だったけど、ハルはそんなこと気にもしていないみたいにあっさりと言った。

「ま、いーや。そういうことなら真剣に考えないとね。ヤマネはどれにする？　何を願う？」

「……」

「中学生としては学問成就を選ぶべきだよね。でもオトメとしてはやっぱ恋愛成就ははずせないしなー」

「……」

あたしはなんにも答えない。

（だってウカツに答えるとなんかハルのペースに持ってかれちゃうんだもん）

こういう時は黙ってるほうがいいんだよ。

でもハルはしつこくて。

「ねぇねぇ、ヤマネ。ヤマネは誰か好きな人とかいないの？」

「えー……？　あたしは……」

「いいじゃんいいじゃん。教えてよ。誰にもナイショにしとくからさぁ」

「……」

興味津々の目ですり寄ってこられてあたしは急いであとずさる。

そりゃあたしにだってちょっといいかもと思った男の子はいるよ。

カッコいい子とか親切にしてくれた子とかに少しくらいはドキドキしたことがあるし、それなりに仲のいい子とかもいたりしたんだから。

だけどあの滝の水に真剣にお願いしたいほど誰かを好きになったことはまだ一度もない。

好きな人なんて今はいない。

でもだからってどうしてそれをハルなんかに教えなきゃいけないわけ？

「やだ。教えない」

あたしはきっぱり宣言した。

「なんで？」

「なんでってフツーこういうこと教えないし第一聞いたりしないよ」

そうだよ。

（そういうのデリカシーがないって世間では言うんだから）

もっともハルにデリカシーなんてものがあったら入学式の時あんな行動は取らないと思うけど。

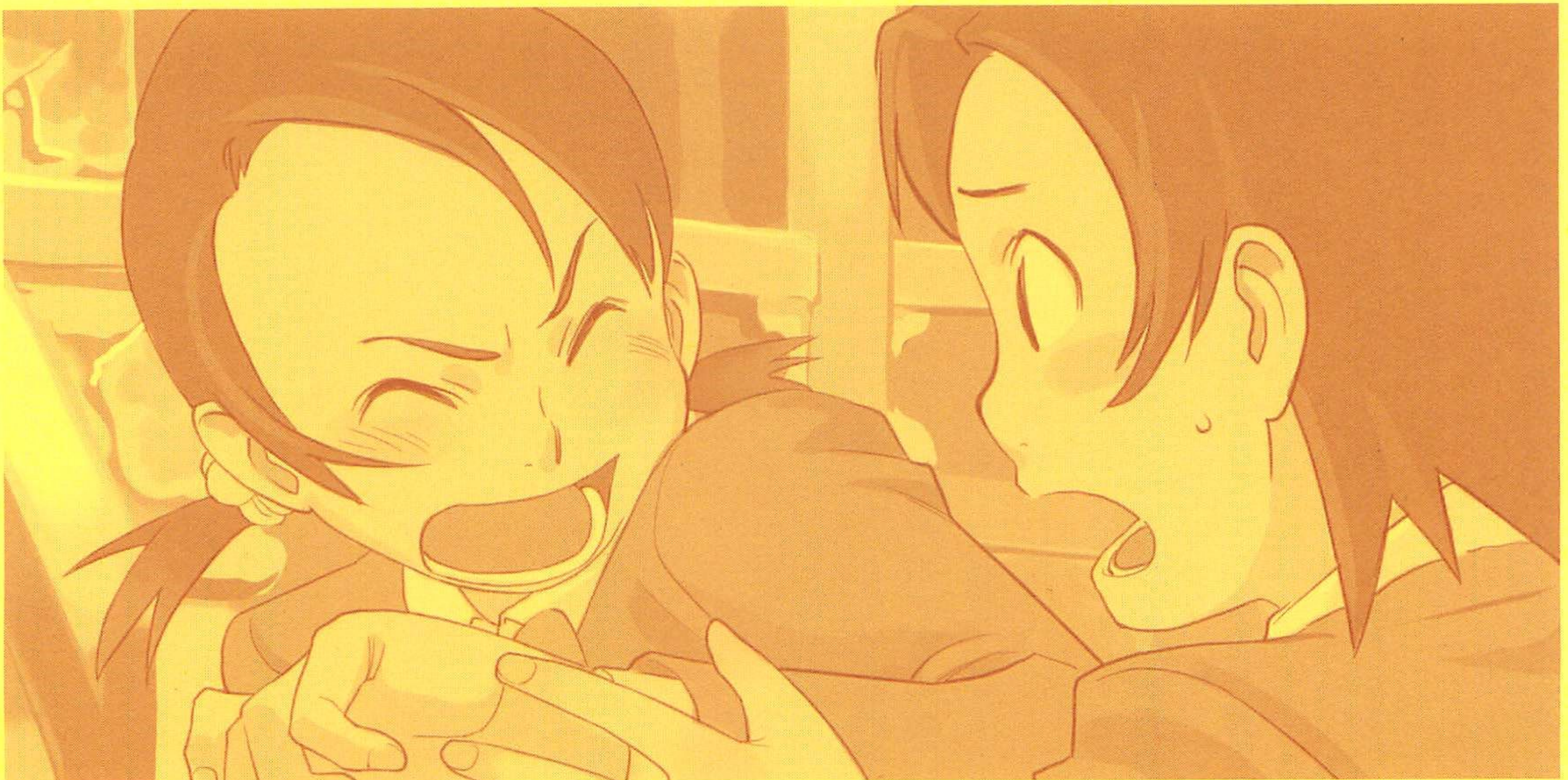
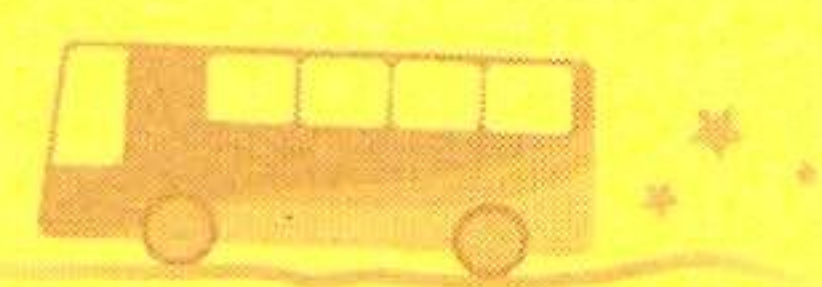
「鷹村さんだって言えないでしょ」

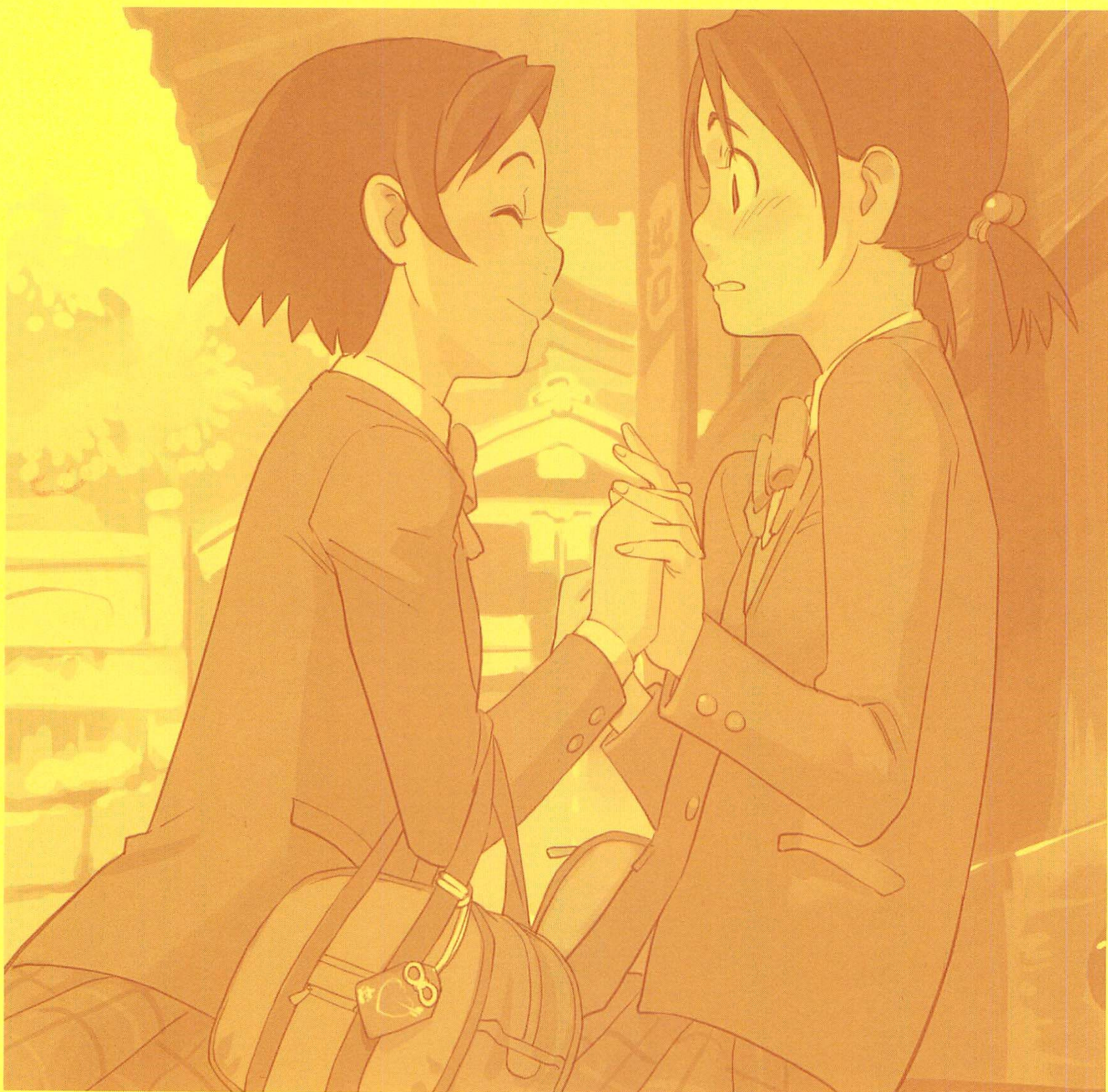
「あたしぃ？」

「あたしに好きな人のことなんか教えられないでしょ？」

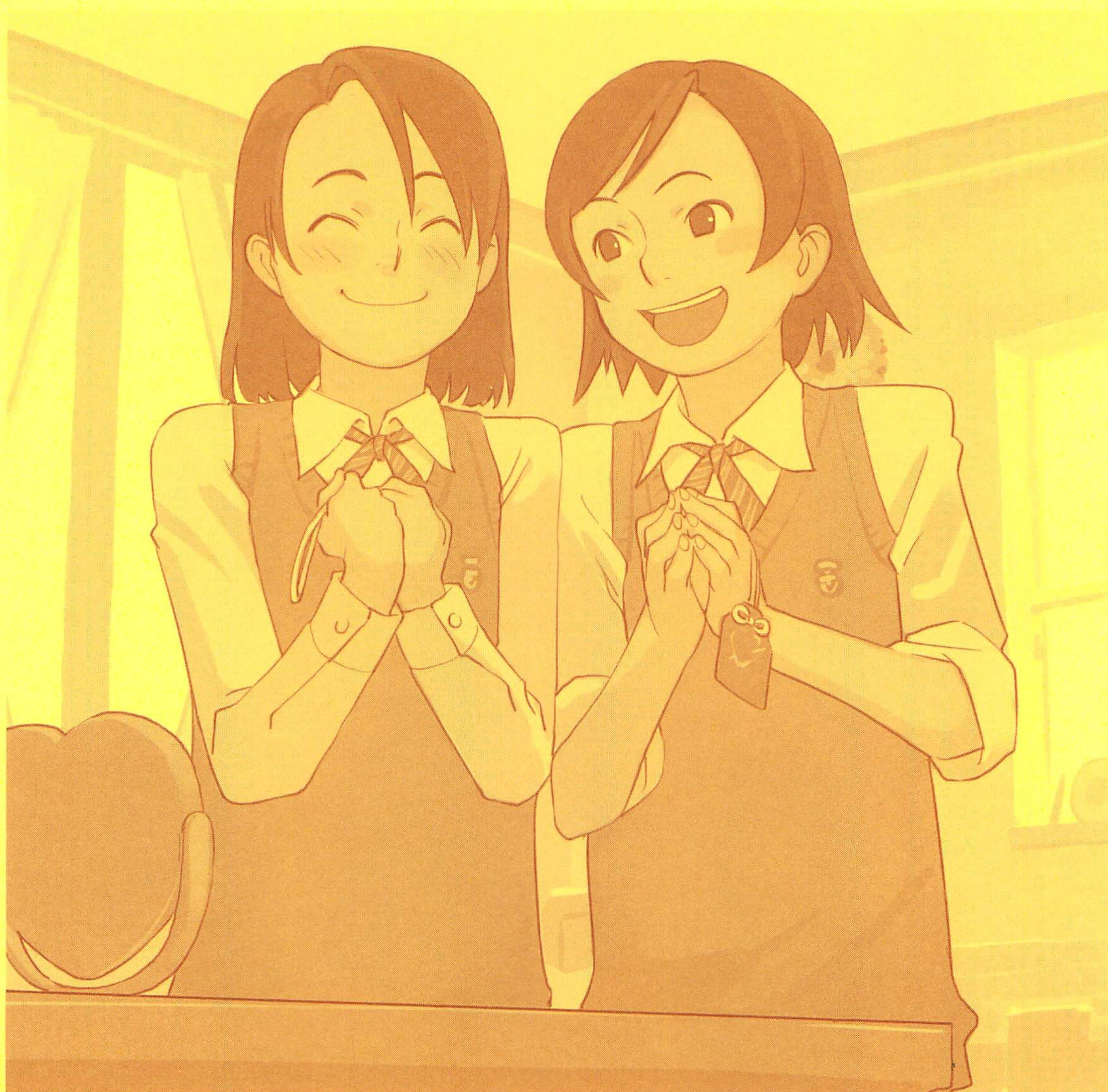
別にハルの好きな人のことなんか聞きたいわけじゃなかった。

そんなふうに言えばきっとここでこのお話はオ

ワリになるって思ったから言ってみただけ。
ほんとうは……。
(あたし知ってるよ)
ハルがサッカー部のキャプテンとうわさになってること。
ふたりで一緒に仲よさそうに歩いてるところを目撃したことだってあるんだから。
だから縁結びのお守りだって買ったんでしょ？
でもそんなこと絶対に認めないだろうな。
(とぼけるに決まってるよ)
そう思っていたのに……。
「いるよ。好きな人」
「え？」
「その人のこと一年の時からずっとずっと好きなの。すごく好き」
そんなふうに言われてあたしのほうがちょっとびっくりした。
ハルの声はなんだか歌うみたいで。
視線はうっとりと遠くを見てるみたいで。
なんとなく見てはいけないものを見てしまったような気持ちになってあたしは下を向く。
知らなかった。
(ハルってこんな顔もするんだ……)
それってほんとにその人のことが好きだから？
だから地主神社でお守りを買ってきたの？
滝を見る目も真剣だったの————？
頭の中がカッと熱くなった気がした。
(もうやだ)
これ以上ハルのそばにいたくないよ。
ハルの顔を見たくない。
あたしはハルのことはほっておいて歩き出した。
「ちょっと待ってよ。ヤマネ」
ハルがあたしを呼び止めようとするけど、でもそんなの無視。
「ヤマネってば！」
聞こえないふりしてあたしはずんずん歩いていく。
なんでかよくわからないけどイヤって思った。
真剣な恋をしてるハル。
好きな人もいないあたし。
自分がものすごくコドモに思える。
ハルのほうがあたしよりずっとずっとオトナな気がして……。
「ヤマネ！」
うしろから追いついてきたハルがあたしの肩をつかんだ。
「離してよ！」
あたしは乱暴にそれを振り払う。
だけどハルは今度はあたしの腕をつかんであたしを強引に引きとめ言った。
「なんで逃げるの？」
「……」
「ひとりで行っちゃうなんてひどいよ」
あたしだってハル以外の人にはこんなことしないよ。
でもハルといるとあたしフツーじゃいられなくなる。
イライラしてもやもやして頭がぐちゃぐちゃになっちゃうんだよ。
あたしはなんにも答えなかった。
ハルがそんなあたしを見てため息をつく。
「あのさぁ、あたし一度ヤマネに言いたいことがあるんだけどさぁ」
言いたいこと？

「ナニ？」
「だからさぁ、ヤマネってさぁ、あたしのことなんか避けてない？」
あたしは正直に答えた。
「避けてるよ」
「なんで？」
「だってあんたのことキライだから」
言ってやった。言ってやった。
今ならなんでも言えそうな気がする。
今までずっと心の中にためてきたもの全部吐き出せそうだよ。
「なんで？」
ハルが大きなため息をつく。
「なんであたしのことキライなわけ？」
「だって」
とあたし。
「だってあたしのこと笑いモノにしたじゃない」
「笑いモノ？　あたしが？？？」
あたしはこくんとうなずいた。
だけどハルはちっともわかってなくて。
「え？　あたしなんかしたっけ？」
「はあ？」
「ヤマネにキラわれるようなこと？　えー？　したかなぁ？？？」
いかにも身におぼえがありませーんっていうその顔を見たら余計に頭にきた。
信じられない？
自覚ナシ？？？
あたしをこんなに傷つけておいてその態度ってどうよ！！！！
「入学式の時のことおぼえてないの!?」
「入学式？？？」
「あんた笑ったじゃない。だから…その……風が吹いてあたしの……あの……スカートがふわってなって……パ、パンツが見えて……」
うわーやだやだ。
(思い出しただけで恥ずかしくなってきちゃったよー)
顔が熱い。
鏡なんか見なくても自分が真っ赤になってるってわかるよー。
あたし的にはほとんど決死の覚悟で口にした言葉だった。
なのにハルったら……。
「ああ！　ひよこのパンツ！」
「大きな声で言わないでよっっっ」
まわりにはたくさん人もいるのにっっっ。
あたしはあわててハルの口をふさごうとした。
ハルはひらっと身をかわして笑ってる。
「なんだ。あんなこと気にしてたのか」
「あんなこと!?」
えーっ？
みんなにパンツ見られちゃって笑われちゃったのに、それを『あんなこと』扱いするわけ？
「あたしはあんなの気にするほどのことでもないと思うけどなー。少なくともあたしは見られても平気だよー」
そう言うとハルは自分のスカートを両手でつかんだ。
「ほら」
ひらん。
きゃーっ。
スカートが！
ハルのスカートがーっっっ！
「バ、バ、バ、バカっっっ。あんたナニ考えてんのよっっっ」
びっくりしてうろたえるあたし。
だけどよく見たらハルのスカートの下はスパッツで。
「なんちって」
あははとハルが笑った。
あたしは笑えない。
逆に頭にきたんだから。
ものすごーくものすごーく！
「だーかーらーあんたのそういうところがキライだって言ってんのよっっっ」
「ほえ？」
「そうやってあたしのこと笑ってるんでしょ？　バカにしてるんでしょ!?」
「あたしは……」
ハルが何か言おうとしてたけどあたしは聞かなかった。
「入学式の時だって見て見ぬフリしてくれればよかったのに、そしたらみんなにだってあんなに笑われずに済んだのに、それをわざわざ『ひよこ』なんて大きな声で言って大笑いして」
「……ヤマネ……」
「あたし傷ついたんだから！　お母さんがもう少しやさしかったら本気で不登校になっちゃうくらい傷ついたんだから！」
「……」
「全部あんたのせいだからね！　あんたがあたしのこと傷つけたんだからね！」
「……」
「だからあたしはあんたのことが大大大っキライなの！　わかった!?」

ぜいぜい。
イッキに言ったら息が切れちゃったよ。
でも言いたいこと言ってスカッとした。
これでハルだってあたしの気持ちよーくわかったよね？
そう思ったのに……。
ハルの図々しさはあたしの想像以上だった。
「それでもあたしはヤマネのこと好きだよ」
「はあ!?」
「ヤマネのお母さんが厳しくてほんっとよかったぁ。だってヤマネがマジで不登校になっちゃってたらさぁ、こうやっていっしょに修学旅行に来られなかったもんね」
ついでににっこりなんて笑いかけられてあたしはボーゼンとしてた。
（えぇ？　どういうこと？　ハルってばいったいナニ言ってんの？）
わかんない。
意味わかんないよ。
あんなにキッパリハッキリ「キライ」って言ったのに。
（どうしてそんなにヘラヘラしてられるわけ？）
なんであたしの気持ちわかってくれないの？
「それにさぁ、言っとくけど……」
ハルがあたしをじっと見る。
「あたしヤマネのことバカにしてなんかないよ。入学式の時のことだって笑いモノにしようなんて思ってなかったもん」
「だったら！」
あたしは大きな声で反論してた。
「だったらなんであんなに笑ったのよっ!?」
「だって……」
「なによっ」
言いたいことがあるなら言いなさいよっ。
「……だってぇ、あの時のヤマネマジかわいかったんだもーん」
「はあ!?」
「かわいいから笑ったんだよ。バカになんかしてないもん」
か、かわいい……？
「って、まさかひよこのパンツが……？」
「ひよこのパンツもかわいかったけどー、『見られてない？　見られてない？』ってカンジにまわりを見回してるのがすんごいかわいくてさー」
「は……？」
「あんまりかわいかったからちょっとふりむいてほしくて『ひよこ』って言ってみたら、今度はヤマネ真っ赤になっちゃってそれがまたかわいくてかわいくて」
あんたアタマくさってんじゃないの!?
ってあたしは言おうとした。
でも言えなかった。
ハルのほっぺたがぽっと赤くなってる。
恥ずかしそうっていうか照れてるっていうか。
そんなカンジに横を向いてる。
「それって……どういう意味……？」
おそるおそるあたしは聞いた。
「だーかーらぁ『好き』って言ったじゃん」
「え……？」
「あの瞬間あたしヤマネのことが好きで好きでたまらなくなっちゃったんだー」
きゃっ。言っちゃったー。
なんてハルははしゃいでる。
あたしの頭はめまいでぐるぐる。
（ナニ？　ナニ？　それってどういうこと？　現実にアタマがついていかないよーっっっ）
これってなんかたちの悪い冗談だよね。
それとも悪夢？
そうであってほしいって思いながらあたしは聞いた。
「す、好きって…それ『友情』の『好き』…だよね？」
「チガうよー。『恋愛』の『好き』」
ああっ。そんなにあっさり。
「あたし女の子だよ……？」
「そのくらい知ってるよ」
「女の子同士でそんなことありえるの……？」
「だってしょうがないじゃない。好きになっちゃったんだもん」
あたしは凍りついたみたいに動けなくなってた。
それじゃ地主神社でおそろいのお守りを買ってきたのはそういう意味？
だからハルは『誰か好きな人とかいないの？』なんて聞いたの？
そうだよ。
ハルは言ったじゃない。
『いるよ。好きな人』
って。
『その人のこと一年の時からずっとずっと好きなの。すごく好き』
って――――。
それってまさか……。
（あたし!?）
うわさになってたサッカー部のキャプテンじゃなくて？？？
うそ……。

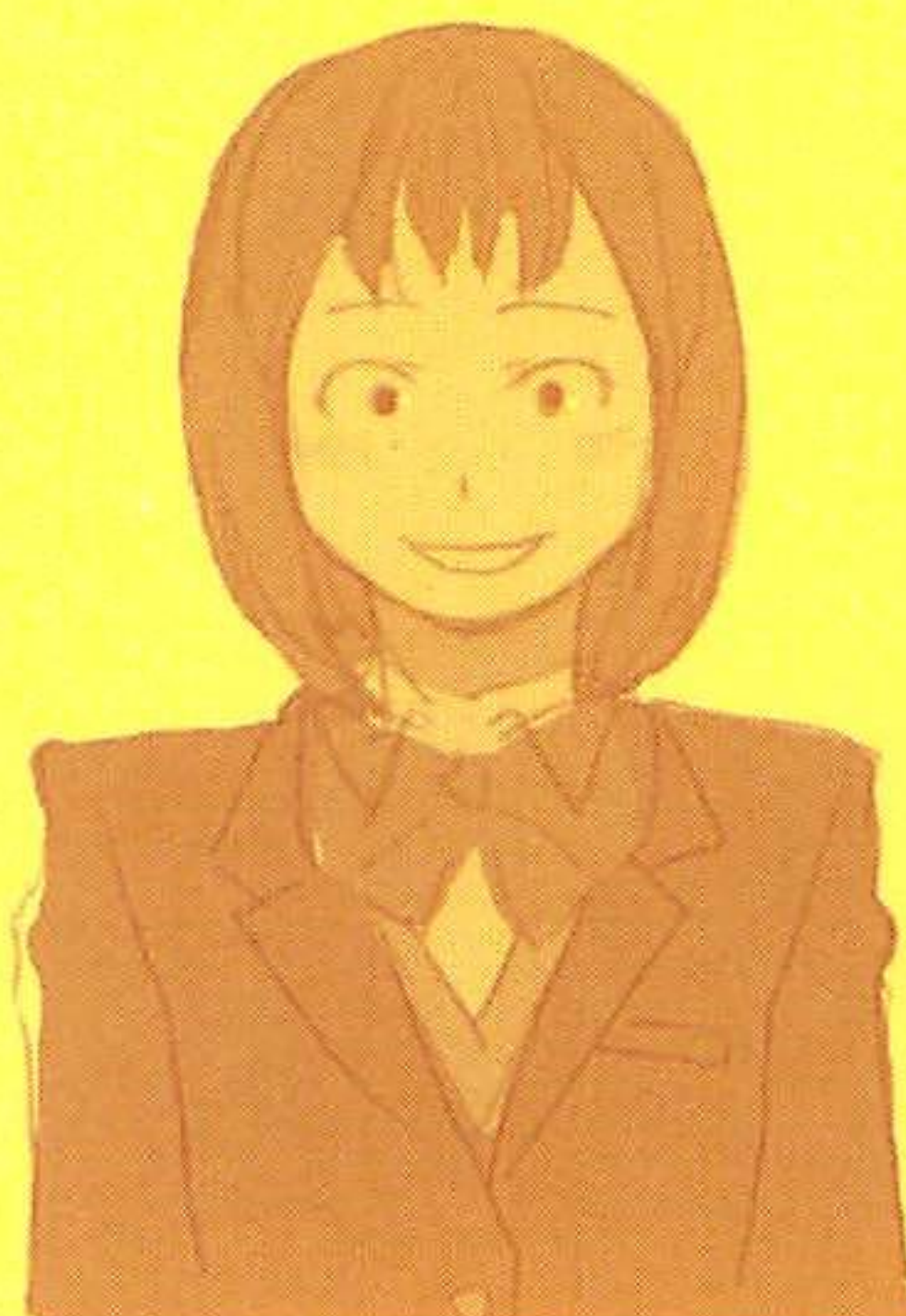
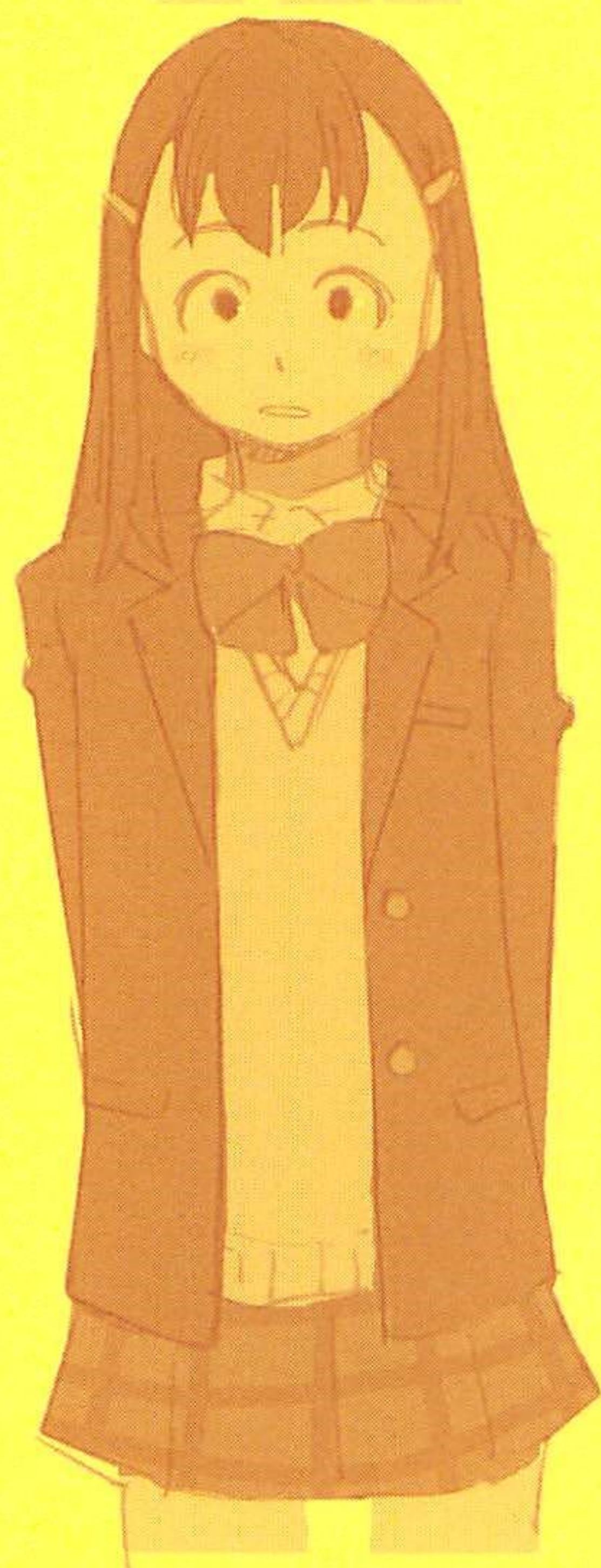
そんなこと信じられないよ。
ハルだって絶対あたしのこときらってると思ってたのに。
どうしよう？
なんだか胸がドキドキしてきた。
だって誰かに『好き』なんて言われたの初めてなんだもん。
好き？
ハルがあたしのこと好き……？？？
「えぇっ……？」
カーッと顔が熱くなる。
「えぇぇぇぇぇっ!?」
首筋も耳もほっぺたもきっと真っ赤……。
そんなあたしを見てハルがくすくすっと笑った。
「ヤマネってば真っ赤になっちゃってほんとかわいいっ」
言い返すこともできないでいるあたしの手を突然ハルの手がぎゅっとにぎる。
（ハルの指やわらかくてあったかい……）
さっきまでハルにさわられるなんて絶対にイヤって思ってたけど、今は……。
（なんか気持ちいいかも……）
もしかしてあたしほんとはハルと仲よくしたいと心のどっかで思ってたのかな？
だけどそれを認めたくなくて、だから余計に『ハルのことなんか大キライ』って意地張ってたのかな？
ハルの顔が近づいてくる。
あたしの耳元でハルがささやく。
「あたしヤマネのこと大好きだよ」
次の瞬間――――。
指よりももっとあったかくてやわらかいものが

あたしのほっぺたにちゅっと押し付けられた。
（これってキス……？）
あたしハルにキスされちゃった……。
「な、な、なにすんのよっ！　だ、だ、だ、誰かに見られたら……！」
「大丈夫だよ。一瞬だったし誰も見てないって」
「で、で、でも……」
「どうしたの？　何が不満なわけ？　もしかしてほっぺたよりくちびるのほうがよかった？」
「……！」
熱かった顔がもっともっと熱くなった。
今のあたし真っ赤を通り越してまっかっかだよ。
ボーゼンとするあたし。
くすっと笑ってハルが空を指差す。
「行くよ！」
「えっ？　ど、どこに？？？」
答えはなかった。
それよりも先にハルはもう走り出してる。
走る。
ハルが走る。
引っ張られてあたしも走る。
つないだ手からハルの心臓の音が伝わってくる。
ハルっていう名のつむじ風にさらわれてあたしまで風になったみたいだよ――――。
音羽の滝の奥の階段を駆け上がって奥の院から本堂にたどりついて。
そこでようやくハルが手を離してくれた。
「はあっ……はぁ……」
（ううっ。息が苦しいよぉ……）
いきなりダッシュは、やっぱり、キツいって。
「いったい……なん…なのよ……」
まともにしゃべるのもムリ。
なのにハルは息一つ乱れてないなんてなんかズルいよー。
「あたしは……ハル…みたいに…運動神経抜群じゃ…ないん…だから……」
思いっきり文句を言ったつもりだったのにハルはくすっと笑った。
「やっと『ハル』って呼んでくれたね」
「あ……」
ドキッ。
あたしの胸で心臓が大きくはねる。
どうしよう？
（あたしものすごくドキドキしてる……）
相手はハルなのに。
こんなのおかしくない？
でも……。
止められないよ。
頭の中がハルでいっぱいになっちゃうのを自分でもどうすることもできないよ――――。
「あ、あたし……あたし……」
バカみたいにうろたえてるあたしにもう一回にこって笑いかけて、それからハルは清水の舞台のほうに向かって手を振る。
「あっ。渋谷さんがいる！　ねぇ。写真とってもらおうよ」
「えぇっ!?」
「渋谷さーん！　とってとってー！」
渋谷さんは写真部の部長さん。
だから特別に修学旅行にもカメラを持ってきてる。
　ハルに呼ばれてこっちに向けたカメラも本格的なおっきいカメラだ。
（困るよ……）
こんな時にハルとツーショット写真だなんて。
（心の準備ができてないよーっ）
「ほら。ヤマネ。笑って笑って」
ハルがうしろからぎゅ～っと抱き締めるみたいにあたしの肩に手を回した。
「そ、そんなこと言ったって……」
「はい。ちゃんとカメラのほう見て。チーズだよ。チーズ」
もう何がなんだかわからなかった。
頭の中はぐちゃぐちゃ。
逃げることも抵抗することもできなくて。
あたしは引きつった笑顔をカメラに向けた。
ハルはあたしの肩に回した手に少しだけ力を入れて視線は前に向けたままあたしの耳元でそっとそっとささやく。
「やっとつかまえた……」
「へ……？」
「美紀とこうしてるとすごく気持ちいいよ……」
美紀？
聞きまちがいじゃないよね？
（今『美紀』って呼ばれたような……？）
それに気持ちいいって……？？？
「えぇぇぇぇっ!?」
「ねぇ、美紀。美紀は女の子が女の子を好きになるって変だと思う？」
「……あ、あの……その……それは……」
「あたしは美紀のことがほんとに好き。美紀もあたしのこと好きになって」
「だ、だ、だから……、え、えーっと……」
その瞬間、遠くでシャッターの音が鳴り響いて……。

ピンポーン♪
　玄関でチャイムが鳴ってた。
　あたしはほっと息をついて手に持っていた写真を机の上にもどす。
「美紀〜っ。お迎えよ〜。用意できてる〜？」
　下からお母さんの声が聞こえてきた。
　あたしは自分の部屋のドアから顔だけ出してお母さんの声に答える。
「ごめん。お母さん。上がってもらって」
　すぐに勝手知ったるってカンジで階段を上がってくる足音が響いてきた。
「おはよ。美紀。用意できた？」
　顔を出したのはハル。
「ごめん。あとちょっと」
「急がないと遅刻するよ〜」
　そう言いながらハルが部屋の中に入ってきた。
　あたしとハル。
　今は同じ高校に通っている。
　ハルの家とあたしの家はそんなに近いわけじゃないけど、ハルは毎朝少しだけ遠回りしてあたしの家まで迎えにきてくれるんだ。
　クラスは別。でもあたしたちはいつもいっしょ。
（前はあんなにハルのことをきらってたのに、なんか不思議だよね）
　そんなことを考えながらあたしが鏡を見て髪をとかしているとハルが急に声を上げた。
「うわ。この写真修学旅行の時のじゃない」
　さっきあたしが机の上に置いておいた写真を発見したらしい。
　ハルが手にした写真には目いっぱいの笑顔のハルとびっくりし過ぎてものすごーくマヌケな顔になっちゃってるあたしが映ってる。
　そう。それは修学旅行の時清水の舞台でとってもらったあの写真。
　どこがよかったのか、あの写真は修学旅行のあと全国中学生コンクールとかいうもので金賞を受賞したんだそうだ。
　写真自体はものすごくキレイにとれてるけど、でも……。
（もうちょっとかわいく写ってるので賞を取ってくれたらよかったのにぃ）
　被写体としては心からそう思うけどね。
「ナニ？　美紀ったらこんなの見てたの？」
　ハルがニヤニヤ笑いながらあたしの顔を見る。
「もしかして思い出にひたったりとかしてた？」
「違うよぉ。写真の整理してただけだって」
「いいじゃん。いいじゃん。照れなくっても。あたしにとってもこれって思い出の写真だもん。なんたってこの時美紀に告白したんだもんね。記念写真だよ」
　ハルはまぶしそうに写真を見つめてる。
　あたしも横からのぞき込む。
「なつかしいね」
　とハル。
「うん。なつかしい」
　とあたし。
　たった二年前のことなのにあのころのことがものすごく遠く感じるよ。
　ハルのことがキライだったあたし。
　修学旅行でハルと同じ班になってめちゃくちゃショックを受けてたあたし。
　それから突然ハルに『好き』と言われてバカみたいにうろたえてたあたし……。
「ハル、めちゃくちゃ強引だったよね」
　思い出してあたしは文句を言う。
「突然あんなこと言われたら誰だってビビるよ。ほんっといきなりだったもん」
　肩をすくめハルが反論した。
「あたしだって必死だったんだよ。なんたって美紀鈍感なんだもん。あたしの気持ちなんか全然気づいてくれないしさぁ」
「えー？　あたしのせい？　違うでしょ。ハルの愛情表現ってわかりにくく過ぎなの」
「そうかなぁ」
「そうだよ」
　言い合ってあたしたちは顔を見合わせふたり同じタイミングで笑い出す。
　ハルが言った。
「ほんとはさ、あたしだってあの時すごくドキドキしてたんだよ」
「ほんとにー？」
　そんなふうには見えなかったな。
　ハルは図々しいくらい堂々としてたよ？
「ほんとだってば。でも修学旅行の間に絶対告白しようって決めてたんだ。美紀と同じ班になったって知った時は神のお告げだと本気で思ったもん。これは神さまがあたしに『告白しろ』って言ってるんだー、ってさ」
「それで地主神社に行ったんだ」
「そう。あのお守りは効果あったよね。片思いにきくお守り。何もかも縁結びの神さまのお陰だよ。

ありがとうございます。神さま」
なーんてさ。
ハルってばあの日音羽の滝でけっこう不信心なこと言ってたくせに。
あいかわらずゲンキンだね。
でもそういうとこも好きだけど。
「あの時のお守りまだ大事に持ってるよ」
ハルはカバンの中から青い水玉もようのハンカチを取り出す。
ハンカチの中にたいせつにくるまれていたのは矢が刺さった金色のハートが中心にでっかく刺繍してある赤いお守り。
「あたしも」
あたしはカバンの中から小さいポーチを取り出した。
ポーチの内ポケットにはハルとおそろいのお守りが入ってる。
「やっぱりご利益あったね」
「うん」
「これからも美紀とずっといっしょにいられますように」
ハルが両手を合わせた。
あたしも同じように神さまにお祈りする。
(これからもハルとずっとずっといっしょにいられますように)
神さまに届くように強く強く――――。
お祈りを終わってハルの顔を見るとハルもあたしを見てた。
自分でも無意識のうちにくすっと笑いがこぼれる。
「ふふ……」
ハルも笑ってた。

「ふふふ……。はは……」
「あははは……」
真剣な自分たちが照れくさくて。
でもそれ以上にうれしくてうれしくて……。
ハルがぎゅうっと抱きついてきた。
「美紀。大好き！」
あたしもハルを抱き締める。
「あたしもハルのこと大好きだよ」
それからあたしとハルはくすくす笑いながらキスをした。
ハルの唇はやわらかくてあったかい。
あの日清水でほっぺたにもらったキスと今も同じ――。
「あぁっ。ヤバいっっっ。もうこんな時間！」
時計を見たハルがあわてた声を上げた。
「美紀。そろそろ行かないとマジで遅刻だよっ」
あたしはうなずく。
「うん。急ごうか」
「それじゃ、続きは帰ってからということで」
「バカ」
「うーん。いいっ。美紀の『バカ』はやっぱりかわいいなっっっ」
「ハルってばふざけてばっかり。怒るよっ」
「ふざけてないよー。あたし本気だよー。これ以上ないってくらい、ほ・ん・き」
「もうっ」
あたしたちはまた顔を見合わせて笑って。
それから手をつないで階段を下りる。
あたしたちを包む朝の陽射しはあたしたちを祝福するみたいにあったかかった。

END

*Sub Characters

Photo by
Shibuya-San

子供時間、最後の恋人。

2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008

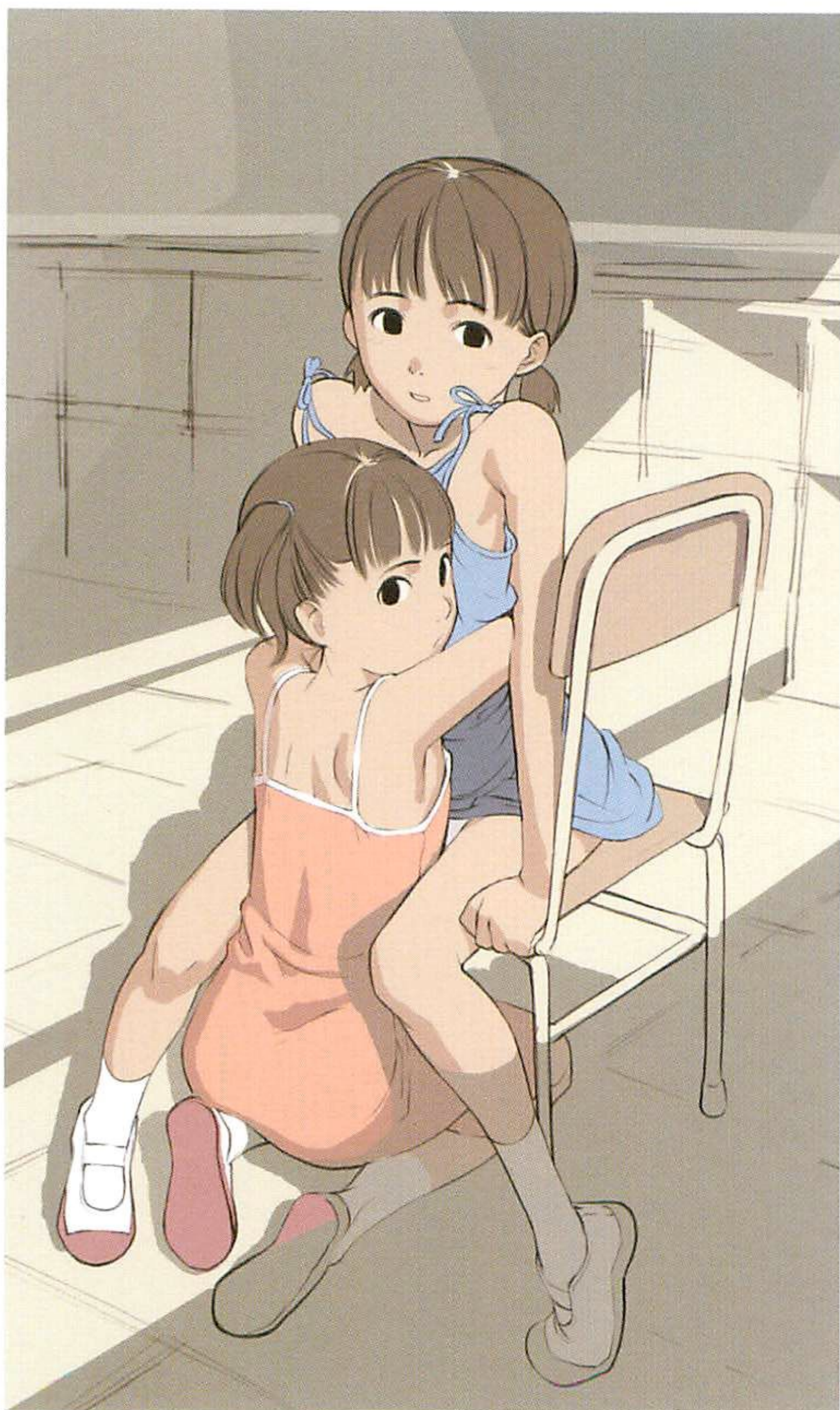
2004年 Vol.11 (DEC)

Creations COMIC LO

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
I am only matchless, I am similar, and I am not anywhere. It is a concept of this magazine.
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

TLW 創作ノート

LO創作の秘密がココに!!　イラストレーターたかみち、デザイナー宮村和生、編集Wのコメントと共に
参考資料（撮影：たかみち）、門外不出のスケッチやラフ画像類を紹介します。
各人がそれぞれに一番気に入ってる表紙も発表します。

COMIC LO Volume. 01

編「エロ雑誌の表紙を受けたのに、何か理由はあったんですか？」
た「少女を描くのが好きというのもありますが、このジャンルだから
こその試みがいろいろありそうでしたので描かせてもらいました。」

Rough Illust*

Finished Image

すべてはココから始まった…

た　本のテーマを汲みつつ自分らしさも失わないよう試行錯誤で出した一枚。ポーズもとらせている感があったりして表紙の中で一番異色ですね。

編　構想約2年でようやく出せたLO、表紙のコンセプトやデザインなどは編集の想像以上に上手くいってしまった奇跡的完成度。すべてはたかみち・宮村和生両氏の凄さ！たかみちさんのイラストに「もう少しだけでいいからパンチラください!!」と土下座する勢いでお願いしたのがいい思い出。

Design Rough*

宮　1号目と言う事で、試行錯誤しつつも、漫画雑誌では今までに無かった…むしろタブーとされるようなデザインをあえて敢行。執筆陣の名前を小さくしてしまって、作家さんご免なさい…。

COMIC LO Volume. 02

Finished Image

た 少女が表現されていればよいという広い自由度を頂いてるんで、のびのびとした姿を描きました。子供らしさへの表現に向かったことで「少女が好きな人が描いた絵」ではなく「少女が好きな人に向けた絵」になったんじゃないでしょうか。

編 最初のLOから半年、当初は「出し逃げ」覚悟のVol.1が思いのほか多くの作家さんに支持されたおかげで、Vol.2はかなり豪華な内容になりました。チラシやポスター（後半ページに掲載）などいろいろ作りました。特にポスターは出色の出来栄え。ポスターデザインの打ち合わせをCDショップでしたのを覚えています。

編「ＬＯの表紙イラストには、何かテーマが？」
た「この号から「自然体の少女」「子供らしさ」みたいなことになっていきましたね。」

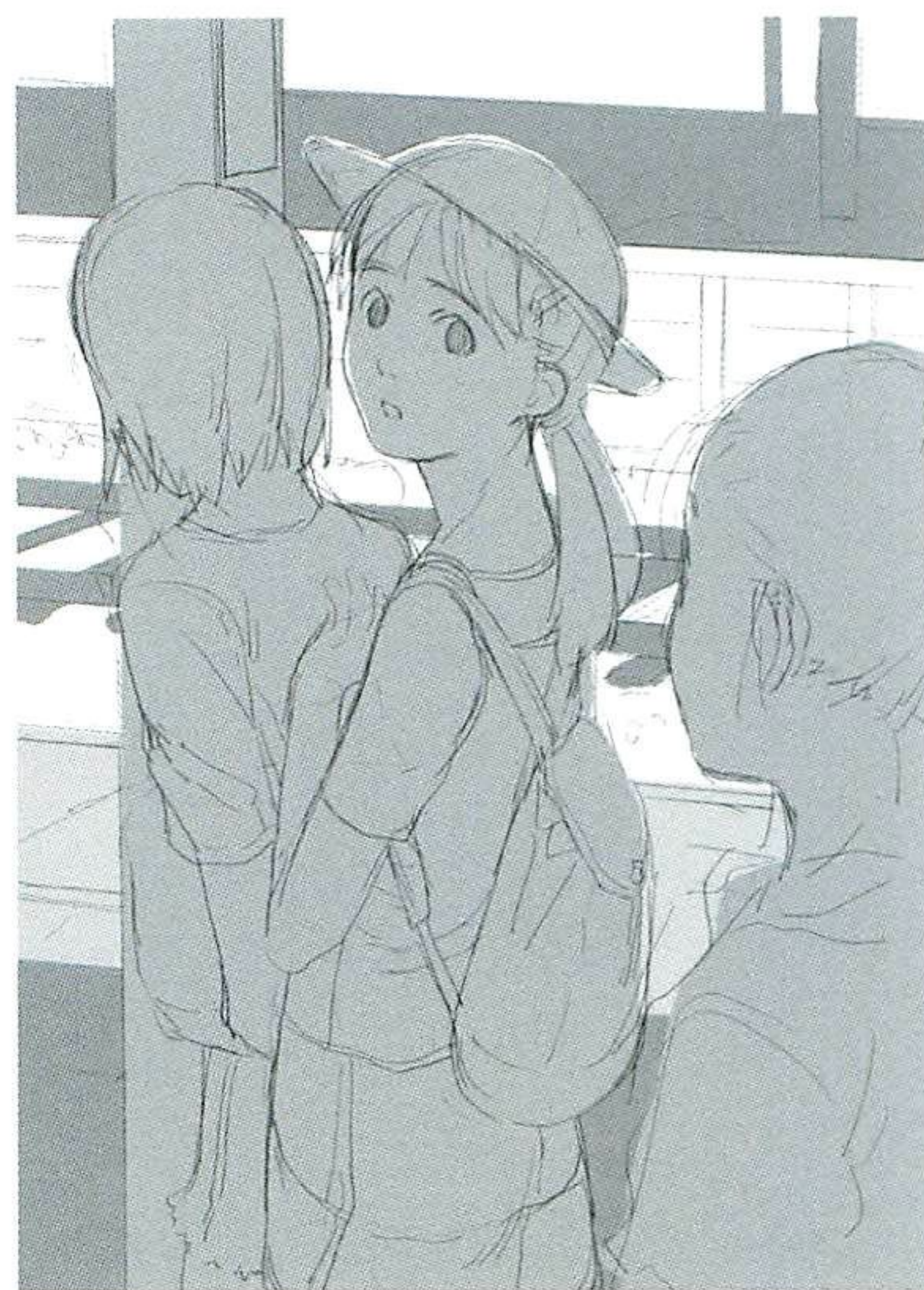
宮 今回掲載を控えさせて頂いているのですが、初期のLOは表3や表4に変わった広告みたいな物も作っていました。変わってた…と言うよりは良い意味でトンがっていたのかもしれません。編集W氏のアイデアにも毎度驚かされっぱなしです!!

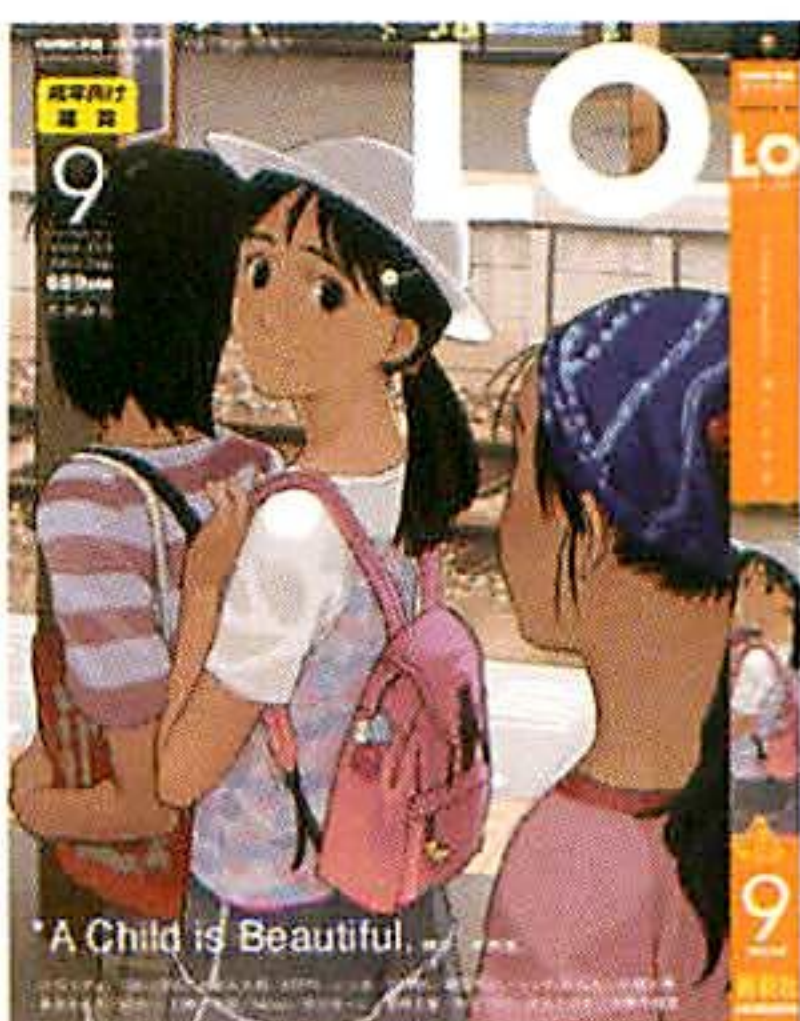
Rough Illust*

Design Rough*

NOT FOR SALE（非売品）

COMIC LO Volume. 03

Finished Image

宮 この頃は寝っころがりながら（苦笑）落書きやノートパソコンでアイデア出しをしてました。背の色のパターンも沢山作って検討してたのを思い出します。

Rough Illust*

た なにげない景色は人物のありのままを表現できるので好き。生きてる感じがするっしょ？

編 Vol.2がとんでもなく好評だったため、急遽作った気合いの号。編集部に一週間寝泊りしたのはこれが最初で最後。人物の陰影と印象の強さをきっちり表現するあたりに、イラストレーターって仕事の凄さを思い知らされました。このあたりから「エロ方向」で表紙を作ることを編集的に放棄しだします。

Design Rough*

編「少女のイラストを描いて、一番楽しいことは？」
た「なだらかなボディーラインじゃなかろうか。LOの表紙ではむしろ描く機会は少ないかも。」

COMIC LO Volume. 04

Rough Illust

た 陰影にいろんな色を入れてます。リアルではないけどこういうのは深みが出るので、塗っていて気持ちいいです。この塗りは主にファンタジー作品などに用いてるけど今回に限り使ってみた様子。

編 独立創刊を目指して準備してたらまた半年以上たってたという Vol.4。独立創刊できなかった主な原因は「世の中の情勢」つまり「バカな犯罪者のせい」。世間と雑誌はもちろんリンクしていることは分かっていても、どこぞの糞犯罪者のせいで自分の生活とか漫画家さんの生活が脅かされることをはっきり知りました。そーゆー状況の中でも表紙のキャッチコピーに「子供」という文字を入れることを止めなかった茜新社は偉い。(嫌がってたけど。) ちなみに、この号に PP 加工が無かったのは「忘れてたから」だということは秘密にしておいてください。

編「そういえばSFみたいなイラストは描いてないですね。ダメじゃないんですが?」
た「掲載漫画の方向性を考慮するとなかなかSFは選択しにくいです。」
編「ごもっとも。今度『SF LO』刊行の暁にはぜひ。」

宮 法定文字、月号表記、成年マーク以外の全ては自由にやってしまえ!! と言うデザインコンセプトは成功だったと思います。特にロゴの大きさが毎号自由に変えられるって最高だと思いませんか!?

Finished Image

Design Rough

さあ、子供達と共に。

さあ、子供達と共に。

さあ、子供達と共に。

COMIC LO Volume. 05

Reference Materials

た わしは寒いのが苦手なので秋の段階から翌年の春の訪れを心待ちにしてます。冬は冬眠でスキップできると最高なんですが。気分だけでも！と机の上にはいつも桜の芳香剤が置いてあります、時々香らせて仮想の春にうっとり。

編 たかみちさんにはずっと「桜の絵」を描いてもらおうと思っていたので、その夢が実現して大喜びの号。勢いでポスターまで作ったり、頼まれもしないのに雑誌の表紙に蛍光ピンクを使ったり、いろいろやってます。イラストレーターさんと仕事をしてすごいなーと思うのは、印刷で出る色と出ない色を使い分けていること。たかみちさんも４色でキレイに印刷できるように毎回描いてくれています。ちなみにこの号から２年ほど「熟女ものがたり増刊」という素敵な発行形態になります。

編「桜は好きですか?」
た「街ごと景色が変わるので好き。」

宮 LOはそのほとんどが4色印刷なのですが、この号では蛍光ピンクを使いました。ロゴも桜色で華やかになりましたネ。

Finished Image

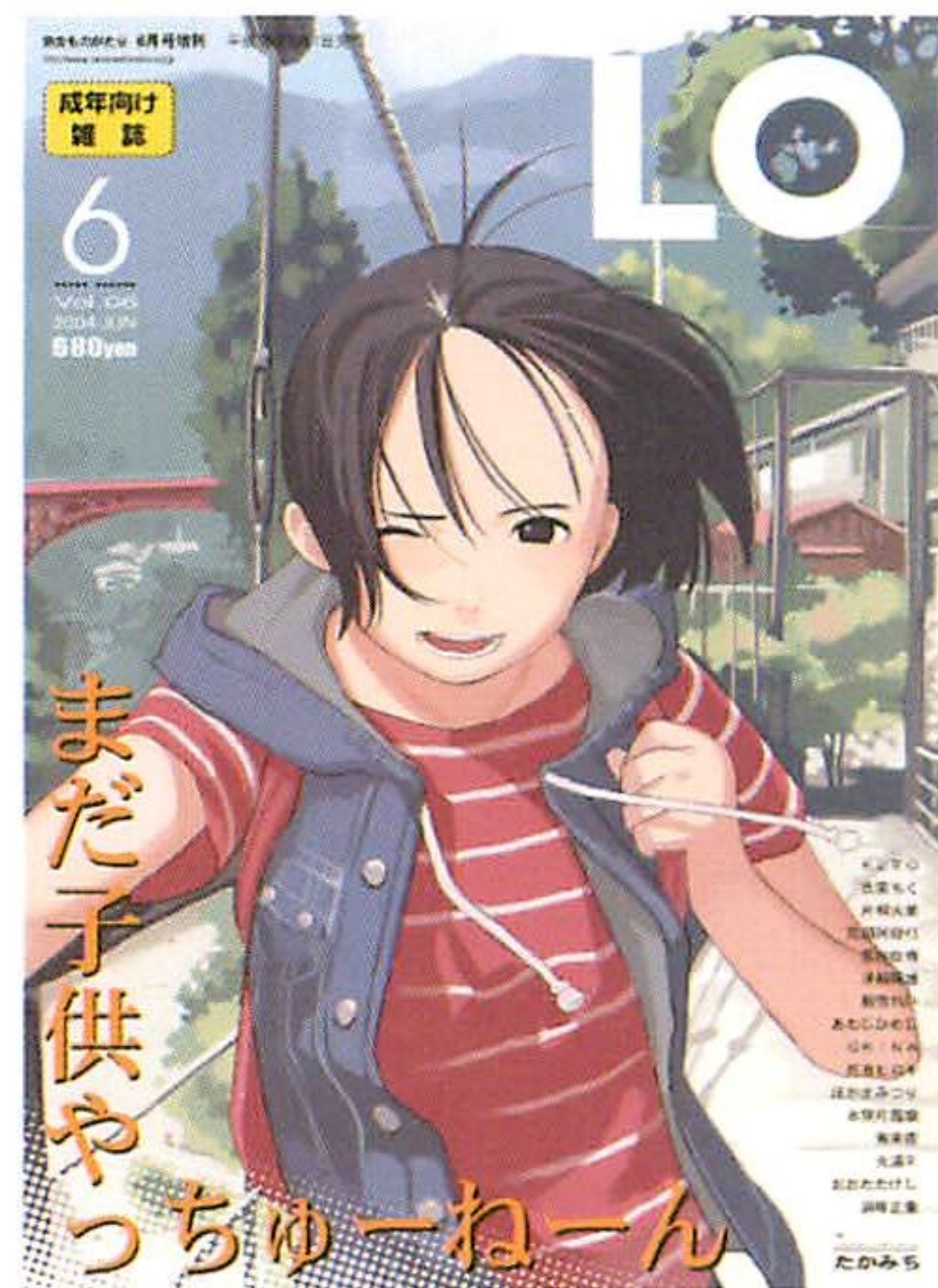
Design Rough

春の子供。

春の子供。

COMIC LO Volume.
06

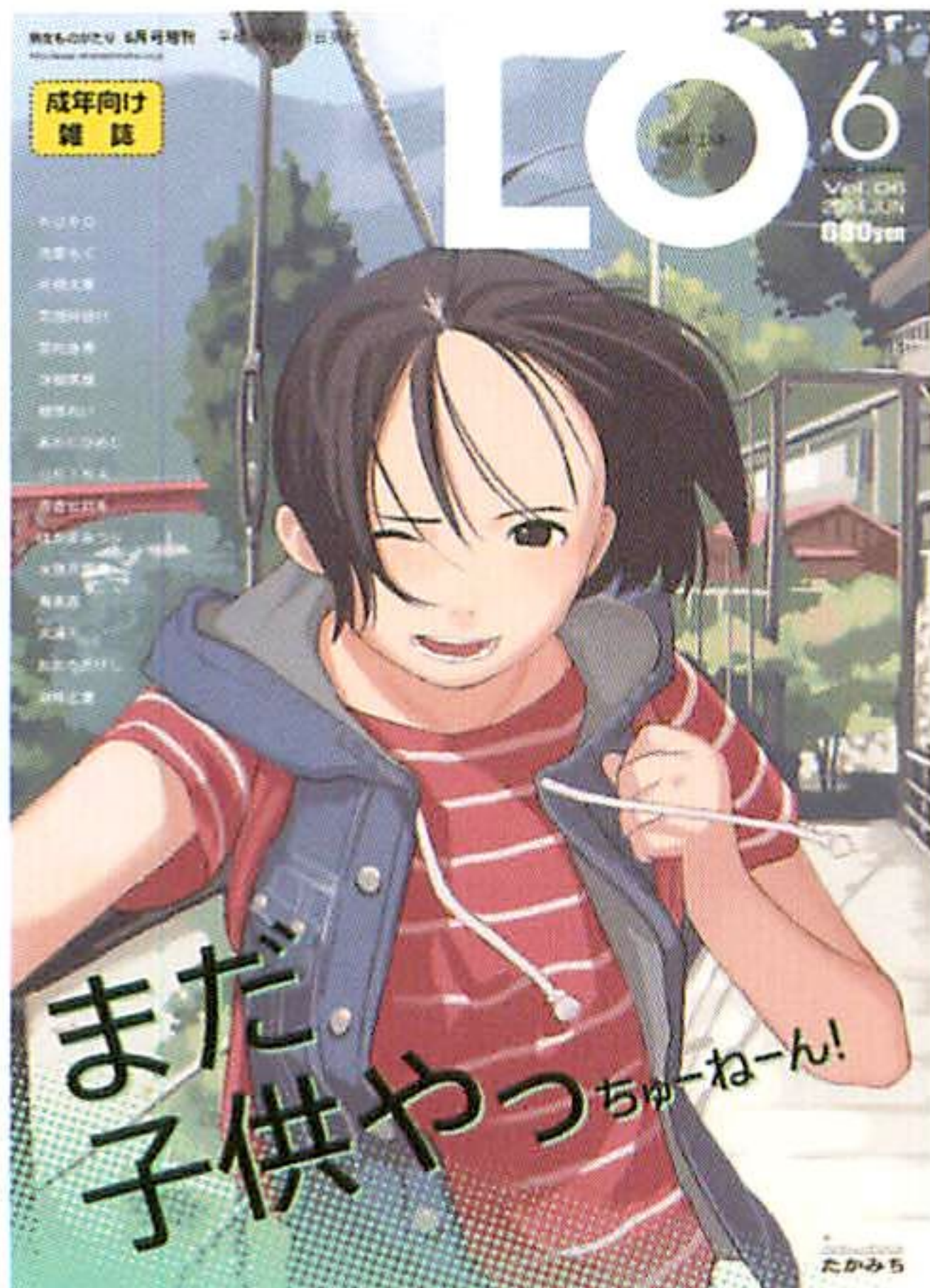
Finished Image

Reference Materials

Design Rough*

た つり橋で風に煽られている様子を描いてみました。奥多摩っぽい場所です。海が好きだけど渓流も好き。

編 めでたくLOが月刊化して２号目。早くもいっぱいいっぱいな編集部に届くたかみちさんのイラストが、どれだけ編集員達の心を癒してくれることか…ありがたや。デザインに関してもまだ編集が未熟なため、いろいろデザイナーさんが四苦八苦している様がよーくわかります。とにかく宮村さんにデザインラフをいっぱい作ってもらって、それに編集が文句言うことでLOの表紙ができているのです。

編「カメラで撮影する楽しみは？」
た「写真に収めておくといつでもそのときの感覚を呼び戻せるので良いです。」

宮 この号は苦労した覚えがあります。20案位ラフを作ったり…。きっと今なら違うデザインになると思うけど、この時はこの時なんですよね。

COMIC LO Volume.
07

Finished Image

た 雨とアジサイとカタツムリの親和性は尋常ではない。あ、カタツムリは描いてないや。
この号は子供らしく描けた気がします。

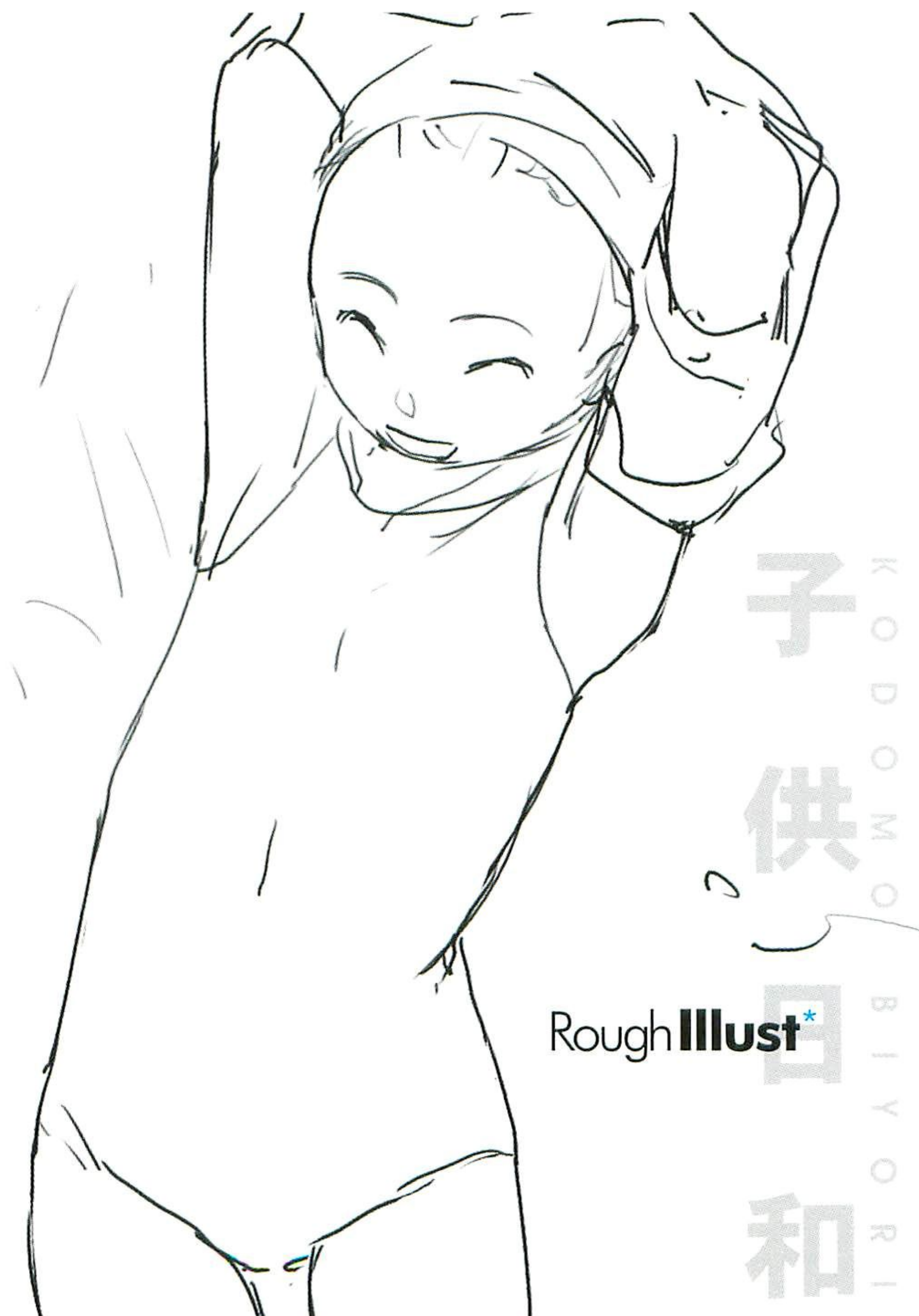
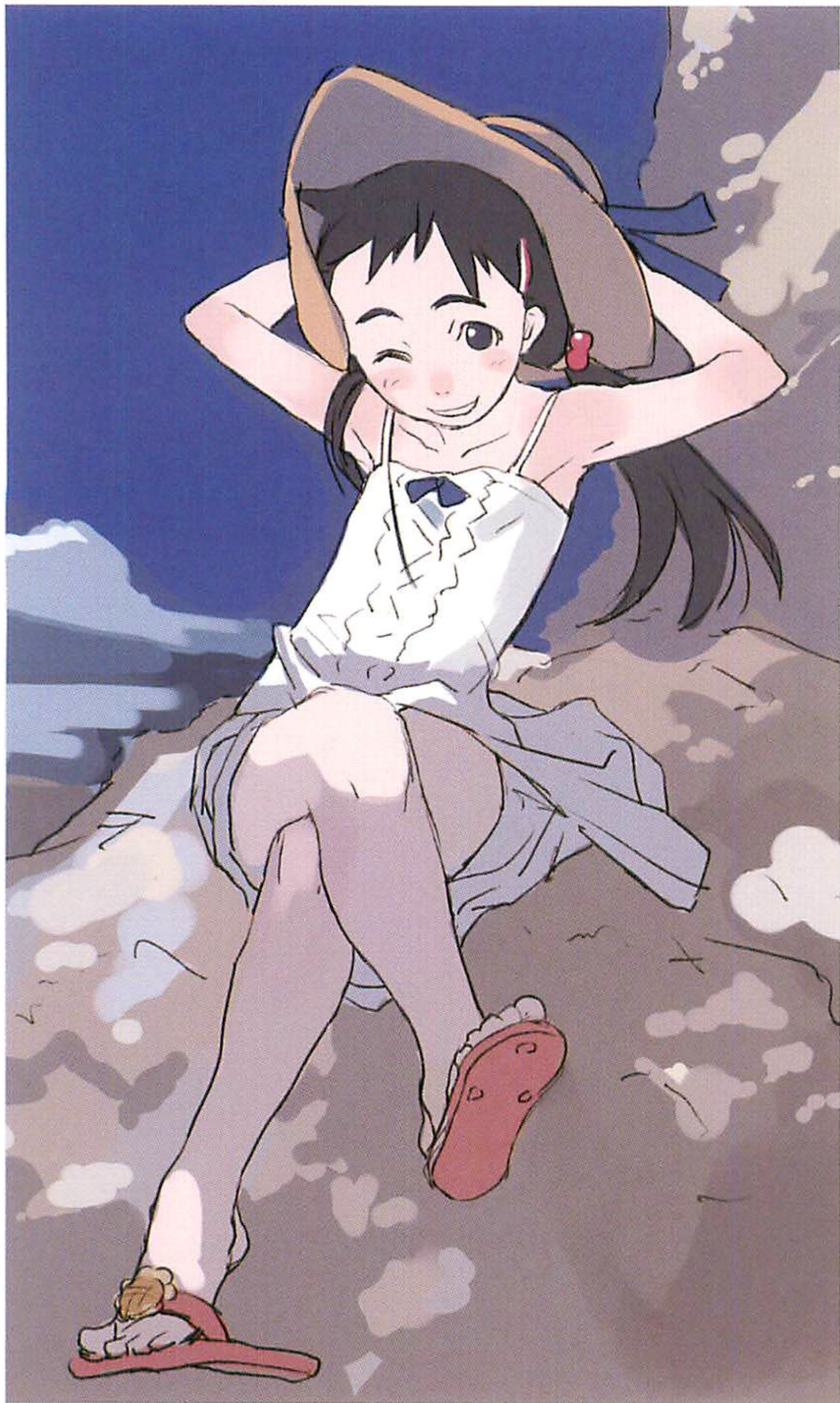
編 この号のイラスト、１枚絵だけなら一番気に入ってます。というか、愛している。オデコちゃんが上目使いでこんな近くに顔があって…ものすごくハアハアします。（思わずチューしたくなるほどに。）傘の色が画面に落ちている感じなどもすっごく良いですよね。なので、キャッチコピー「子供日和」はものすごく気合い入れて（息止めたりして）考え出しました。息を止めてアイディアを出すやり方は"世界のドクター・●松"先生の本で学びました。死なない程度にするのがけっこう難しい。

編「どういう表情の顔が描いていて楽しいですか？」
た「天真爛漫な笑顔なんかが楽しいです。」
編「ちなみに、ＬＯの表紙の打ち合わせの実態をバラすなら!」
た「少女の素晴らしさをこんこんと…。」

宮 この第７号はすんなりとイメージが形に出来た号だと思います。下⬇のは裏の広告用の素材で作ったイラストです。 何か沢山色々作ってきたなぁ～としみじみと…。画集に直接関係無くてスイマセン。

Design Rough*

Rough Illust*

子供日和 KODOMO BIYORI

Rough Illust*

編 キャッチコピーに毎回「子供」の文字を使い出して8号目、早くもネタが枯渇。悩んで転げまわっている時見た「池●ウエストゲートパーク」のドラマで「ブクロさいこー！」って叫んでいるのから素直にパクリました。でも、あのエンディングで叫んでるシーンのような達成感がLOを作り終わった時にはあるんですよ。本当に。

COMIC LO Volume.
08

Finished Image

た
海辺で遊ぶなら磯ですぜオイ。潮の満ち引きで景色が変わりやすいしいろんな生き物も観察できる。時々鮫の稚魚やら犬の死体やら怖いもんが流れ着いてびびります。

宮 この号はバランス、色合、デザイン的に上手く行った号だと思います。そう言う時はデザインラフも1発OK！で作業をしている僕もハイテンション!! キモチイイ〜!!

編「空を描く時気をつけていることはありますか？」
た「安易に空に頼らないようにわざと絵に入れないことが多いかも。」

Reference Materials

Rough Illust*

COMIC LO Volume.
09

た なんか特にキャラっぽくなってます。特別な狙いはなくとにかく表紙っぽくなれーみたいな感じだったかと。

Finished Image

編
たかみちさんを待ちに待ち、脅しに脅し、ついにキター！スクール水着のイラストです。いろいろな少女の姿を描くのがLO表紙のテーマですのでスク水から目をそらしてはいけないだろうと、たかみちさんにクドクド言ってた気がします。ただ、この表紙で難しかったのが肌色の色具合。日焼け跡という色はちょっとのことで「焦げすぎ」「カレーみたいな色」に変わってしまう繊細な色なので、この時の表紙校正（色の最終判断をする）作業は緊張しました。（でも結局「赤すぎた」という結果に…。）

編「女の子の服装で、描いて楽しいものは？」
た「ボディラインが強調される服なら。」
編「LO的には毎号スク水でいいですよ。スク水表紙の号は5%売り上げ増になる統計結果が出てますので。どんだけ私も含め皆好きかと。もはや民族衣装ですな。」

宮 色々作ってますね…（苦笑）LOは要素がシンプルだからこそ1コの大きさ、レイアウトで見え方が変わってきてしまいます。まずは考えた色んなパターンを実際に作って、常に比較検討する事はLOデザインにおいて最重要項目!! イラスト自体の雰囲気も感じ取りながら進めていきます。「LO」の「O」の字をイラスト上の浮輪で表現する案は無理があって断念したのを思い出します。

Design Rough*

COMIC LO Volume.
10

た スポーツで。という要望だったのでしぶしぶ挑戦してみました。場面選びは悪くないけど、気持ちが踏み切れてない感じ。球技はほとんど経験ないからなぁ。

編 たかみちさんにイラストをお願いする時、編集から「叙情的な風景画を」とか「量感溢れる富士山をバックに少女の一瞬の表情を」とか言うことはまずありません。たいがいは「キャミソール描きましょうよ！」とか「ブルマ絵見たいよ〜！」とか駄々こねてます。ちょうどオリンピック時期だったので、スポーツ少女な絵をください！と懇願してきたのがこのイラスト。短パンは当時あんまり受けがよくなかったのですが、今では結構な萌えアイテムになっているから面白いです。

宮 動きのあるイラストに対して、キャッチコピーも動き・勢いのある配置になりました。第三者の声援的な感じだと思って頂けたらよいなぁ〜と。

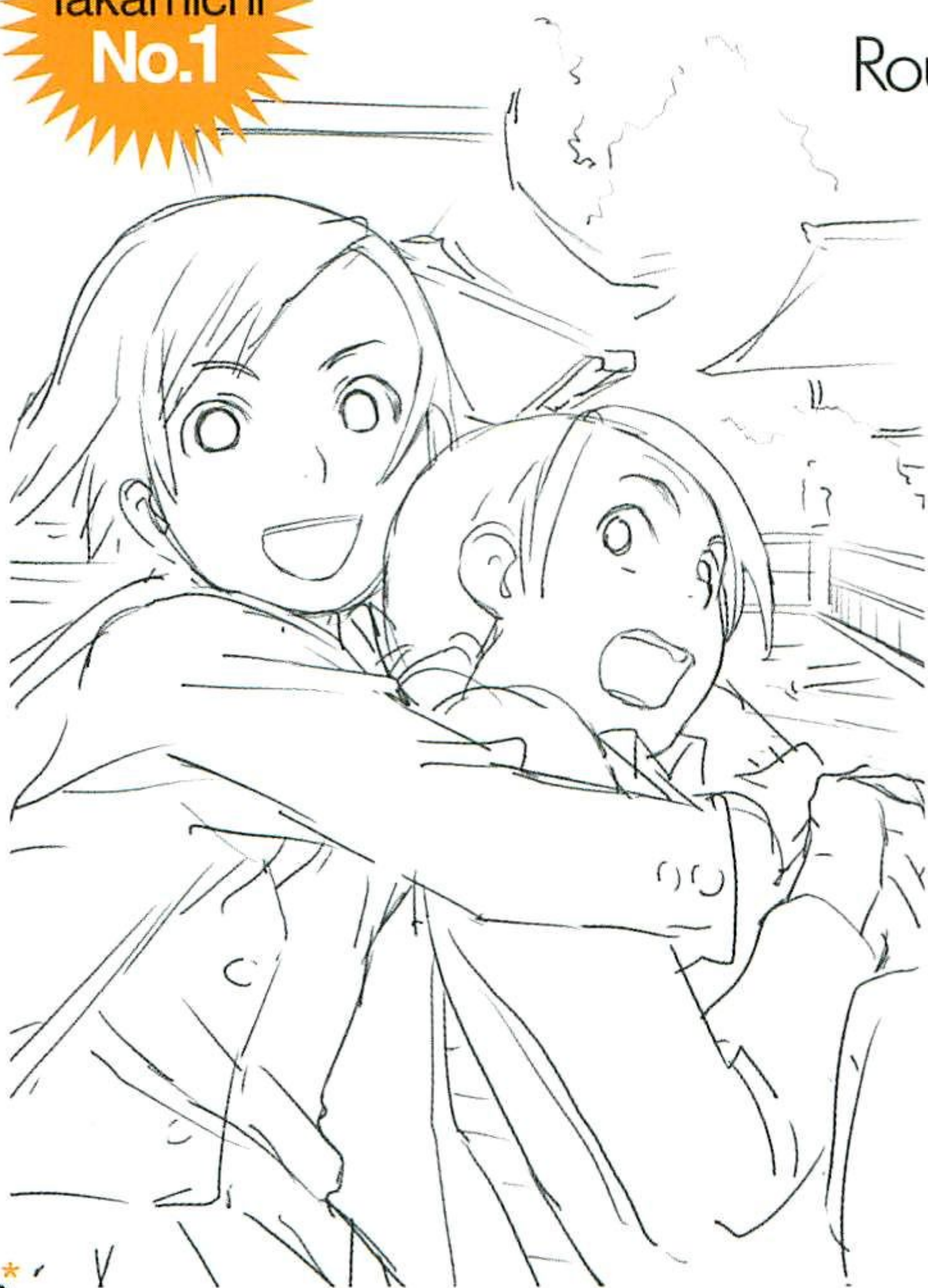
Finished Image

Design Rough*

Rough Illust*

編「取材とか行きますか？」
た「撮り溜めた写真などから描くものを考えるので、描くものを決めてから取材に行くということはほとんどしません。思い出重視ってことで。」

Select Takamichi No.1

COMIC LO Volume.
11

Rough Illust*

Reference Materials

た 京都どす。LO表紙で実在する場所を描いたのはこれがはじめて。現場を見て来ているので思い入れも強いですな。内容的にはみんなと初めての旅行にウキウキの女の子、そんな雰囲気が出したくて描きました。

編 たかみちさんが選ぶ『COMIC LO 表紙ベスト１』に輝いたのが、この号です。それならば、ということでライトノベルまで作ってしまいました。たかみちさんは「１枚のイラストである程度ドラマっぽい雰囲気が作れたかな」と言ってましたが、編集的にもそのへんがよく伝わるイラストだったので、最初から（勝手に）百合っぽい雰囲気でキャッチコピーを考えていました。今見ても完成度の高い表紙だと思います。

編「旅行は好きですか？」
た「好きです。」
編「旅行先ではどんな風景を選んで撮影するんでしょうか。」
た「肉眼で見たとおりの景色を撮りますので作品性の薄い写真ばかりです。」

Finished Image

宮 修学旅行での楽しい雰囲気！ということで手描きのスマイリーマークを追加してポイントとしました。

Design Rough*

Rough Illust*

編「裸が極端に少ないLO表紙ですが、もしかしてヌード描く時って恥ずかしい？」
た「作為的なポーズになってしまったときは恥ずかしいです。」
編「この表紙は漫画家さんにえらくウケましたね。フィギュアにもなったし。」

COMIC LO Volume. 12

た 温泉と愛娘に癒され、みたいなことでしょう。かなわぬ夢ですねハハ…。

編 LOはエロい表紙を放棄した…とはいえ、たかみちさんの描くヌードはぜひ見てみたい…ということで、また無理を言いつつ描いてもらったのがこれ。見事な幼女体型っぷりにすんごくビックリしました。このまーるい曲線に物凄い超絶画力を感じます。あまりのエロスにフィギュア化までしてしまった、伝説的イラスト。

Finished Image

宮 画像では分かりませんが、この号は銀色のインクを使用しました。今回の可愛い絵に硬質な銀色が、なかなか新鮮で面白い表紙になったんじゃ無いかなぁと。

た 買い食いの様子。観光地にあるような和菓子屋です。わしは滅多に買い食いはしないほう。家に持ち帰ってから安心して食べたい。

編「町並みの風景で、好きなのって何かありますか？」
た「強い日差しで建物や樹の影がくっきり地面に落ちていると ウキウキします。」

宮 今までで最も背幅のサイズが分厚いLOです。

Rough Illust*

COMIC LO Volume. 13

Design Rough*

Finished Image

編 月刊誌にもかかわらず12月をコミケ休みしたLOが満を持して発売したのがこの号。キャッチコピーも賢しらぶった感じですが、けっこう受けが良かったです。…が、世間的にちょっと尖りすぎたらしく、いろいろなところから「けしからん」と怒られもしました。というわけで、この号以降キャッチコピー類に「子供」の文字をなくし、裏表紙に入れていた意見広告も出せなくなりました。そりゃあ最初はムカっとしましたが、今は「大人の言うこと聞いておいて良かった」と思います。楽しいことはこっそりやった方が楽しいですものね。

COMIC LO Volume. 14

宮 映画のワンシーンだったり、映画のポスターだったり…そんな感じをイメージして作ったのがこの号です。

DesignRough*

Finished Image

LO LOLBY DIGITAL

た 上半身だけ夕日に照らされている様子を描きたかったのです。夕焼けを彩度に頼りすぎたかもしれません。

編 たかみちさんの夕日のイラストがずっと見たくて、１年言い続けてようやく実現。あまりにすごい色で印刷での再現がとても難しかったのを覚えています。たかみちさんも「これは（色が）出ないと思いますよ〜」って言ってましたっけ。でもこの画集では見事再現してます。光栄印刷さん偉い。

編「夕日を描くって大変ですか？」 た「これまでの経験からどうやら大変ということがわかってきました。」

COMIC LO Volume. 15

RoughIllust*

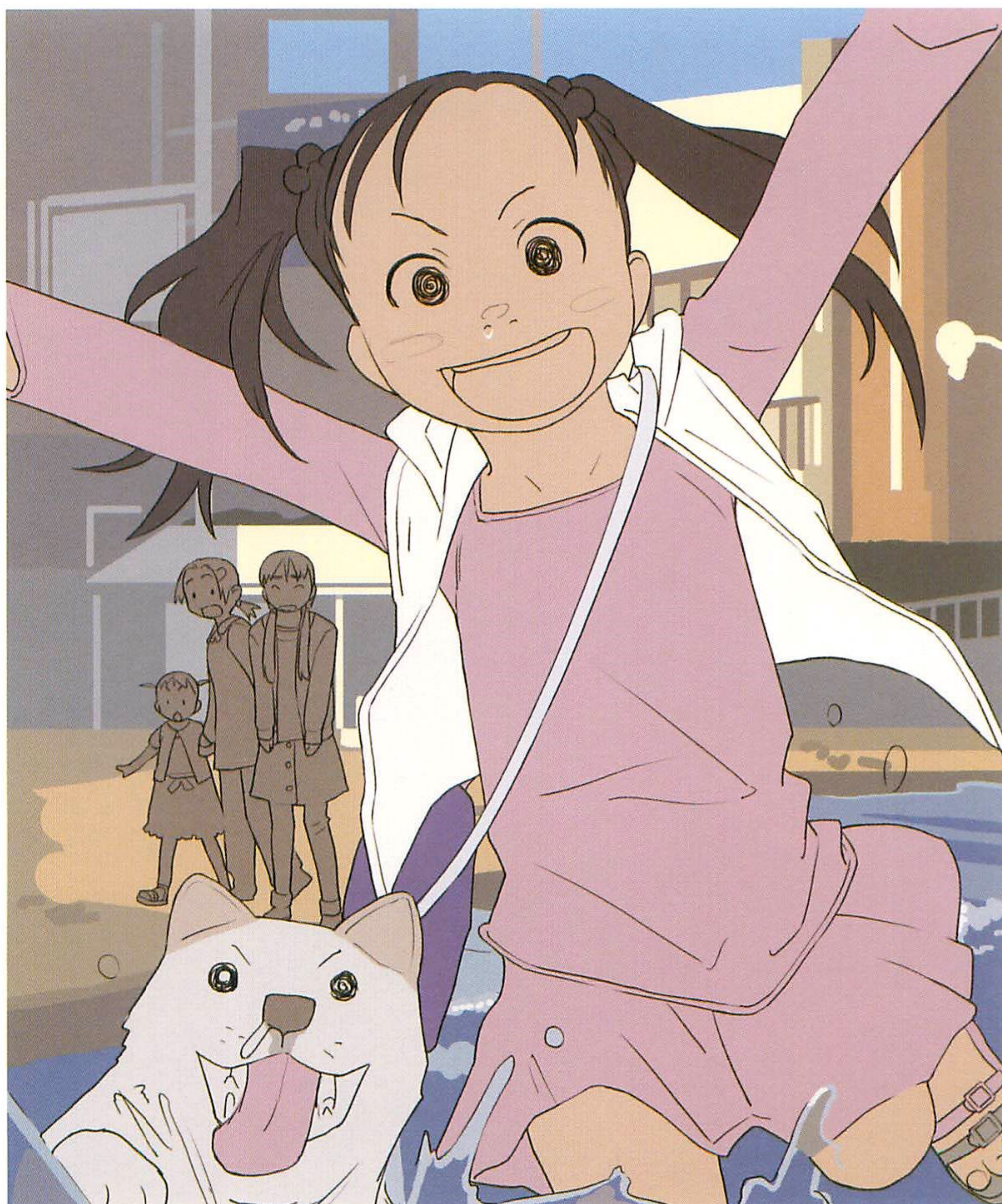
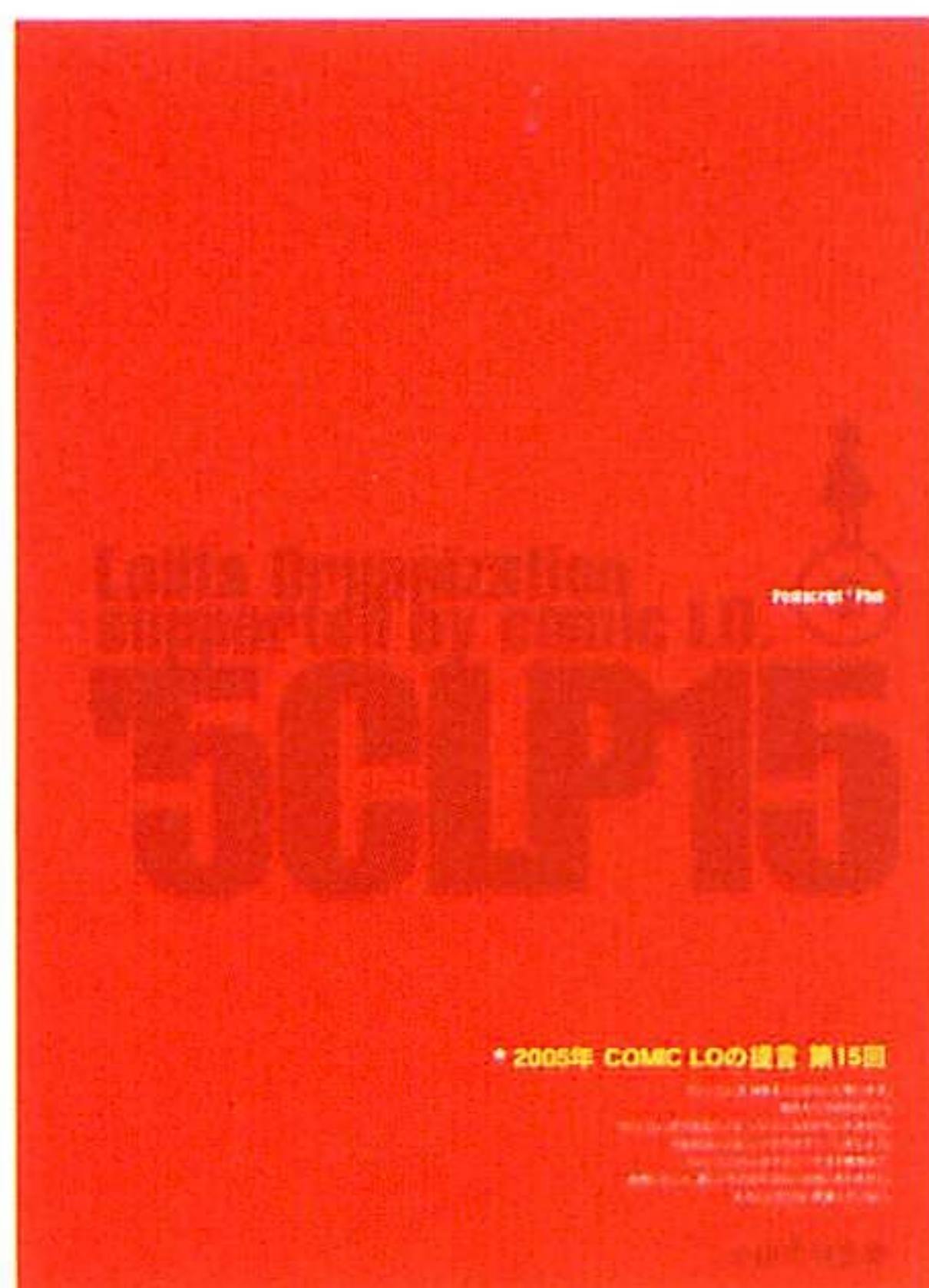
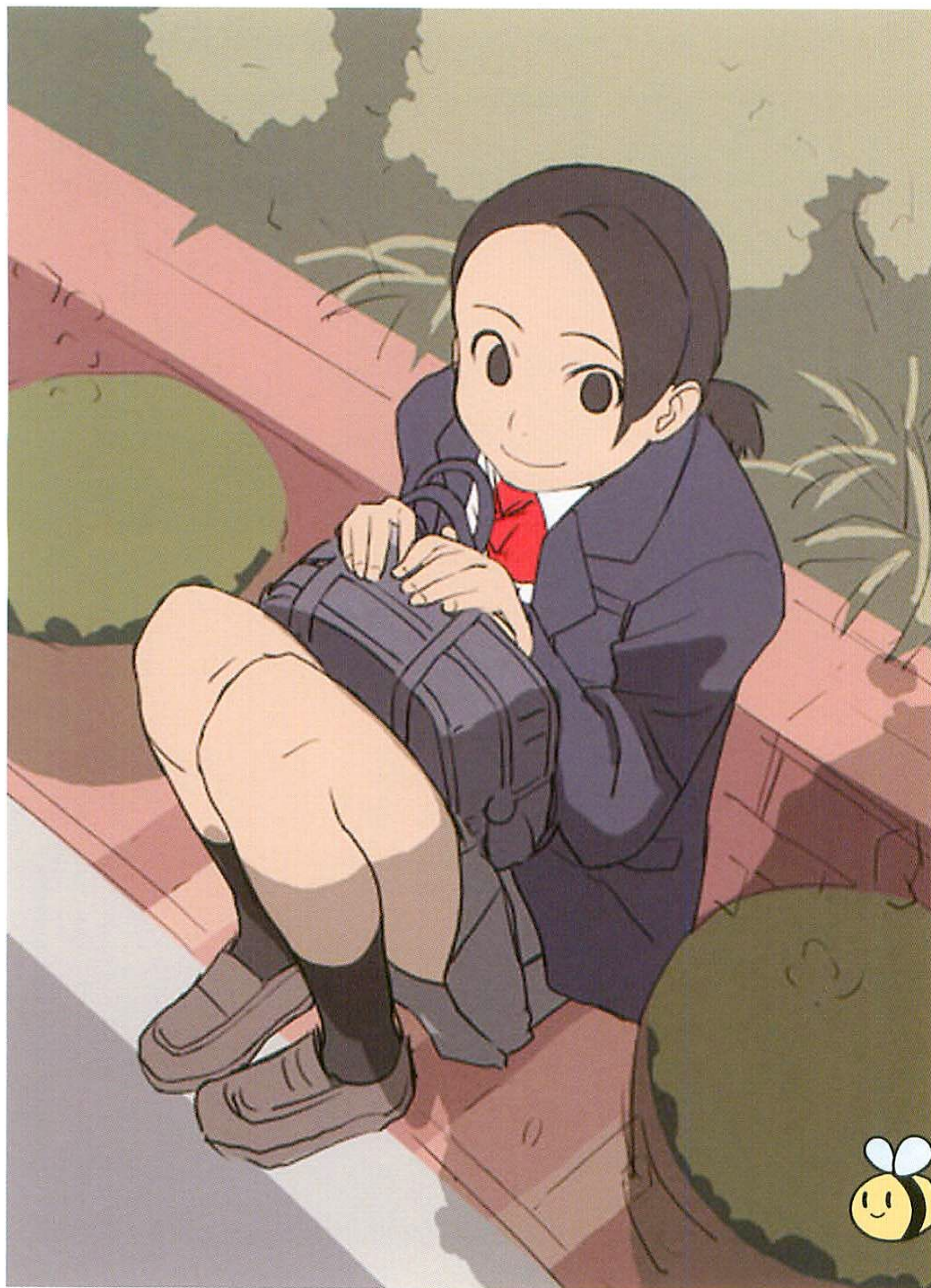
Finished Image

た とにかく元気な娘を表現したかったのです。この直後、犬は離岸流にさらわれみるみる沖へと流されてゆきました。

編 LOの表紙の打ち合わせは、基本的にありません。私から「幼女！幼女！ブルマ！スク水！」言っても大概聞いてもらえないので、毎回たかみちさんの独創みたいな感じです。それでも２人（デザインの宮村さん入れて３人）で決めているのが、「毎回違う印象」と「インパクトある変化」。いつも同じ調子ってのが嫌いなので、毎号毎号バリエーション勝負なとこがあります。この号も「バカっぽい」でいいとこまで行けたかと思われます。ちなみに、このツインテールの女の子はVol.13の左にいる子と同一人物です。表紙絵に世界観を持たせる企画をやってた頃の名残。

編「バカな女の子は好きですか？」
た「微笑ましいですね。」
編「このときは、イラストのあまりのバカっぽさにキャッチコピーすら思い浮かばなかった記憶があります。」

宮 15号は最初にこうしよう！と決めたデザインがすんなり出来て、そのまま入稿したのでした。イラスト同様に僕自信も勢いで。

COMIC LO Volume. 16

Rough Illust*

た 派手な色を使うのはかなり苦手なんですがLOでは積極的に使うように努力しています。

Finished Image

編 ＬＯ何度目かの春号。毎年毎年「ようやく春を迎えられた」的な状況にある雑誌なので、春はなんとなく嬉しい。なので、たかみちさんには毎回花を描いてもらうことになっています。このイラストの肝はなんといっても「ノンパンチラ」。これが日本のワビサビですよね。激しく悔しい。

編「花はどういう色が好きですか？」
た「オレンジです。マリーゴールドとか花菱草とか。」
編「ちなみに、中学校時代好きだった女の子はロング髪ですか？ショートですか？」
た「ロングでした。」
編「今度ＬＯで初恋の面影特集とか組もうかしら…。」

宮 この号は華やかで楽しい雰囲気なので無理言って「ハチ」を入れさせてもらいました。凄く可愛い表紙に出来てお気に入りの表紙の一つです。

Design Rough*

COMIC LO Volume. 17

Reference Materials

た 群集の一人を抜くように描いてみました。

編 毎回素敵な仕事っぷりのたかみちさんですが、時々どーにもイラストが上がらない時があります。待てど暮らせどイラストが来ない。入稿締め切りを遥か飛び越してもまだ来ない。それでも待つしかない。でも来ない。そのうち足がガタガタ震えだす。でも来ない。たかみちさんに何度電話しても出ない。ヤバイヤバイ本気で今回はヤバイと倒れる寸前にイラストがポンっと送られてくる。その時の悦びたるや、うっかり死んじゃいそうになるくらいに素敵。

宮 16号と17号の裏面は別の作家さんが描いた「もう一つの表紙」と言うダブル仕様になっています。その分作るのは大変なのですが（苦笑）細かな所で凝るのって楽しいですネ。

Finished Image

編「イラストを描く時、色はどのへんから考えますか？」
た「肌を基調にはじめることが多いですけどそれだとあまりいい結果にならないみたい。」

Design Rough*

Rough Illust*

COMIC LO Volume. 18

た　これといってテーマがない場合特に苦しんでおります。

編　以前描いてもらったVol.12の号がかなり売れたので「たかみちさん、裸ですよハダカ！」とゴリゴリ念押しして描いてもらった絵。そしたら思い切り絵画的だったのでビックリ。この「なんか裏切られた感」言い換えれば「萌えとかよりも良いもの」を見せられればグウの音も出ません。キャッチコピーは「ゲージュツ」に逃げましたので正直イマイチの出来なんですが、褒めてくれる人もいて嬉しかったです。

編「エッチなイラストをLOで描く予定は？」
た「ハードな内容なら描くのも楽しいかと。」

宮　静かな空間に少女がしっとりとそこにいるような、穏やかで落ち着いたデザインにしました。

Rough Illust*

Finished Image

Design Rough*

COMIC LO Volume. 19

Finished Image

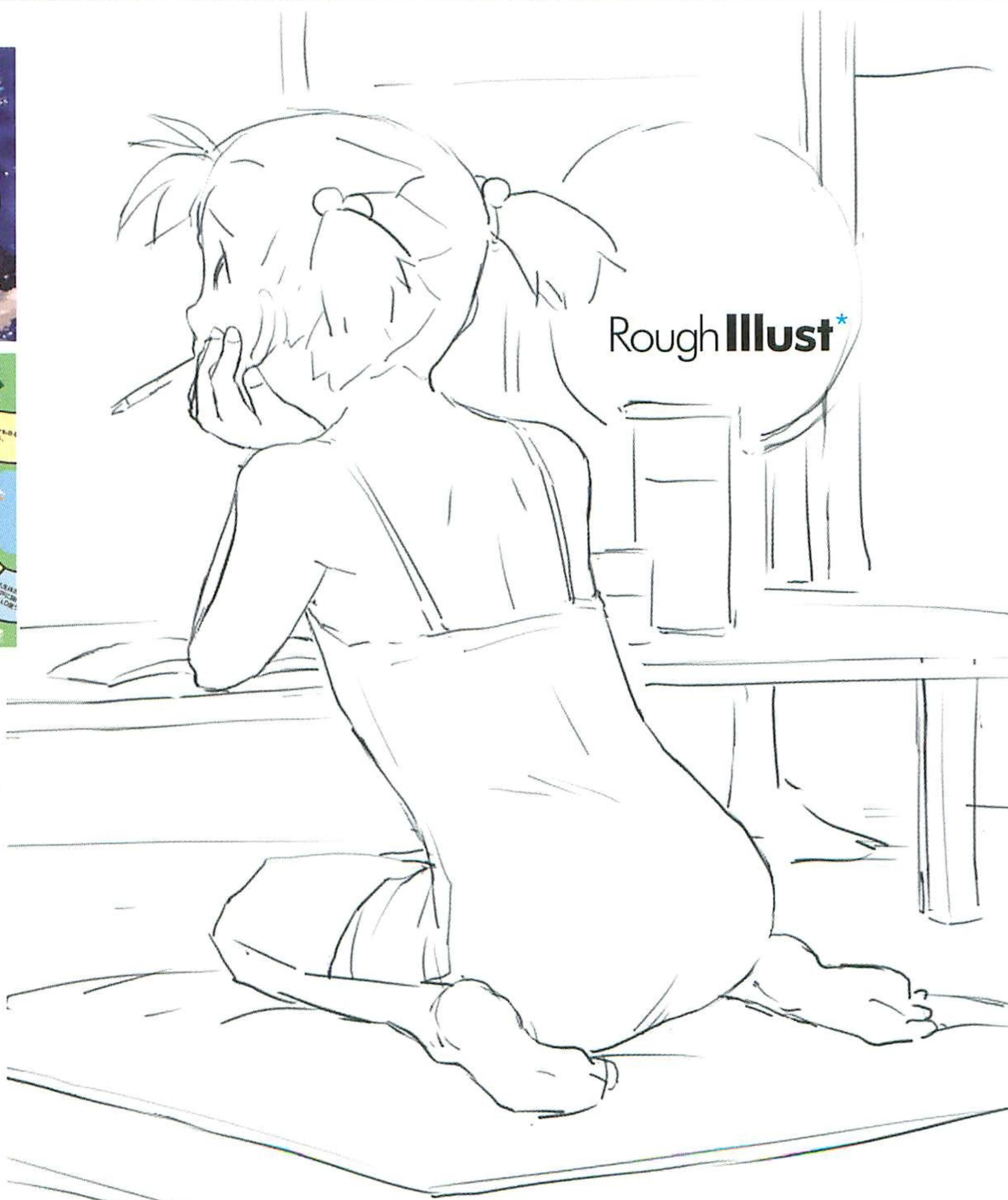
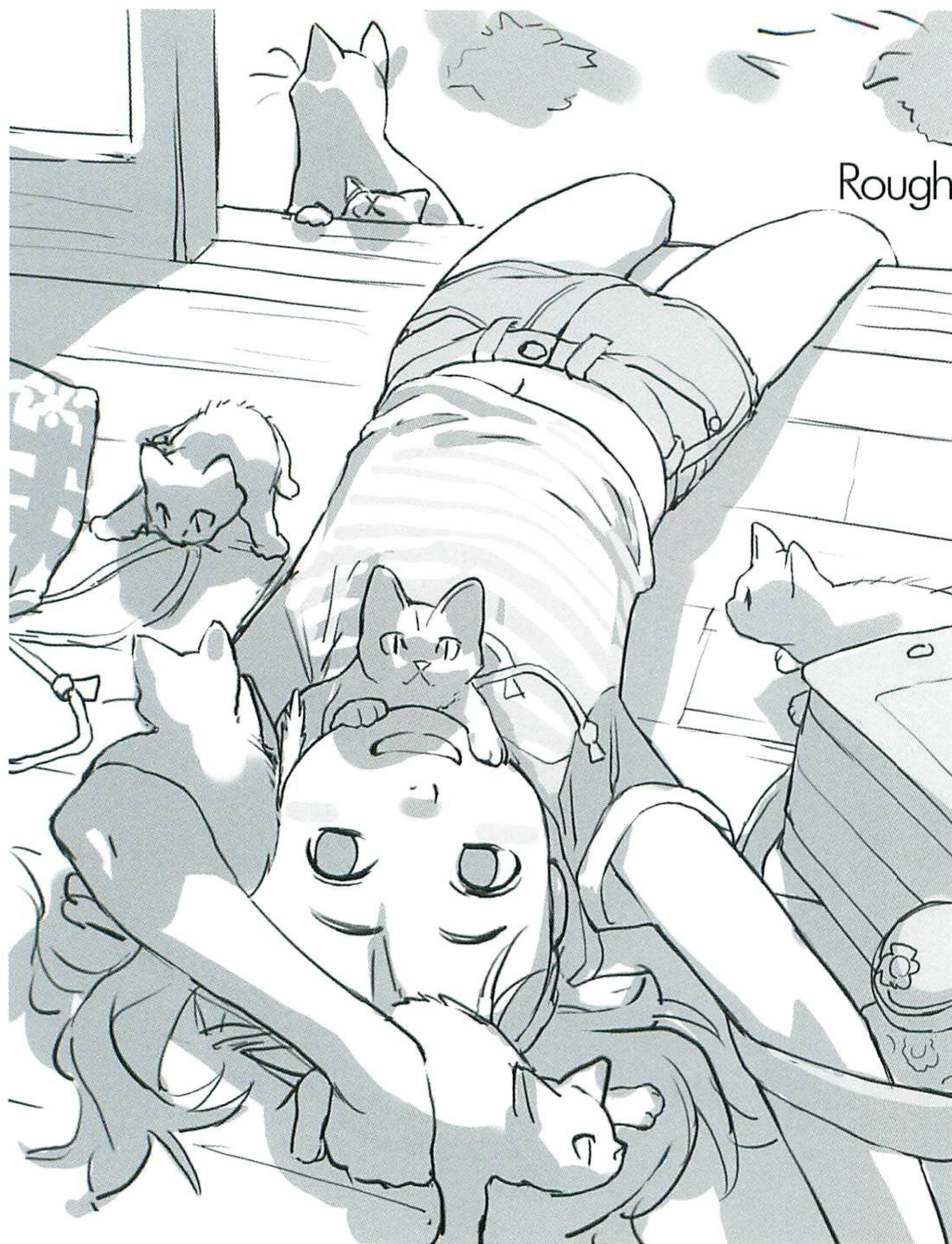
Design Rough*

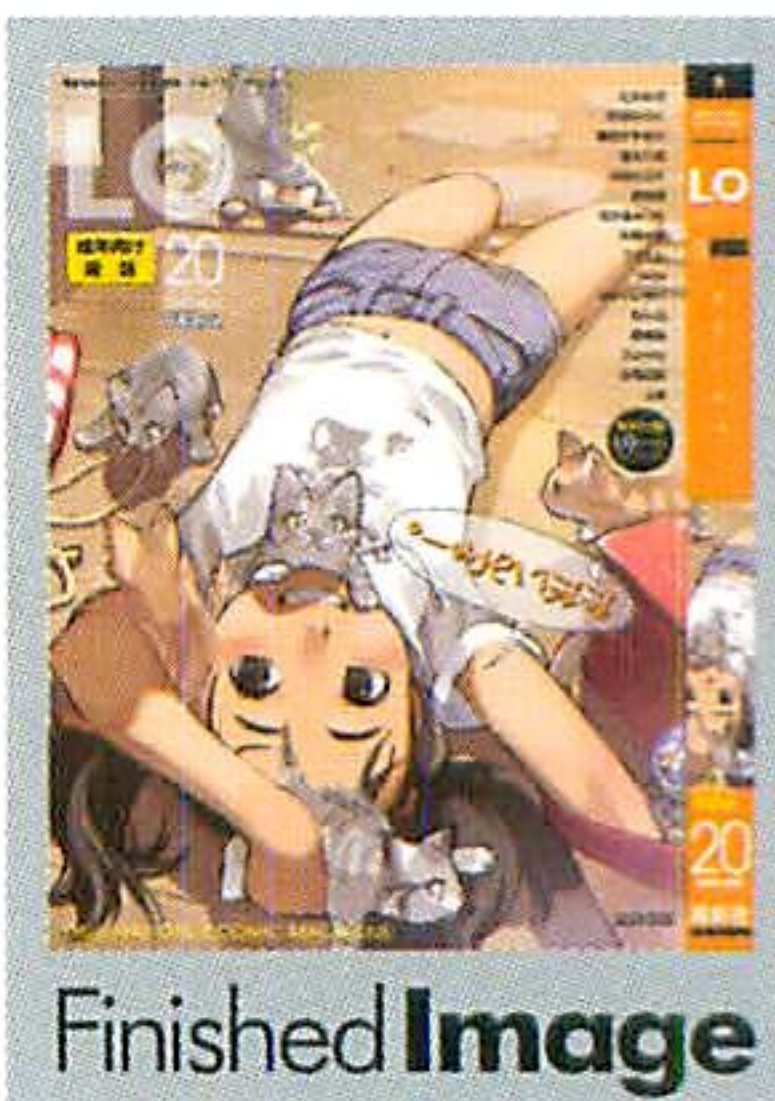
Rough Illust*

た　水の表現は大好きなのでそこに集中して描ける構図を選びました。今度同じような構図を描くときはより正確な光の屈折を取り入れてみたい。

編　そしてスク水の季節到来。よって私は夏がダイスキです。たかみちさんがスク水を描くと確かに売り上げもあがるので「スク水はニッポンの心」と言っても嘘ではないと思います。演歌とかよりスク水。あと50年は生き残っていくだろう文化にしたい。というか、LOがある限り滅びない。滅んでなるものか！なんだったら外国にスク水文化をドンドン輸出して、スク水植民地とかスク水帝国主義とか言わせてみたい。世界的に見てかなり恥ずかしいことかもしれないけど、カワイイものは可愛いのであるよ。これからもLOスク水イラストにご期待ください。

編「青い色について何かイメージすることは？」
た「南国の空と海。」
編「それにしてもこのイラストの青は深いですね。」

宮　お気に入りの表紙の一つです。あとこの号はLO人生ゲーム的な物を作るのが一番大変だった記憶が…。作っている時は悪ノリでノリノリ♪なんですけどね（笑）

Rough Illust*

COMIC LO Volume. 20

Finished Image

た 自分は犬とねずみが好きなんですが、人を見ると駆け寄ってくる猫もかわいいと思うこともある。しかしかわいいと思わされている感に素直にかわいいと思えない部分もある。自らをかわいいと理解した上で相手にかわいいと思わそうと（略

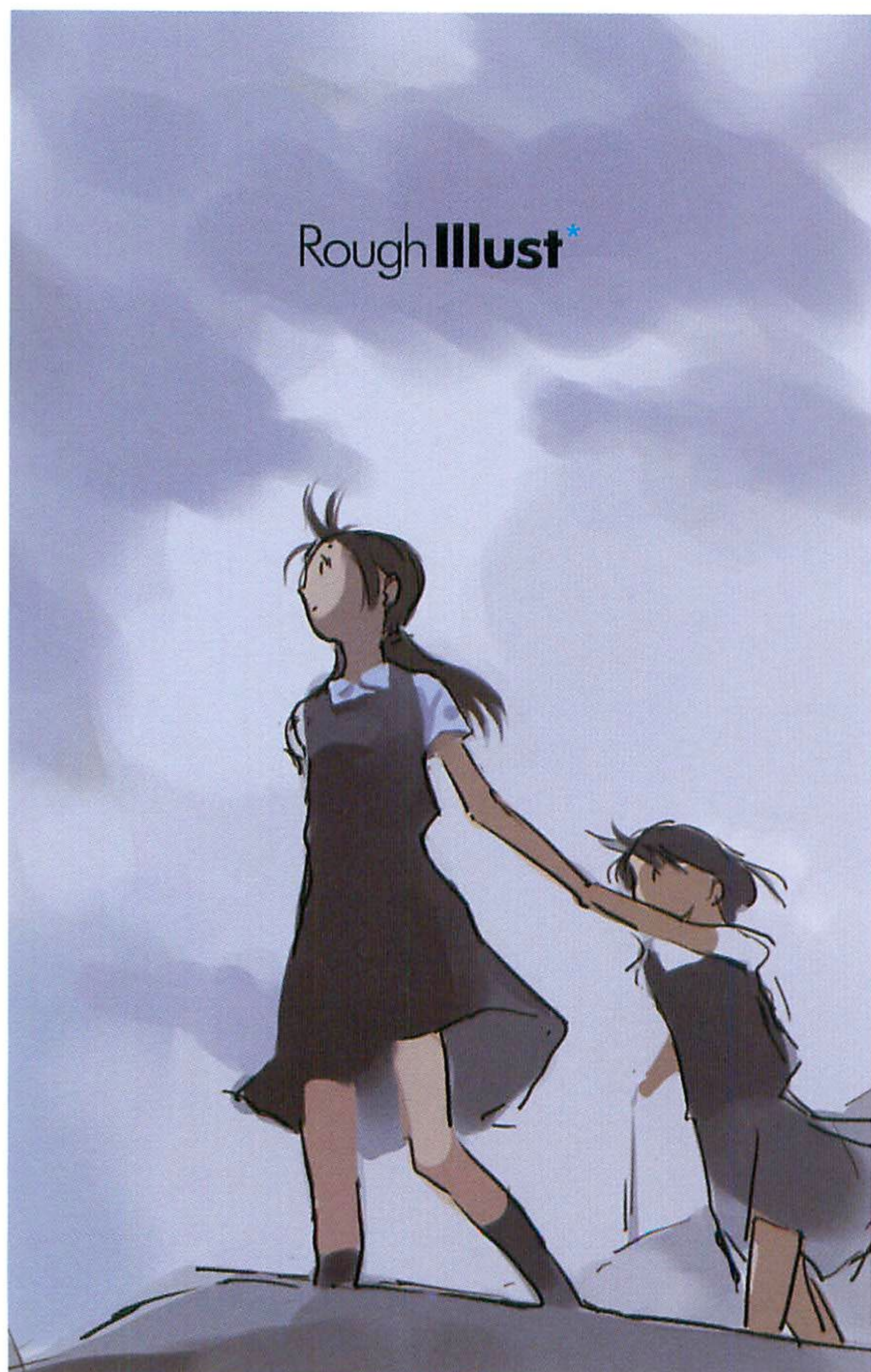
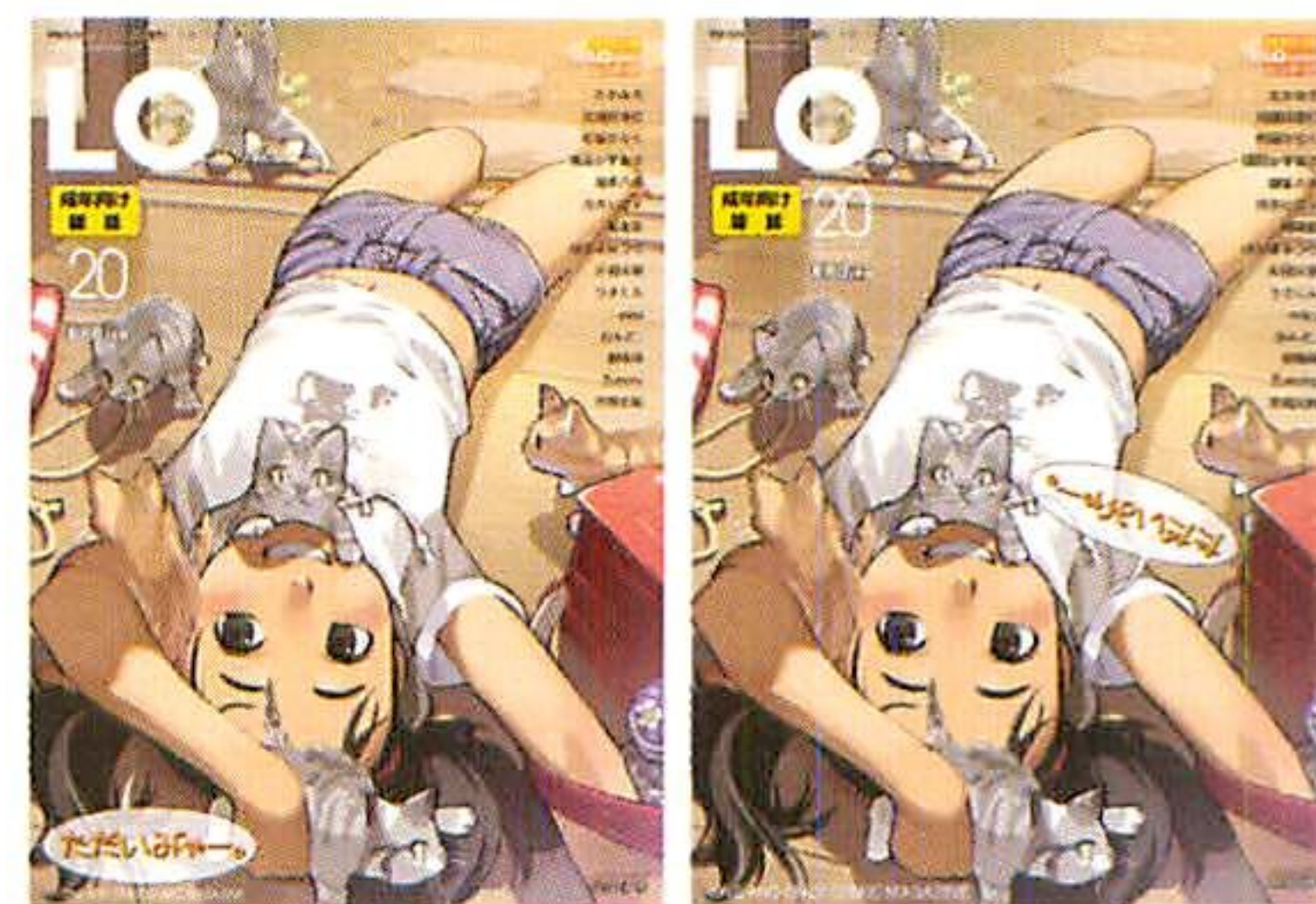
編 LO動物シリーズイラスト、今回はめずらしく猫です。前にたかみちさんに「猫嫌いですか？あと猫耳少女とかダメですか？」と聞いたことがあるんですが、「猫に好かれたことがあまりなくて、それとハムスターが宇宙一好きだから」とのことでした。キャッチコピーは〝猫好き編集〟のメンツをかけて考えたので、わりとよく出来たかと。

編「猫も好きでしたっけ？」
た「うーん、わかりません。」

宮 女の子と子猫たちの楽しそうな雰囲気に合わせて、フキダシにしました。文字を逆さまにしてる方が喋ってる感が強いかなぁと。

Design Rough*

Select Editor No.1

COMIC LO Volume. 21

編「パソコンはどういうものを使ってますか？」
た「G4CUBEというファンレスのMACです。
動作音がほぼないので作業に集中できます。」
編「たかみち絵の静かな雰囲気の秘密はそこにあったんですね！」

Rough Illust*

た こういう色フィルタ風の絵は自分は描きやすいです。周囲の情報を描かないことで見る者の想像力を刺激する。たまにはそんなのもいいでしょう。

編 ＬＯの表紙は、毎回たかみちさんの独創です。その時々の季節感や気分を大胆に構図化して、色にして、送ってくれます。最初はラフのやり取りもあったのですが、たかみちさんからの提案でやめてしまったので、イラストが来たその瞬間から表紙の構成を考え出します。心の準備ができない反面、全く新しい気分で構成を考えるのは楽しくて楽しくて寝れないほど楽しいものです。その構成作業で一番重要なのが、キャッチコピーを考えること。それがどんな言葉になるかで、ロゴもレイアウトも大体決まってくるので長い文章にするか、短くいくか、色は？書体は？大きさは？誰の言葉か？音の響きはどうか？シリアスなのかギャグでいくか？毎回同じようなことを繰り返し悩みます。そんな時、キャッチコピーをよく思いつくのが何故か家に帰る時に通るほんの１０メートルくらいの夜道。そこに来ると、思い出したように言葉が湧き出してくるのです。それは不思議でもなんでもないことですが、ＬＯの言葉のほとんどはそうやって作っています。つまりは、誰もが日々行っている動作や思いつきとなんら変わりないところに、極めて優秀なデザイナーと稀有なイラストレーターがいれば、誰もがＬＯの表紙を作り出す側にいてしまう、そういうことだと思います。だから編集という仕事は、すごく楽しいのです。

Finished Image

宮 色々と案出ししましたが、最終的にはコピーに合わせて静寂感を求めて作りました。

Design Rough*

Select Miyamura No.1

COMIC LO Volume. 22

Finished Image

DesignRough*

Rough Illust*

た 田舎の土間の階段です。暗がりに差し込む光という状況は光源でいろいろ遊べるので好き。

編「光の取り入れ方に何か工夫はあるんですか？」
た「光の当たる物体も光源になって周囲を照らすあたりに。」
編「まさに"少女は世界を照らす灯り"ですね。哲学だなあ。」

編 この号をもって「熟女ものがたり増刊」をめでたく卒業することとなりました。そんな学生生活最後みたいな気分でつくったのがこの号で、表紙も卒業制作的な出来栄え。たかみちさんも「いい構図がとれた」と言ってましたし、編集的にも「自分らしさが表現できた」と思ってますし、デザイナーである宮村和生さんがこれをベスト１に選んだということで、いい表紙なのではなかろうかと。

宮 たかみち氏のイラストは勿論どれも好きですが、あえてどれが一番好きか？と聞かれたらこの号の絵を選びます。構図、光の表現、キャラの雰囲気や空気感…本当に素晴らしいです!! 本当は美脚だから(笑)と言うのは小声で。デザインも気に入ってます。

COMIC LO Volume. 23

Finished Image

Rough Illust*

編「意外なのかもしれませんが、LOの表紙ってラフ打ち合わせがほとんどないんですよね。ここに載っている没ラフも私初めて見ました。」
た「ラフを上げた瞬間からイメージの鮮度を失っていくので、それをすぐ形にしていかないと。ラフ確認のタイムラグがあるのは厳しい。」
編「そういうわけなので、ＬＯの表紙が素晴らしいのはたかみちさんと宮村さんの力のみなのです！編集はある意味で楽チン。」

た この季節散々描きつくされているクリスマスネタは自分にとっては一番困るテーマです。世間のクリスマスムードに水を差してはなるまいと果敢に挑戦し散ってゆくのである。窓ガラスの反射に挑戦してみました。

編 めでたく独立創刊記念号。業界から「いつ消えてもおかしくない本」と囁かれつつ「消えてくれるな！」というお客さん＆書店さん＆ネットの人たちに支えられてめでたく独り立ちできました。だからキャッチコピーが「あなたに愛を」になったというわけです。車窓の映りこみが技ありの１枚ですね。

宮 クリスマスの楽しい雰囲気でいくか、聖夜のしっとりとした雰囲気で仕上げるか…。考え方によってデザインも大きく違ってきます。この号ではキャッチコピーを楽しげな歌のタイトルと想定して作ってみました。

DesignRough*

COMIC LO Volume. 24

Rough Illust*

た 雪景色に抜ける青空を描きたかったのです。冬のレジャーは軽く10年以上はしてません。表紙のネタのためにも活動的でないとなぁと思うのでした。

Finished Image

編「雪山に行ったことはありますか？」
た「以前行った秋の立山黒部アルペンルートはすでに雪景色でした。」

編 高校時代はスキー部にいました。編集になってからはバイクに乗り出して、峠道をかっ飛ばしていました。スピード感とスリルは楽しいものですが、「転ぶ」という恐怖心の方が私は大きいようで、スキーもバイクもほぼやめてしまいました。（バイクはゆっくり乗るスタイルに変更。）締め切りというスピードとスリルに翻弄される編集作業において、「転ぶ＝落ちる＝本が出ない」ということは悪夢以外のなにものでもないのですが、どこかゾクゾクする感じがしてヤバイです。この号もやたらとスリリングな締め切りだったと思います。キャッチコピーがせっぱつまってますものね。

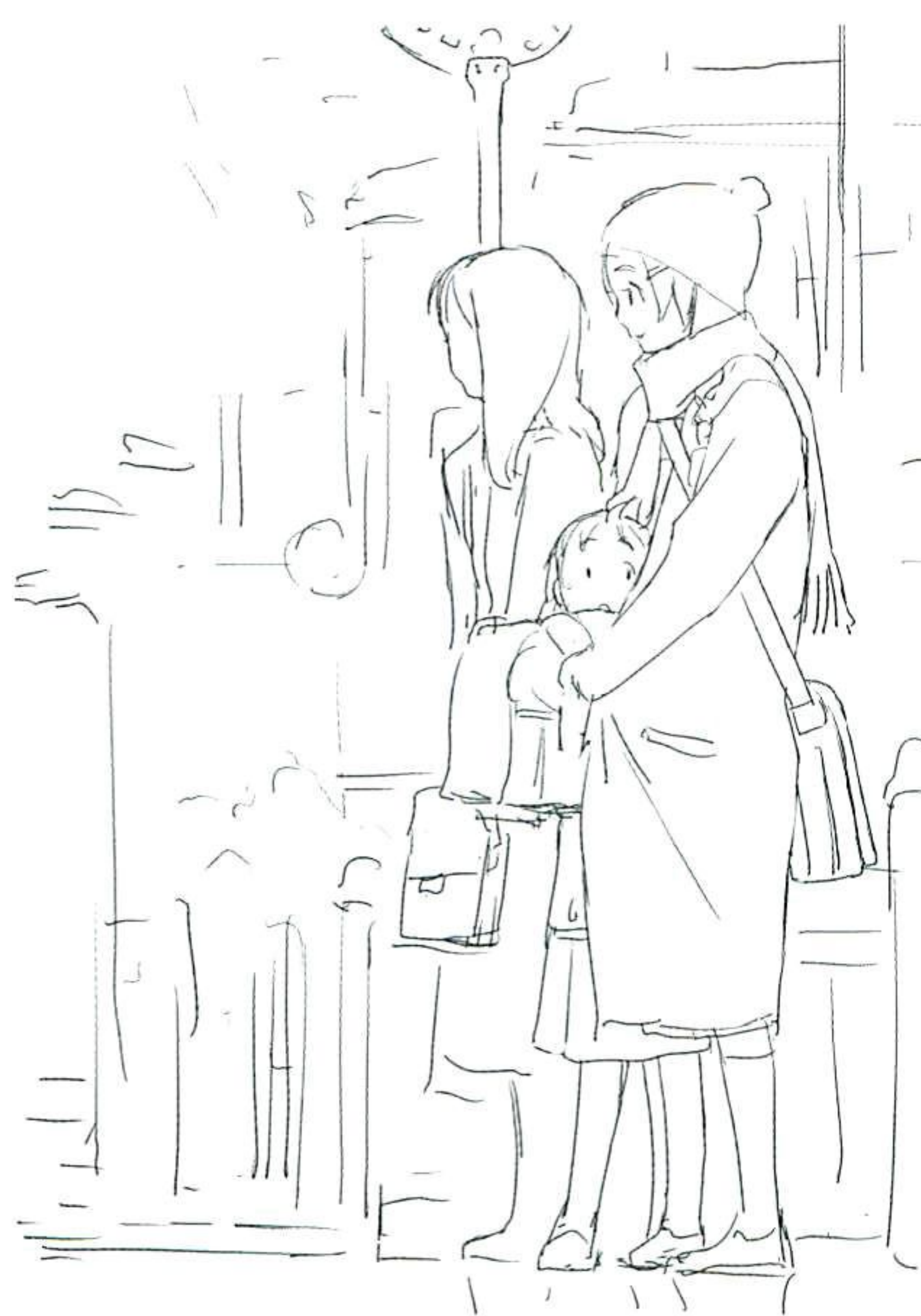
宮 いろいろな配置が考えられるイラストだったので、試行錯誤と検証、検討の連続でした。たかみちさんのスノボのデザインが可愛いですね〜！

Design Rough*

COMIC LO Volume. 25

Rough Illust*

Finished Image

宮 美しい景色の中の美しい人たち。デザインもモダンに美しい感じを目指しました。コピーは編集さんがフランスを意識してたので、トリコロールです。

た 望遠の圧縮効果をねらってみました。温泉地紹介の写真を見て表紙のイメージを決めました。描いて数年後にモチーフになった銀山温泉に遊びに行きました、今ここを描いたらどんな絵になるだろう。

編「季節感を色で表現してますね。」
た「している気がします。」

Design Rough*

Le Beau Japon この美しき日本

編 フランス語がなんとなく好きで、大学の時勉強してみましたが全然ダメでした。「なんとなく好き」程度じゃ頭の悪い人間はどーにもなりません。でも、LOの表紙キャッチでフランス語使いたくてあっちこっちで調べた結果がこれ。なんてことない「愛・日本」でけ。でも中国のサイトで褒められてたのを見つけたので、ハッタリは効いたのかと思われます。それと今回収録したたかみちさんの写真ですが、どれも見事な構図と色合い。おじいちゃん達が趣味で撮る写真より、ちゃんと「生々しい」のが素敵。

Reference Materials

COMIC LO Volume.
26

た 桜は順光が最も映えるだろうということで。毎年桜の時期は撮りに行くのだけど、ほとんど絵の資料にはならないものばかり、結局想像のみの作画となっております。

編「春は好き？」
た「越冬する小動物並みに好き。」

編 たかみちさんによる桜の絵第２弾。桜の絵をいかに描くかで、よくたかみちさんと話し込むのですが、そこで出るのが「だって桜の色って、本来薄いでしょ？」ってこと。桜の花を写真で撮ったことのある人は知ってると思いますが、あれだけ鮮やかに咲き誇っているように見えて実はすごーく地味な色してるんです。そこを「マンガイラストだから」と割り切るかどうかで毎春悩むわけですね。世界は美しい、ゆえに難しいのです。

宮 情報量の多い画面ですが、春の軽やかな雰囲気がでるようになれば良いな…と考えました。

Finished Image

Design Rough

Rough Illust

COMIC LO Volume.
27

Finished Image

Design Rough

Rough Illust

た 作画的には一番気に入っています。背景の影付けが気持ちいい。

編 この絵、たかみちさんも宮村さんも「隠れベスト１」に選んだイラストです。下校時の青春がよみがえるような見事な構図と色使い、あとジャージがね、すごく良い。デザインも完成度が高くて編集局長に褒められたのを覚えてます。ただイマイチ弱いかもと思うのはキャッチコピー。ちょうど私がギャルゲーに絶望していたので、短絡的にこうなっただけのコピー。それでも、ゲームと恋愛ってすごく深い関係なので、いつかまた挑戦したいテーマなんですけどね。

編「描いている最中から「よく出来た!」って思うことあります？」
た「シンプルで構図が成立している絵はあります。」
編「まさにこれだなあ。」

宮 この号は白フチを付けて、オレンジの付箋をポイントにしました。

COMIC LO Volume. 28

Rough Illust*

編「レズって好きでしたっけ？」
た「好きなレズと嫌いなレズがあります、そのへんはうるさいですよ。」
編「今回のノベルの挿絵にその辺りが出ていたり隠れていたり…なるほど。」

編 この表紙もたかみちさんのお気に入り。でも、もっと気に入っているのはココに載せている没ラフのほうだとか。今見返すとこの頃の表紙とキャッチコピーとデザインはかなり良いバランスになっている時期で、こういう流れみたいなバイオリズムが雑誌というものにはあるんだなあと。あと、「ディシプリン (discipline)」ってのは英語で練習とか弟子とかの意味。

た こういう仕事をする上で学校生活の思い出はかなり重要なんだなーと思う。いろんな部活を経験していたらもっといろいろ面白い絵が描けたんだろうなと後悔することも。

Finished Image

Design Rough*

宮 この号は凄く気に入ってるLOの一つです。イラストもキャッチコピーもデザインも3人それぞれの仕事が良い効果を生んだのではないかと。全体の色合い等も彩度低めで、ポイントカラーが効いてました。背のストライプもお気に入りです。

COMIC LO Volume. 29

Rough Illust*

た しっかりとした光を表現したかったのであえて影を重く持ってみました。

Design Rough*

Finished Image

編 漫画雑誌の表紙絵は、内容にもよりますがわりと「現実には無い場所」をチョイスすることが多いように思います。エッチな雑誌の場合は、それにエロス要素が加わってかなり押しの強い感じにするのが普通。だって、やっぱり派手な方が目立ちますもの。LOの表紙がこんな風に普通なのは、ほぼ100%たかみちさんの趣向によるものなんですが、「押し」と「現実には無い場所」をセレクトしないで表紙絵を組むのは毎回大変のようです。編集からは「毎回違うテンションで！」ってしか言われないし。

宮 この号はイラストの微妙なトリミングにこだわってた記憶があります。

編「(何度も聞きますが)スク水は描いていて楽しいですか？
楽しいですよね!そうですよね先生!!」
た「ボディーラインがそのまま描けるので楽しいです。」

Reference Materials

COMIC LO Volume. 30

た 石垣島のどっかの浜。この年は初夏に行ってきたので、すぐ絵にしてみましたがそんなにイメージ出てないかも。旅行中ほとんど曇っていたのでその印象が絵に現れてしまったのかもしれんです。

編 前号のコメントの流れからすると、少し変わっているのがこの号。南の島の浜辺で寝そべる少女というのは、LO表紙的にはすごくめずらしい。たかみちさんは沖縄好きなので、自然と出てきたモチーフなのかもしれませんが、私がこの絵をはじめて見た時は「ああ、あの世の絵だ」と思いました。美しすぎる光景はなんか死を思わせるのでちょっと怖い。

編「沖縄に行ったことがあると聞きましたが、いいところですか？」
た「海好きにはすばらしいところさー。」

Finished Image

宮 イラストを活かした上でのデザイン的メリハリ感と言うのは重要項目だと考えています。

Design Rough

「どこにもない、どこかへ。」

Rough Illust

Reference Materials

COMIC LO Volume. 31

た 清流を岩でせきとめてスイカを冷やしたのを思い出しながらこんな感じに。もっと具体的なロケーションのイメージが頭にはあるのに一枚の絵では描ききれないもどかしさがあります。

編 なんか妙に漫画チックなイラストです。たかみちさんは昔漫画家を目指していたこともあるそうで、聞けば「ギャグでいこうとしていた」とのこと。想像つくような、つかないような…。たかみちさんのお笑い好きもけっこうなもので、イラストを描く時は音楽とかでなくてお笑い番組をずっと流しながら描くそうです。特に松本人志が好きらしい。

編「印刷物の緑色って、なかなかうまく発色しないんですが、LOでの発色はきれいに出てますか？」
た「出にくい気はしますけど不満は感じたことありません。」

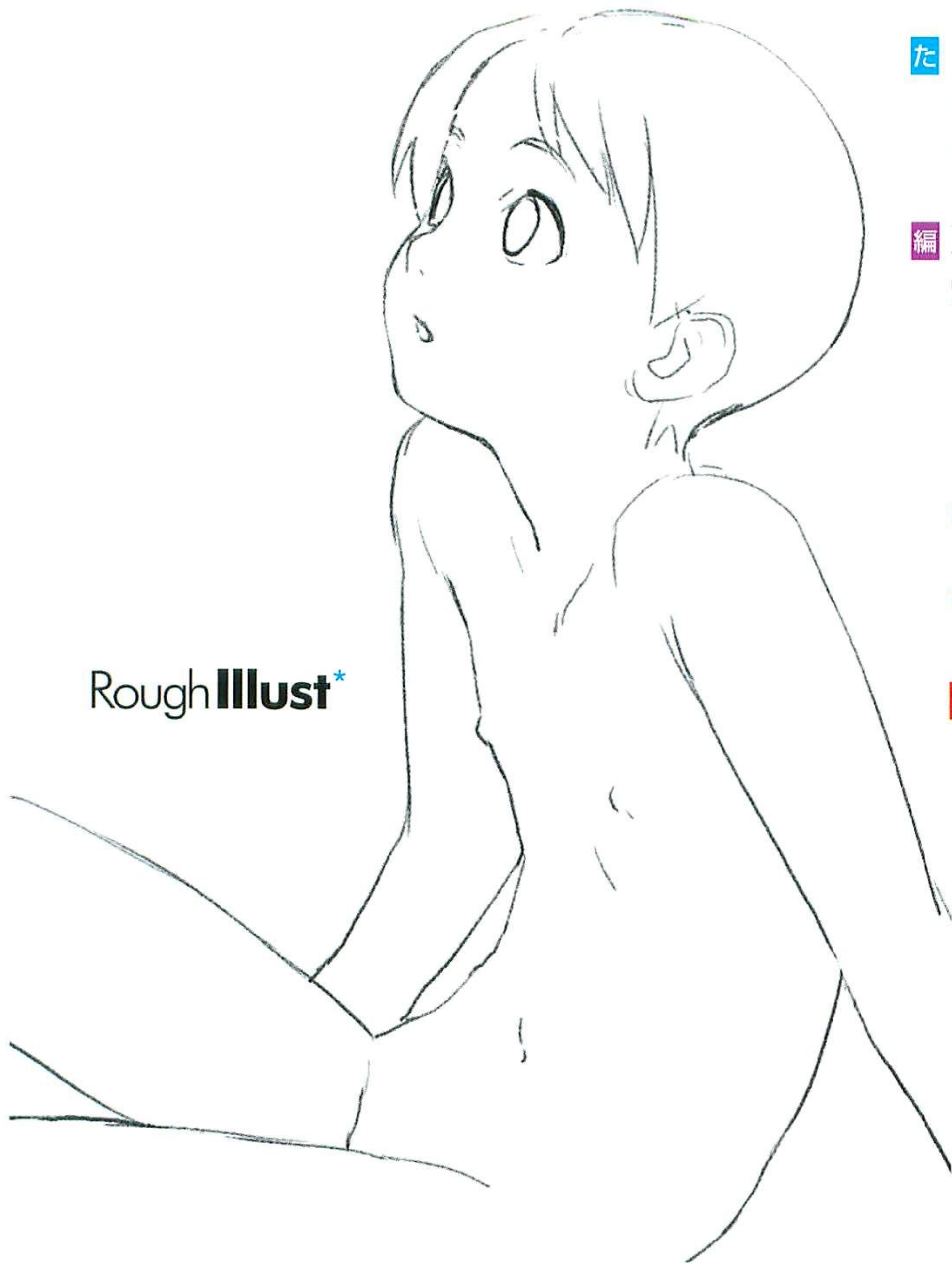
宮 LOロゴの前にキャッチコピーを持って来る事で本のイメージを違った印象にしたかったのです。新しいタイトルの本…みたいな。

Finished Image

健全なるもの LO 10

Design Rough

Rough Illust

Rough **Illust**

た　高濃度のフォグっぽく処理した背景は絵的にまとめやすくて好き。LOの表紙では珍しい。
わしの描く眼鏡っ娘は歴代不評なのでなるべく描かないようにしているけど、印象の薄い娘だったせいか自然と眼鏡キャラにしてました。

編　ちょうどこの頃ラノベがすんごい流行っていた気がします。思えば私の中学時代からそういったものはあって、中高生の欲求はネットと携帯だけじゃないことがわかって、少し安心します。私自身はラノベをあまり読まないダメ人間なのですが、他のいろんなところからキャッチコピーのネタをパクってきたりしています。本来ならここでネタばらしするのが「正しい楽屋落ち」なのでしょうが、どうも恥ずかしい＆ネタ元の方に本気で叱られそうなのでやめておきます。ヘタレですんません。

編「こういうイラストを見ると聞きたくなるんですが、中学校時代思い出に残るイメージ(シーン)って何かありますか？」
た「ツッパリ達が便所の渡り廊下でいつも弁当を食べてる場面が強烈すぎて…。」

宮　文字や色フチで色味をプラスしてみました。ロゴもいつもと違った処理になっています。

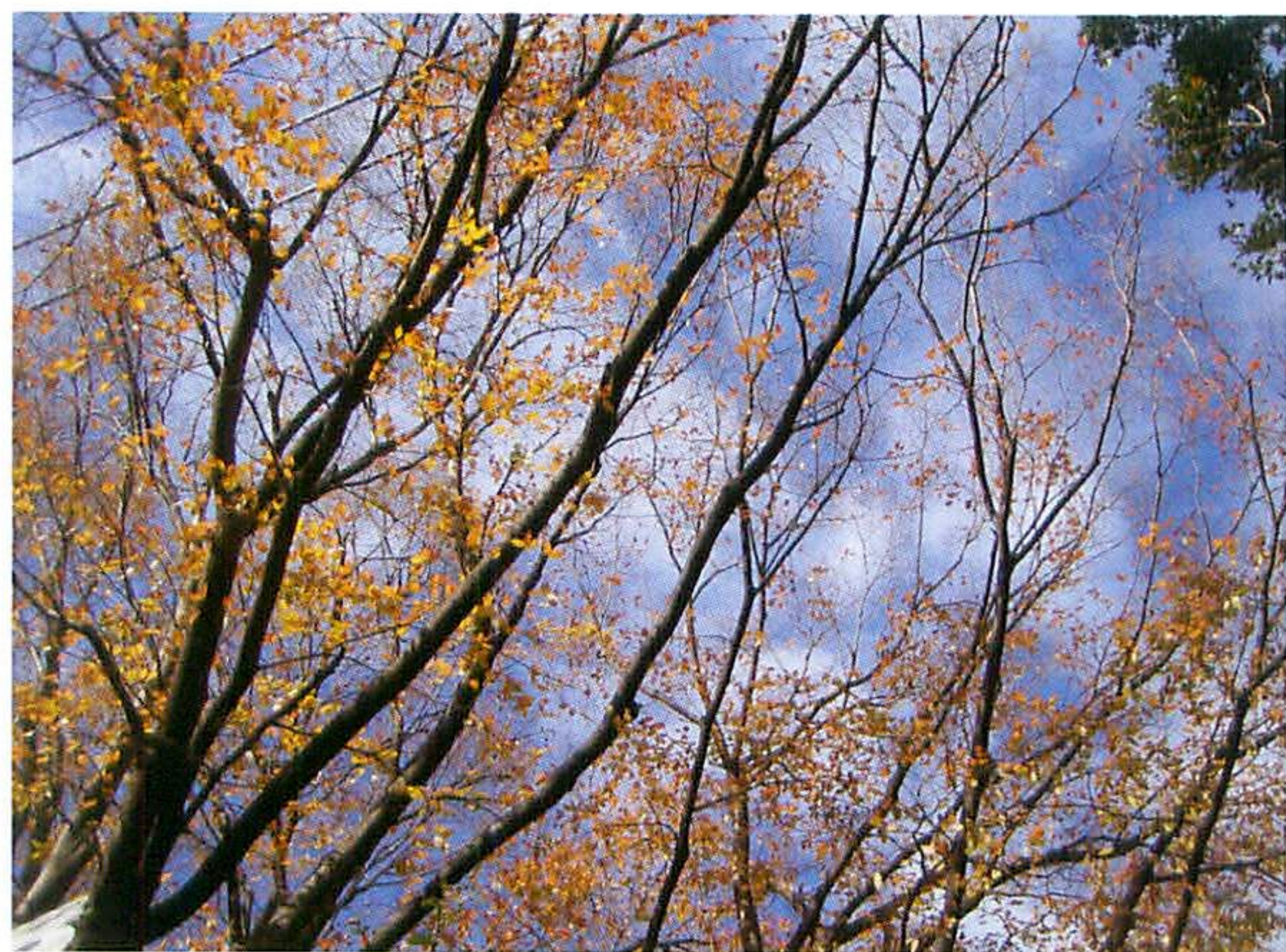
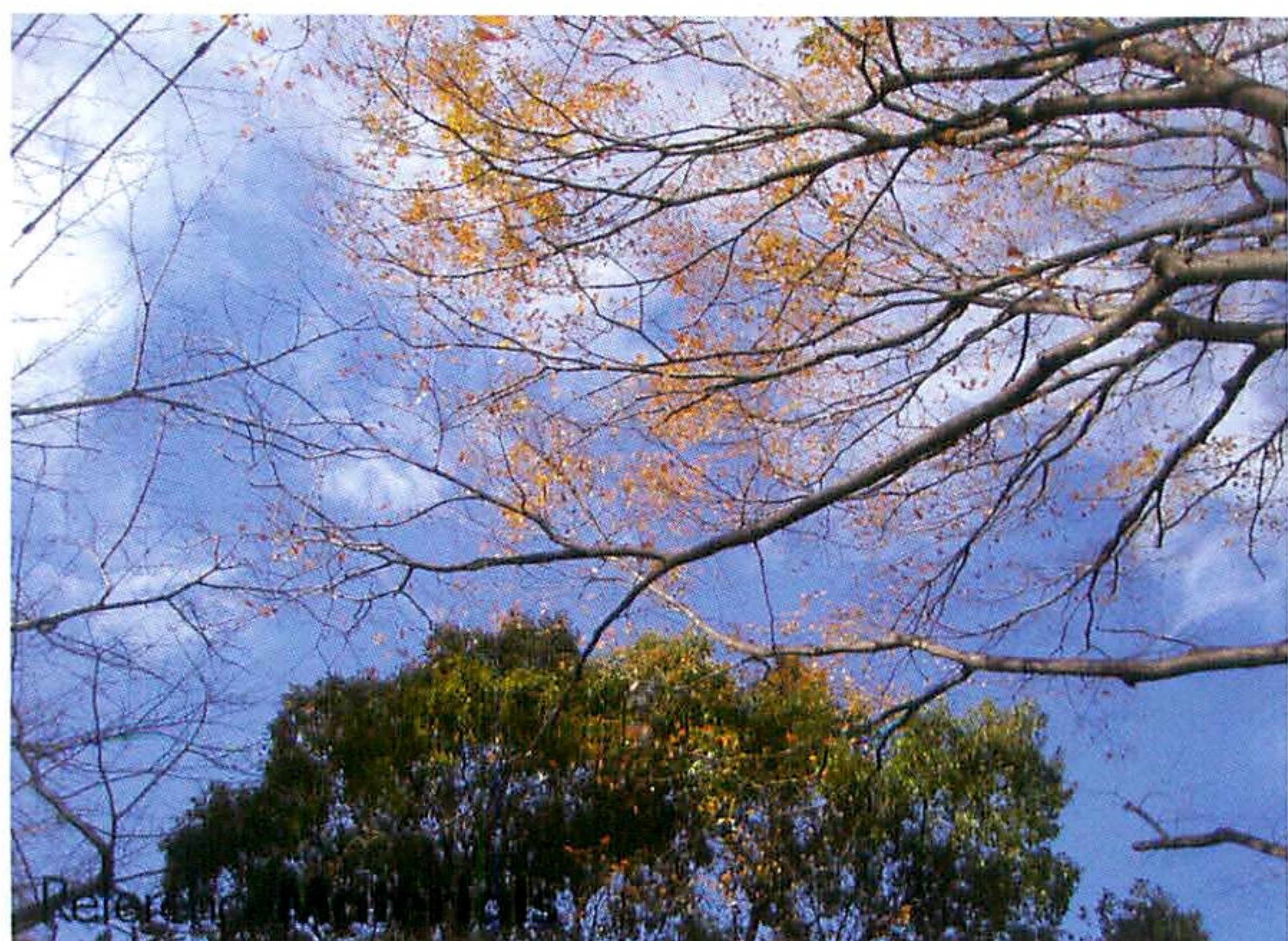
COMIC LO Volume. 32

Finished **Image**

Design Rough

ライトノベルよりも、ちょっとだけエッチ♡

ライトノベルよりも、ちょっとエッチかも♡

エルオー

Reference **Materials**

た　デジカメ好きなので。少女の持っているのはN社だけど背景の写真資料はC社で撮ってたり。
LO表紙では初めてのパンチラ絵、大変さりげな～く描けたとおもいます。まあデザインでおもっきしフォーカスポイント当てられているんですけど(笑

編　「33パンチラー！」な1枚。秋空の青さも眩しいイラストなのですが、これをたかみちさんからもらった時は「パンチラ！パンチラですね！すごいですね Vol.1 以来じゃないですか！いいですよねパンチラ」とその話ししかしなくて、たかみちさんを呆れさせた記憶があります。むしろカメラのレンズ効果などを使った構図取りがポイントの絵なんですよね、本当は。LOの表紙絵はカメラレンズのイメージで作られていることが多く、カメラ素人の私としてはなかなかに手ごわい打ち合わせになります。

編「カメラは何を使っていますか？機種ごとに何か違いとかあるんですか？」
た「主に広角撮影に有利なデジタルカメラを使ってます。オートフォーカスの精度、オートホワイトバランスの精度、高感度撮影が得意だったり、発色が好みだったり機種によっていろいろ、自分は発色とホワイトバランスが好みの機種を選んで使います。」

宮　これはもう、この絵でフォーカスするのはそこなのかな、と(笑)
キャラ、背景、ポイントを活かす為にロゴは半透明にしました。

COMIC LO Volume. 33

Finished **Image**

Rough **Design**

COMIC LO Volume.
34

Finished **Image**

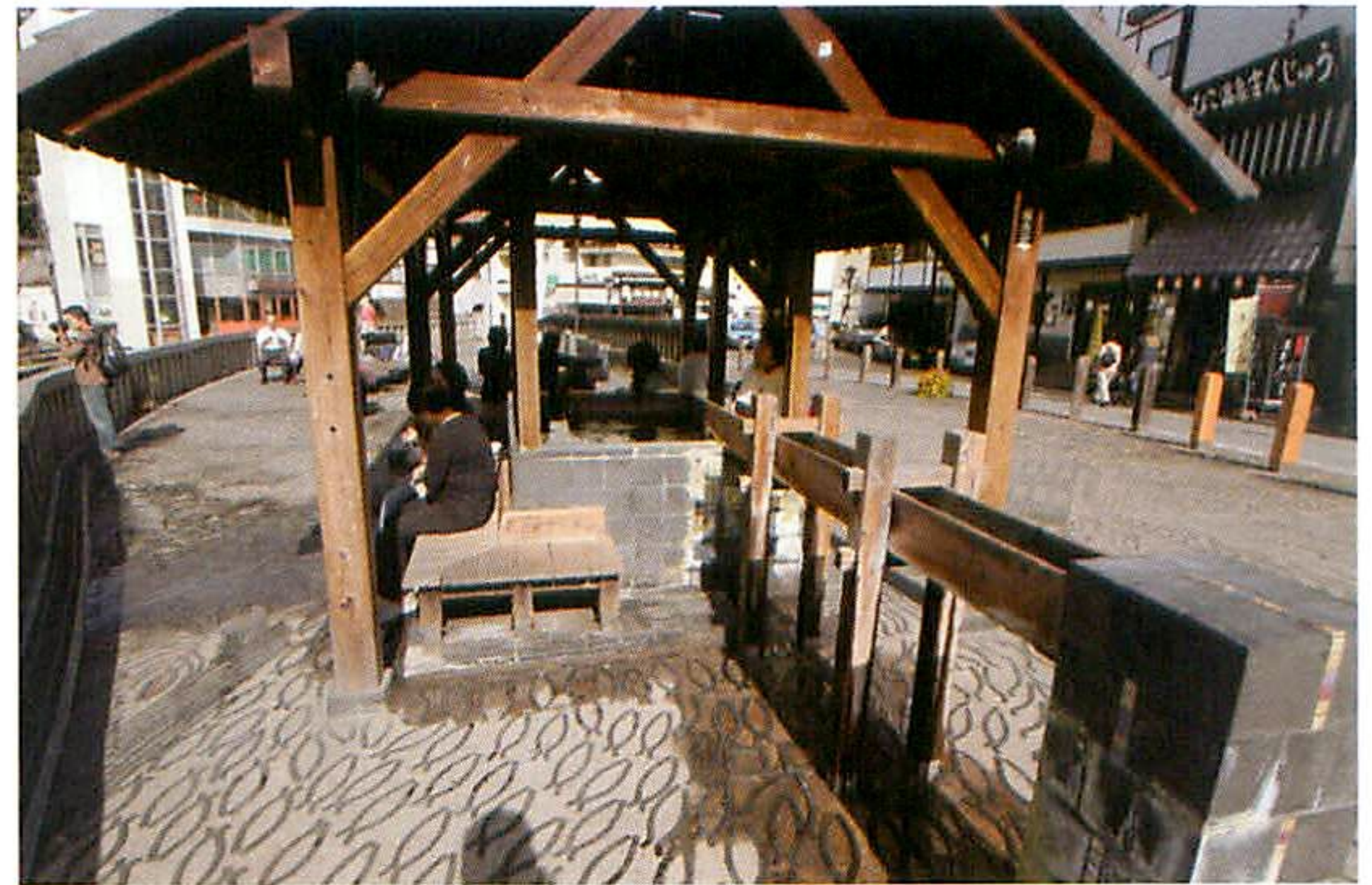
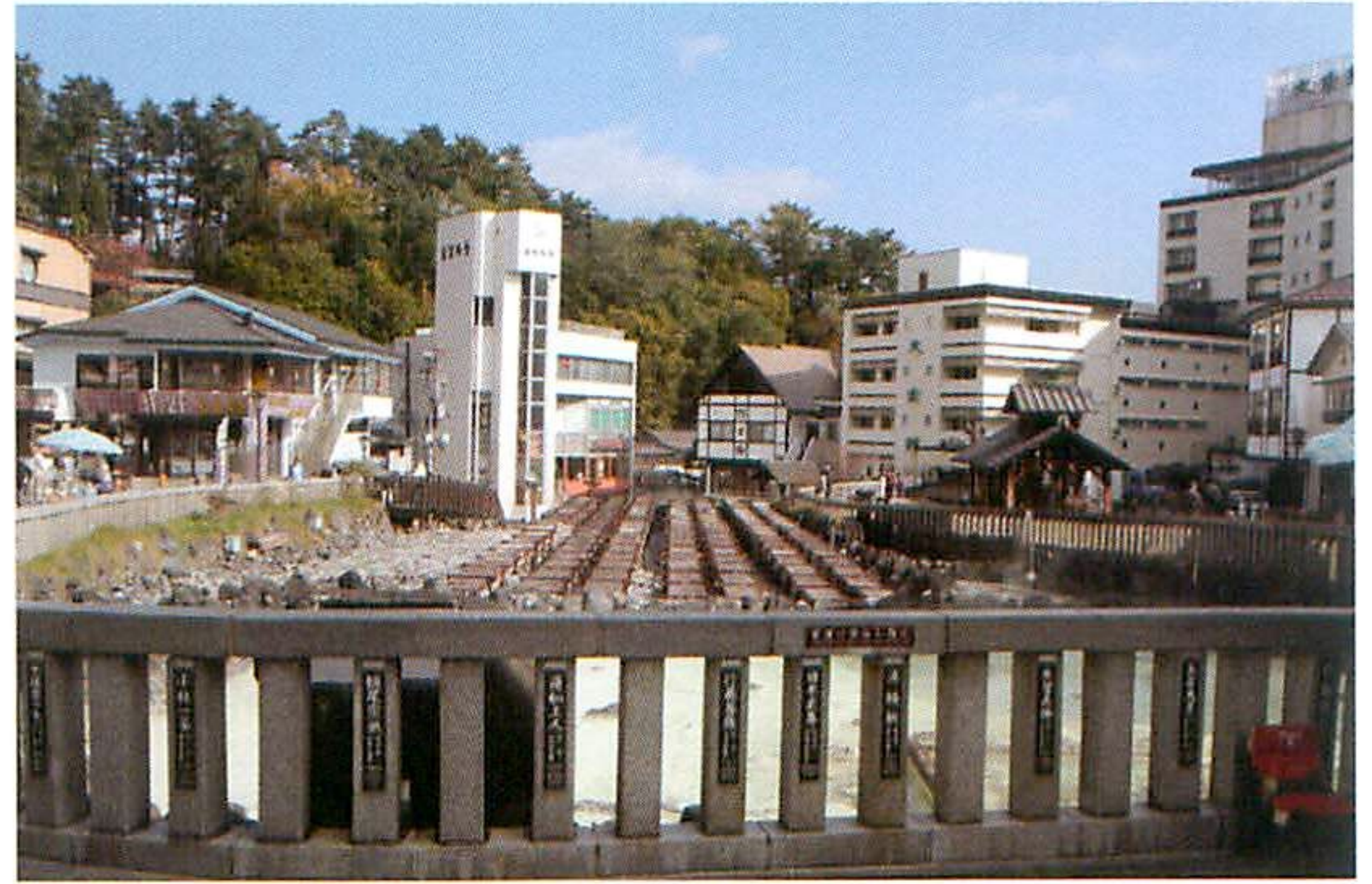
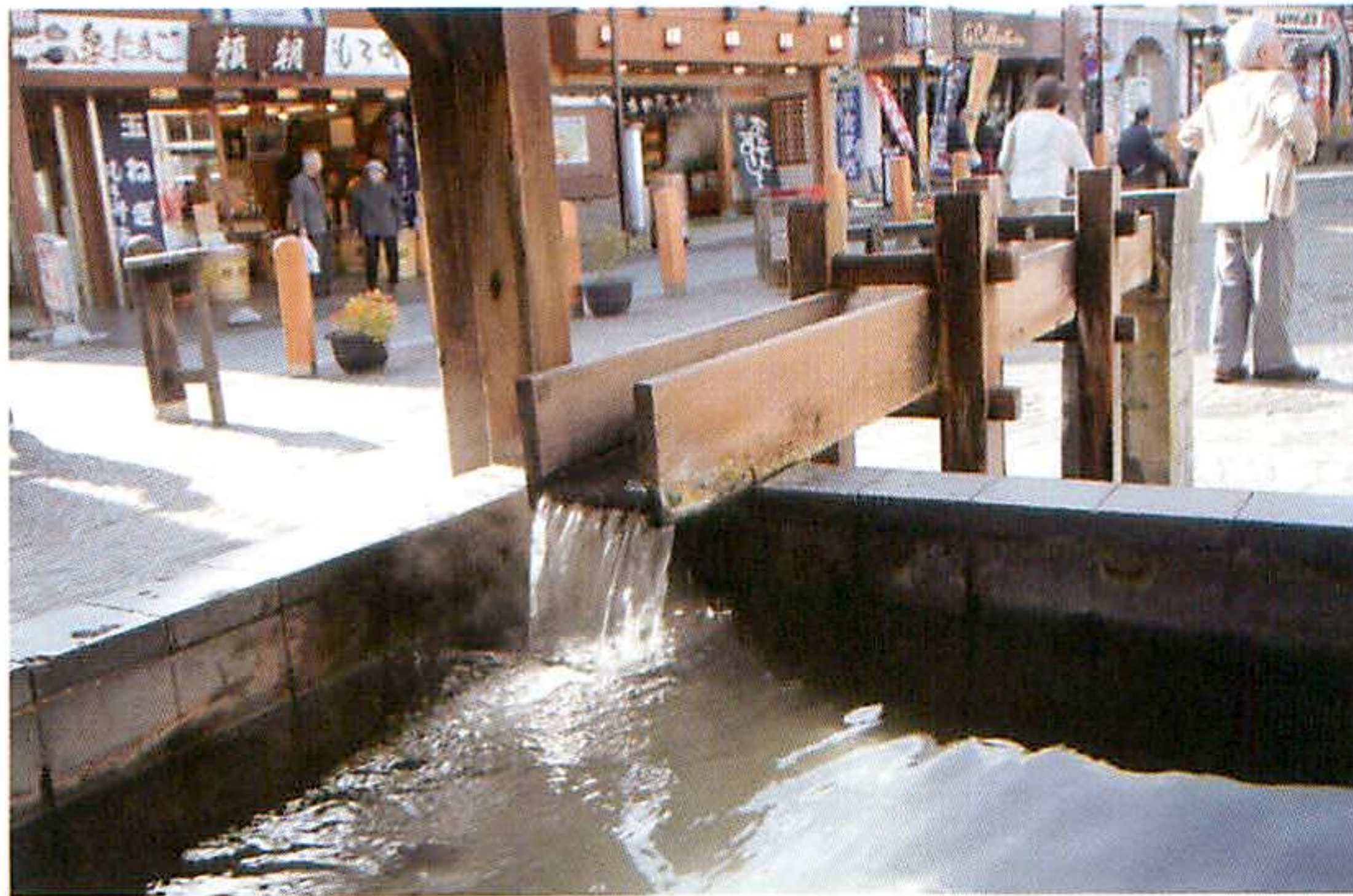
宮 ちょっと和風でありつつ、上下に入れた黒のラインでどっしりと落ち着いたイメージに。足湯で和んでる雰囲気が強調できたのではないかと。

編「そういえば実際の場所をそのままイラストにすることが少ないみたいですが、イラストではどう変えたりするんですか？」
た「頭のイメージ優先でパースを捻じ曲げたり、効果の無いものは排除したり絵に都合いいようにします。」
編「それだと今回の元ネタ判別は難しいなあ。あ、ちなみにイラストのような子はいなかったみたいですね。別の写真はオバチャンばっかり…。」

た 足湯です、後ろは見えてないけど湯畑です。さてここはどこでしょう？

編 キャッチコピーは主に①ナレーションタイプ②少女を見てる人視点③少女本人視点の３バリエーションでできてます。コピーの芸幅が広くないのにも関わらずLOがいろいろやってるように見えるのはイラストとデザインの視覚効果によるものです。現代はビジュアルの時代って言いますけど、LOなんかはまさにそれ。ビジュアルのイメージ(私はパッケージって呼んでます）で全体のイメージが変わってくるって面白いものです。もちろん、キャッチコピーを作る側としてはいつか文字だけで勝負したいなとも思いますが、その時はたぶんたかみちさんに逃げられた時だと思うので、そーゆー勝負事は先延ばししたいです。

Reference**Materials**

COMIC LO Volume.
35

Finished **Image**

た スケートの絵は何度か挑戦しては引っ込めてます、強引に書き上げました。やはり経験の浅いものがテーマのときはふわっふわしてしまいますな。

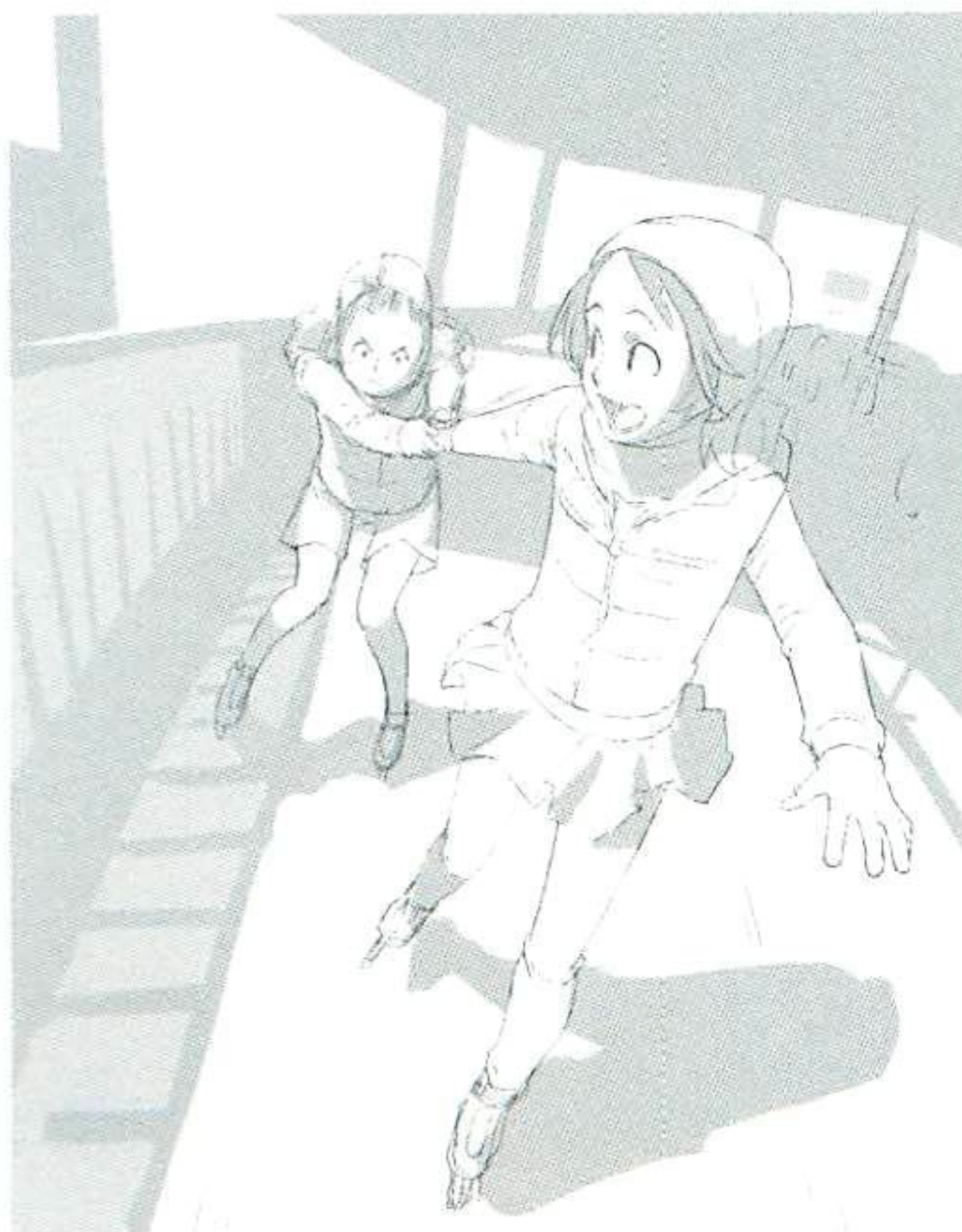
編 どーにもキャッチコピーが思いつかないときは、とにかく寝ます。寝転びます。寝転がります。ずっと前に物知りの知人から「中国では『三上』ってのがあって、臥上（寝ながら）、厠上（トイレしながら）、馬の上（移動しながら）が物を考える好条件である」と教えられてから、そうして編集部をゴロゴロ転がって考えてます。私的思考のベストポジションは足を頭より上に上げた「シェイプアップポーズ」みたいなみっともない姿勢。なのでなるべく人のいない時間にLＯのキャッチコピーを考えるようにしてます。あと、カレンダー企画は完全に突発企画なので、毎年とか付きません。そのうちまたやりたいです。

宮 その動きを活かしたいなぁと思い、キャラのパースや影も意識してデザインしてみました。コピーにも影が付いて一緒に滑ってるんです！

編「イラスト１枚描くのにどれくらい時間がかかりますか？」
た「5日ほど。」
編「没ラフを含めると、たかみちさんの人生がずいぶんLOで埋められていくような…。でも、おかげでこうして画集を作らせてもらえるからいいですよね！ねっ!?」

Rough **Illust***

Rough Illust*

COMIC LO Volume.
36

た 食欲を刺激する絵に挑戦してみました。
完全に本のテーマを忘れてます。
ラーメンスープも水表現の一種なので楽しいです。

編 この表紙は多方面の人に褒められて嬉しかったです。なにせ、エロ漫画雑誌の表紙でコレですからね。イラストを初めて見たとき「どーしよかな、これは…」と絶句しましたが、なにせ可愛いので気にせず普通にまとめました。雑誌の表紙で作家さんのペンネームが小さいってことに関しては、編集的にけっこう難しい部分もあるのですが、まあいいかと考えるのを止めてます。ちなみに、たかみちさんは毎回ロゴ位置と作家ペンネームの入れる余地をちゃんと考えて構図を決めてくれます。それを編集とデザイナーが読み解くようにデザインする過程が実に楽しい。

編「自炊しますか？」
た「自炊しますけど炊飯器はありません、
ごはんはレンジで蘇生さすタイプのやつです。」

宮 この号は物凄くインパクトのある表紙になりましたね。キャッチコピーも大きく前面に押し出してます。「ONE AND ONLY…」の英字はどんぶりに。隙あらばオモロイ場所に入れてやれ！といつも狙ってます（笑）

Finished Image

Reference Materials

Design Rough

COMIC LO Volume.
37

Rough Illust*

Finished Image

た さわやかな色合いの雪景色が描けました。

編 デザイナー・宮村和生さんはハンサムである。ハンサムなだけにおしゃれである。ついでにイラストも上手い。ハンサムでおしゃれでイラストレーターなので当然文字も可愛い。この号のタイトル・キャッチコピー・作家ペンネームなどすべて宮村さんが手描き文字を用意してくれたもの。発売当時に「あの文字フォントはどこで売っているんですか？」と問い合わせがあったほどの反響でした。

宮 編集W氏↑そんな嘘は書かないように。僕は単なる酒好きなオッサンですから…。たかみちさんの意図とは異なるとは思いますが、「卒業前に友達が写真を撮って、思い出に文字を描き込んだ…」と言うのがこの号の僕のコンセプトだったので、ロゴまで全部手描きにしてみました。この手描き文字は2人の人が関わっております。

た「この号（Vol.37）の手書きデザイン、驚きました。」
編「それは私も。ちなみにこの文字描いたのは宮村関係者だとか…。問い合わせもけっこうありましたから、"LOフォント"とでもして売り出しましょうか。」

Design Rough

ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE
ONE AND ONLY COMIC MAGAZINE
おはよう！
おはよう！ たかみち
おはよう！ たかみち
おはよう！ たかみち
おはよう！
おはよう！

COMIC LO Volume. 38

た この桜も例によってド順光アングルで。

編 再び桜。前にも触れましたが、LOの表紙には「PP加工」というビニールを貼ってキレイにする加工が入るのですが、それによってイラストの色が微妙に変化するのが悩みの種。特にこの桜の色は難しくて、薄くて淡くてぼんやりしつつしっかりとピンク色ってのを出すのは大変。そういうこともあって、今回の画集のように「ほぼ完全にたかみち色」ってのをお見せできるのは嬉しいです。スキャンしてZipファイルで見ればいいと思っている人には絶対わからないであろう、印刷物の贅沢さってのがあると思います。その贅沢さが伝われば苦労し甲斐があるのですが…。

編「灰色について、何か気をつけていることは？」
た「この号（38号）みたいにならないこと。」
編「うーん。これも春霞なんですけどねえ。」

宮 最前面にきてる桜を活かしたデザインを検討しました。淡くはかないけど強く咲き誇る桜（と少女）。

Finished Image

Design Rough*

Rough Illust*

COMIC LO Volume. 39

た 前から大きく動物が入る構図をやってみたかったので挑戦してみました。たくましいコピーをつけてもらったおかげで、うさぎもよりいっそう力強くみえます。

編 いきなり兎。動物絵はLOでは珍しくないものの、ここまでドーンと描いてあるのは前代未聞。キャッチコピーは悩みに悩み、3日転げまわりながら考えました。しまいには「僕は兎…小学校の生き物係りに飼われている兎だ…ああ、キャベツ美味いな…」と兎になりきるところまでいきました。デザイン含めどーかなあ？と思ってましたが、たかみちさんが「あれは良かった」と褒めてくれたので、今は気に入ってます。

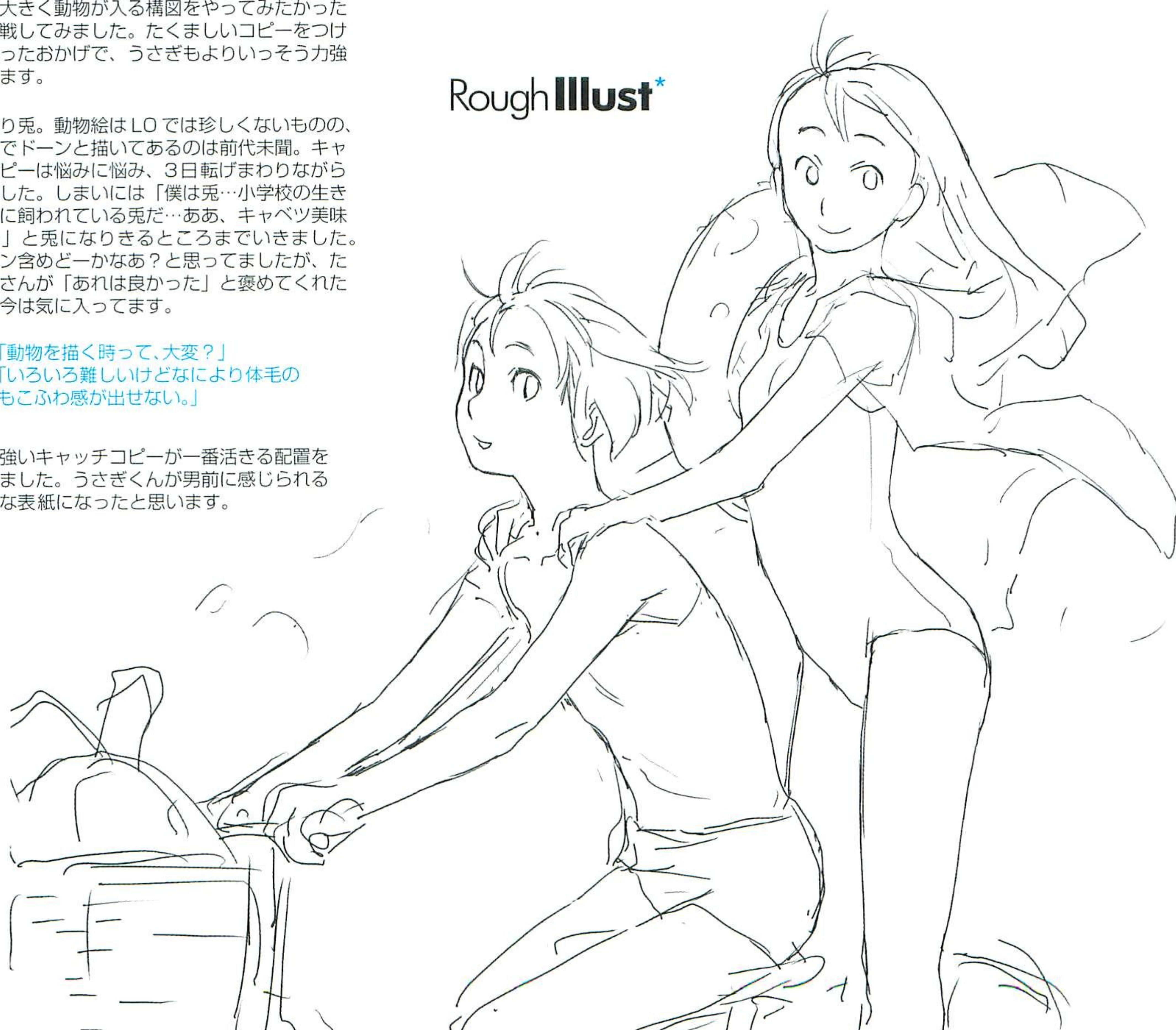
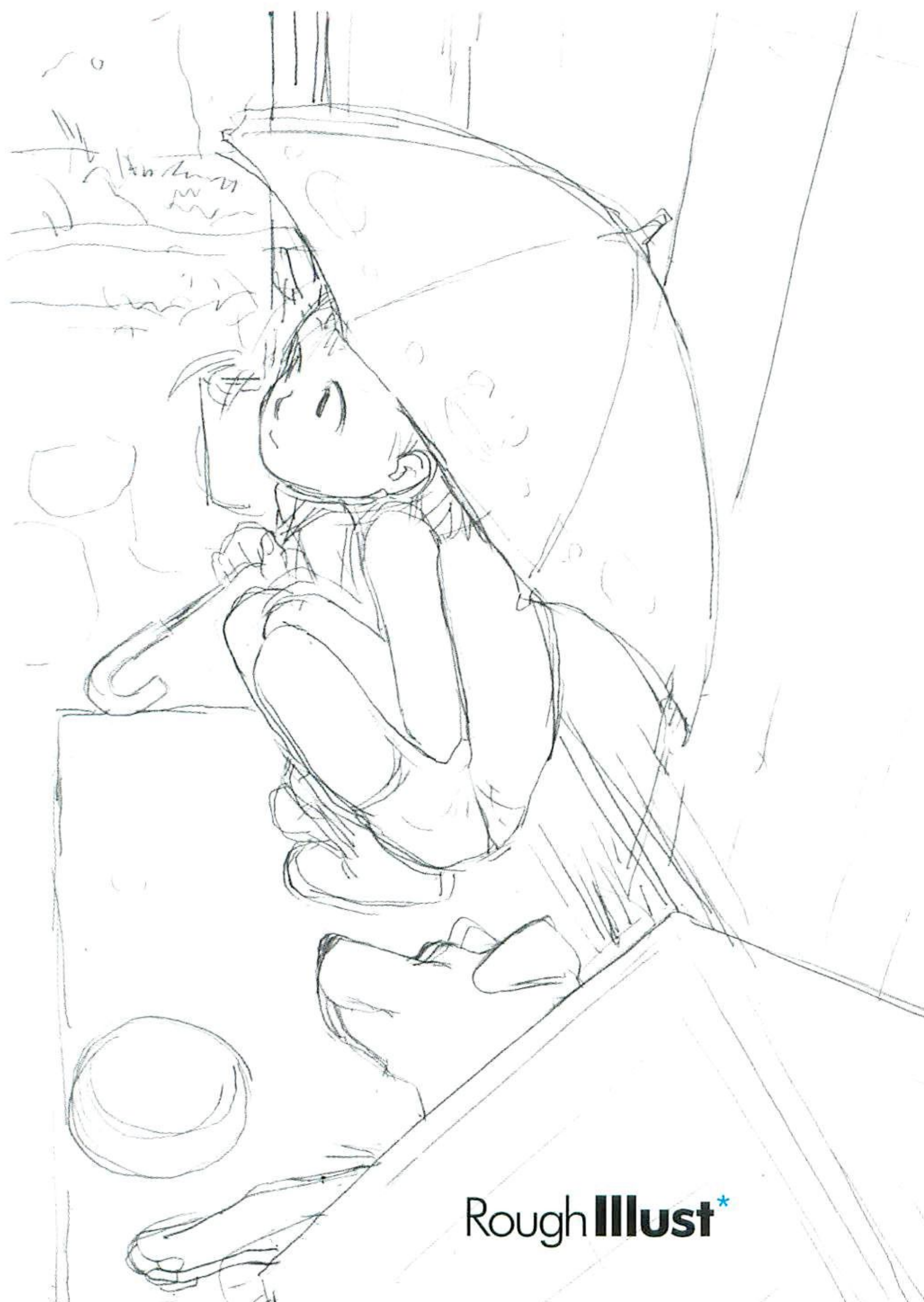
編「動物を描く時って、大変？」
た「いろいろ難しいけどなにより体毛のもこふわ感が出せない。」

宮 この力強いキャッチコピーが一番活きる配置を模索しました。うさぎくんが男前に感じられるナイスな表紙になったと思います。

Rough Illust*

Finished Image

Design Rough*

COMIC LO Volume. 40

た 実体験を思い出して。
濡れた地面が描きたかったのです。

編 雑誌は地球環境にすごく良くないものだと思います。紙とかすごーく使うし。ゴミいっぱい出るし。面白くなかったり売れなかったりすれば、人にはゴミって言われてしまうし。だから地球のことを考えてLO出すのやめます！って言うのはつまり編集の失職を意味するので、再就職先が見つかるまでやめておきます。雑誌の存在意義ってのは、せめてほんの少しでも人に楽しいと思わせること、その１点だけで十分なので、そこだけ考えて作ってます。

編「雨を描く時、楽しいことと大変なことは？」
た「濡れ表現が楽しいです。降る雨粒の表現に迷います。」

宮 文字類も「全部一緒に雨やどり!!」がコンセプトで作っていたので、ほとんどが左側にレイアウトされています。フードボウルに例の文字が（笑）

Finished Image

Design Rough

ONE AND ONLY
COMIC MAGAZINE

「ただ今地球は、静かさむいです。」

Rough Illust

COMIC LO Volume. 41

た 夏は水着とほぼ決まっているので
ポーズ優先で進めました。
横アングルからの曲線は描いていて楽しいです。

編「夏空は描きやすいですか？」
た「青く塗りつぶすだけでも空に見えるあたり最強では。」

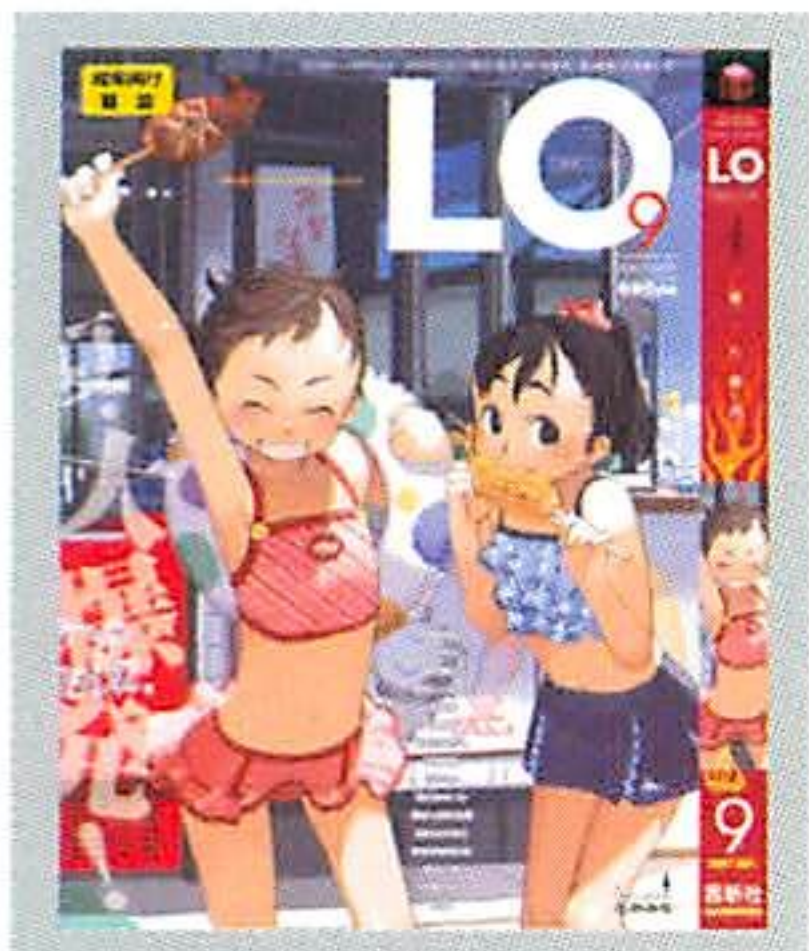
Finished Image

宮 絵にフチを付けるか否かで、その印象はかなり変わります。この号はそれも含めて随分議論した様な気がしますネ～。

Design Rough

Rough Illust

編 めったにないのですが、たまにキャッチコピーの入り方でデザイナーさんと議論になることがあります。デザイン上のバランスとキャッチコピーの意図はごく稀に齟齬をきたすので、そういう場合はデザイナーさんに折れてもらうことが多いです。雑誌の表紙は意図的なものなので、その意図（あるいは思い込み）が強固にあればデザイナーさんの論理を超えるのも時々だけですが許されます。要は編集のワガママに付き合ってくれるデザイナーさんに対話能力が絶対必要ってことでもあります。宮村さんは話せる人だ。

COMIC LO Volume.
42

た 季節らしく浜の元気な女の子がテーマで。食いもん描くのが楽しいので裏テーマに食を取り入れてみたり。

編 LOの売れ行きに水着はとても大切なファクターとなってます。数字で言うと数千部単位で違ってきます。私と同じくどんだけ少女の水着姿が好きなのかと。面白いのは海外のサイトでLOが取り上げられる（!?）時もやっぱり水着絵が高評価だったりすることですね。少女の水着は文化の壁を越えてゆくのかと。LOの表紙が中国語で紹介されていたのを見つけたことがあるんですが、その下に「ロリコン乙」ってコメントがついていたのもボーダレスな感じ。

編「イカは好きですか？」
た「好きですが焼きイカの皮は危険です。」
編「皮…？」

宮 少女達の夏休み、楽しく燃えてるデザインを目指して制作しました。コピーの途中や背も燃えてます!!
ちなみにイカ焼きは大好きです。（酒に合う）

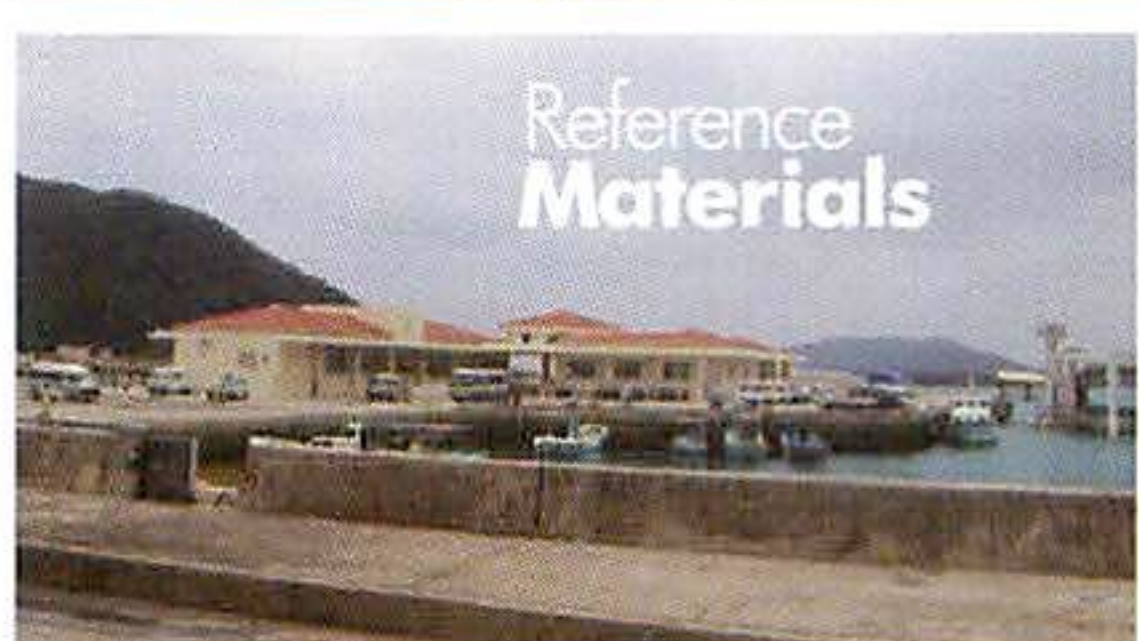
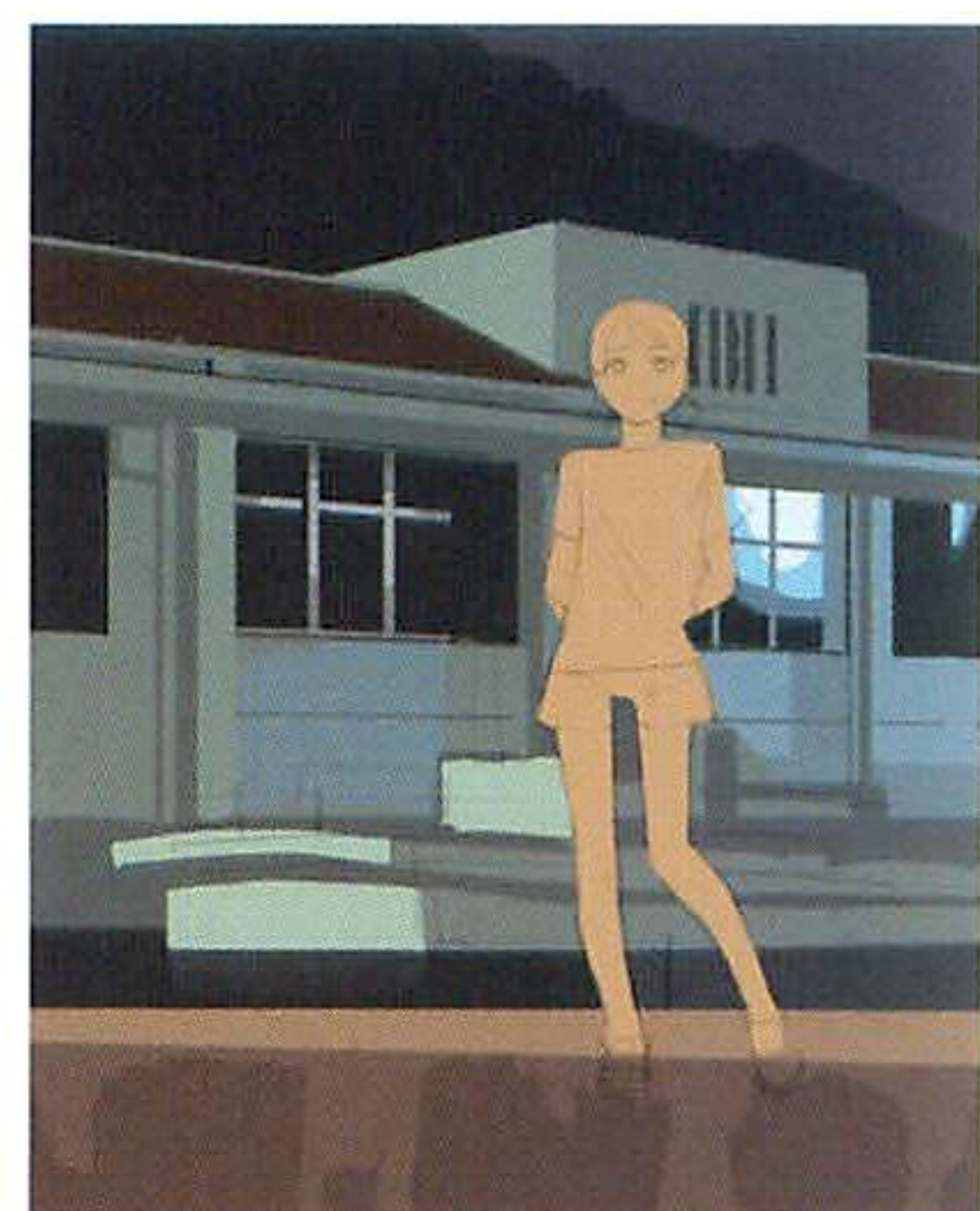
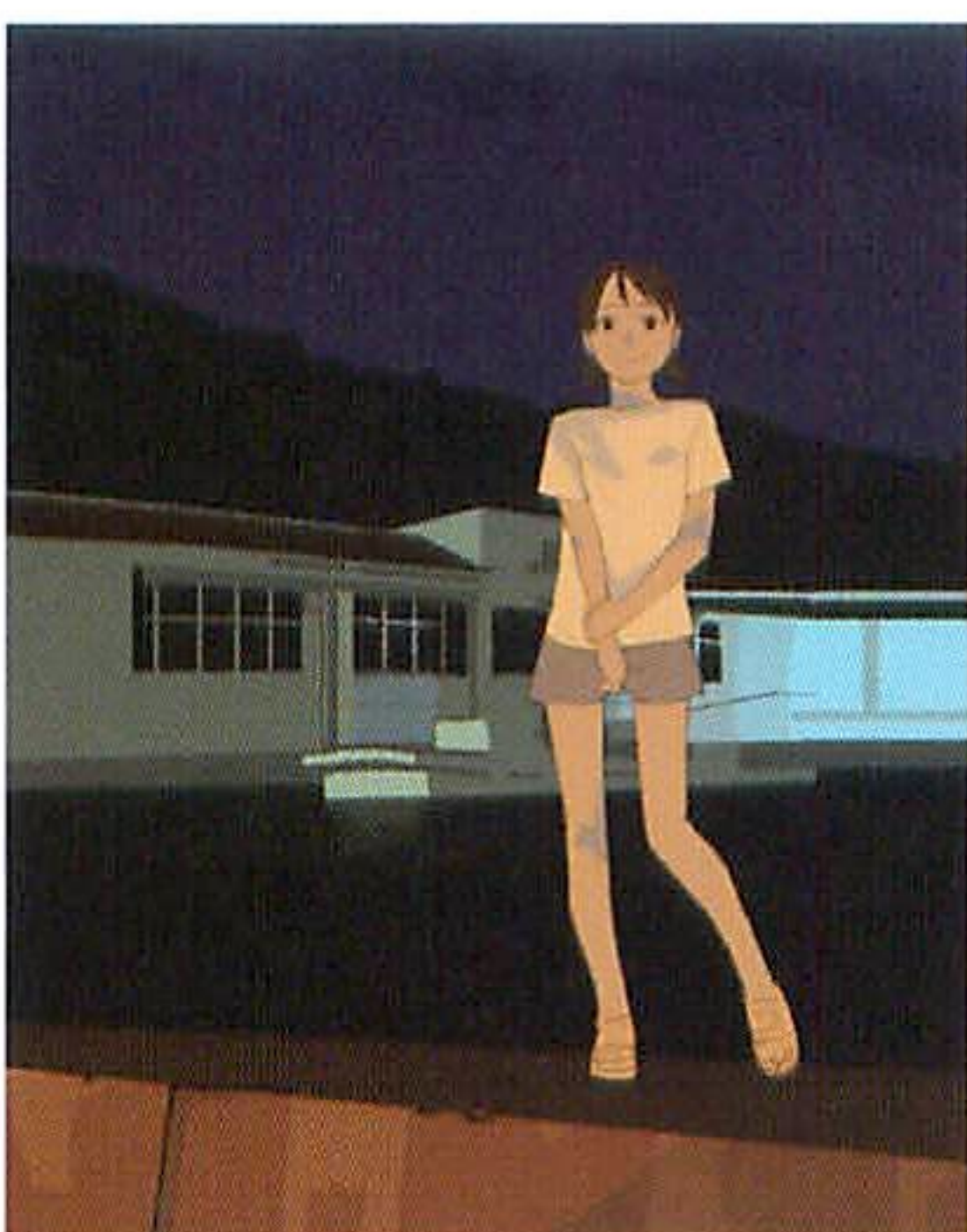
Finished Image

Design Rough*

Reference Materials

COMIC LO Volume.
43

Reference Materials

Finished Image

た 離島の静かな夜の海辺、あの感じを一枚の絵に載せたくていろいろ苦労してます。

編 これはLO50号の内一番キャッチコピーに苦労した号。絵的には「港の夜の風景」「夜の色」というテーマなんですが、これが私的に漠然としすぎて困り果てました。デザインは普通に宮村さんにお任せするとして、キャッチコピーはどうやって逃げようかと、それだけ考えてました。結果、このように長い文章しかも若干ストーリー的なものも匂わせつつな感じにしました。自身の文才の無さが恨めしいです。

宮 キャッチコピーが小説風に長いところが面白いですよね。雰囲気が好きな表紙です。

編「夜の色はどんなイメージの色なんですか？」
た「普通に黒です。」
編「だからなおさら難しいんですねえ。この没ラフの量。
一部全く違う方向性も試していたりとか。」

Rough Illust*

COMIC LO Volume.
44

た 少年野球の試合を見に行ったりしたけど、結局見に行く前に描いたラフをそのまま起こしました。
被写界深度の表現を手描きではなく、はじめてぼかしフィルタで表現してみました。実際にはレンズのボケは光が膨張するので単純なフィルタ処理ではちょっと違ったかも。

編「スポーツ少女、しかも野球少女を描いて描いて！」とオネダリしてたら素晴らしいのができました。こういう動きのあるイラストがずっと欲しかったんです。少女の一瞬の姿を捉えるというのは、恣意的すぎるとイマイチに思えるときもありすごく難しいテーマなのですが、まさに「たかみちの、いいしごと」。こういうイラストが来た場合、キャッチコピーもすぐに思いつきまして、デザインの打ち合わせもスムーズにいくことが多いです。「うまくいく流れ」って本当に重要なんです。

Finished Image

宮 目線、ボール、動き、次の展開…色んな事を考えならが検討しました。あ、前の球技（10号）の時も黄色をポイントにしてますね（笑）

Rough Illust*

ソフトボール

編「スポーツ少女は好きですか？」
た「アスリート系は好きです。」
編「私はブルマ少女が好きですが、LOでは1回だけ（Vol.20Lolendar）なんですよね。短パンも大スキですけどね。つーか美少女に嫌いなところ無し。」

DesignRough*

COMIC LO Volume.
45

た 個人的には毎号ハムスターの表紙でもいいくらい好きです。

編 ハム。ものすごくハムいイラストです。私もハムスターのモコモコ感が好きで、一時本気で飼うことも考えましたがその後猫を飼うことになって夢潰えました。あと、今回のキャッチコピーは大学時代に考えたコピーでして、いつか使うこともあるかと思ってたら実現した稀な例。使えて幸せです。漫画家さんや編集業やライターさんの多くは「ネタ帳」というメモ帳を常に持ち歩いています。皆さんにもオススメしたい「生活が楽しくなる趣味（時々実用）」です。

編「ハムスターを飼ってますよね？この写真のラブリーさ加減が凄い。」
た「宇宙一かわいい生物なので子供の頃から何度か飼ってます。今はいません。」
編「以前ハムスターの医療費のことも聞きましたが、あれも凄かった…。」

Finished Image

宮 ハムスター可愛い～！
そして良く見て下さい!!!!実はこの号のLOロゴの中にもハムスターがいたんです！

Rough Illust*

Reference Materials

COMIC LO Volume. 46

DesignRough*

編「LOのキャッチコピーで一番好きなものは？」
た「僕は生きる。君のために。」
　「そのうちどこかが目的地」ですね。
編「私は田舎育ちなのでこういうのが原風景
　なのですが、田舎の風景は好き？」
た「いいですね。」

Finished Image

ReferenceMaterials

た 景色をみるのが好きなので線路とか駅とかテンション上がりますね。

編 私は田舎育ちなもので、こういう風景の「あるある感」が素直にすごいと思います。「リアリティ」ってのは、LO的に最重要なテーマなのですが、表紙からこういった雰囲気を作ってもらえるのは編集として実に嬉しい。「リアリティ」は細密な描き込みでも表現できますが、たかみちさんの描き出し方は落ち着きどころが心地よくて素敵。絵を素敵と思えば思うほど、キャッチコピーを生み出す悩みは深くなるのですが、楽しい悩みなので苦痛ではないですね。

宮 たかみちさんの背景をどこも隠したくなくて、レイアウトに悩むことがよくあります。

COMIC LO Volume. 47

た 正直この歳になってもスキーよりあのソリで遊んだほうが楽しいのではないかと思う。

編 この画集のこのイラストは、たかみちさん曰く「実際のデータより良くできている」とのこと。通称「たかみちブルー」と呼ばれる青色表現は、主に空色や海色で発揮されますが、雪色で完全再現されるのは珍しいことだと思います。（今回たかみちさんにそのように言わしめたものはVol.35などもあります。）小さなインク粒の集合体としてのイラストですが、ほんの僅かなバランスでよく出たりうまくいかなかったり、四苦八苦してます。そーゆーバランスはなんか哲学的で面白いような気がします。

編「この号もそうですが、締め切りに関しては毎号…。」
た「厳しい。毎度軽々と突破してすみません。」

宮 雪の舞うイラストに合わせて、ロゴもふんわり乗せてみました。こういう遊び心いっぱいで作らせてもらえるのは本当に嬉しいことです！

Finished Image

DesignRough*

Rough Illust*

COMIC LO Volume. 48

Rough Illust*

た 野辺山駅の待合室を参考に。
でも実際はこんなんなってません。

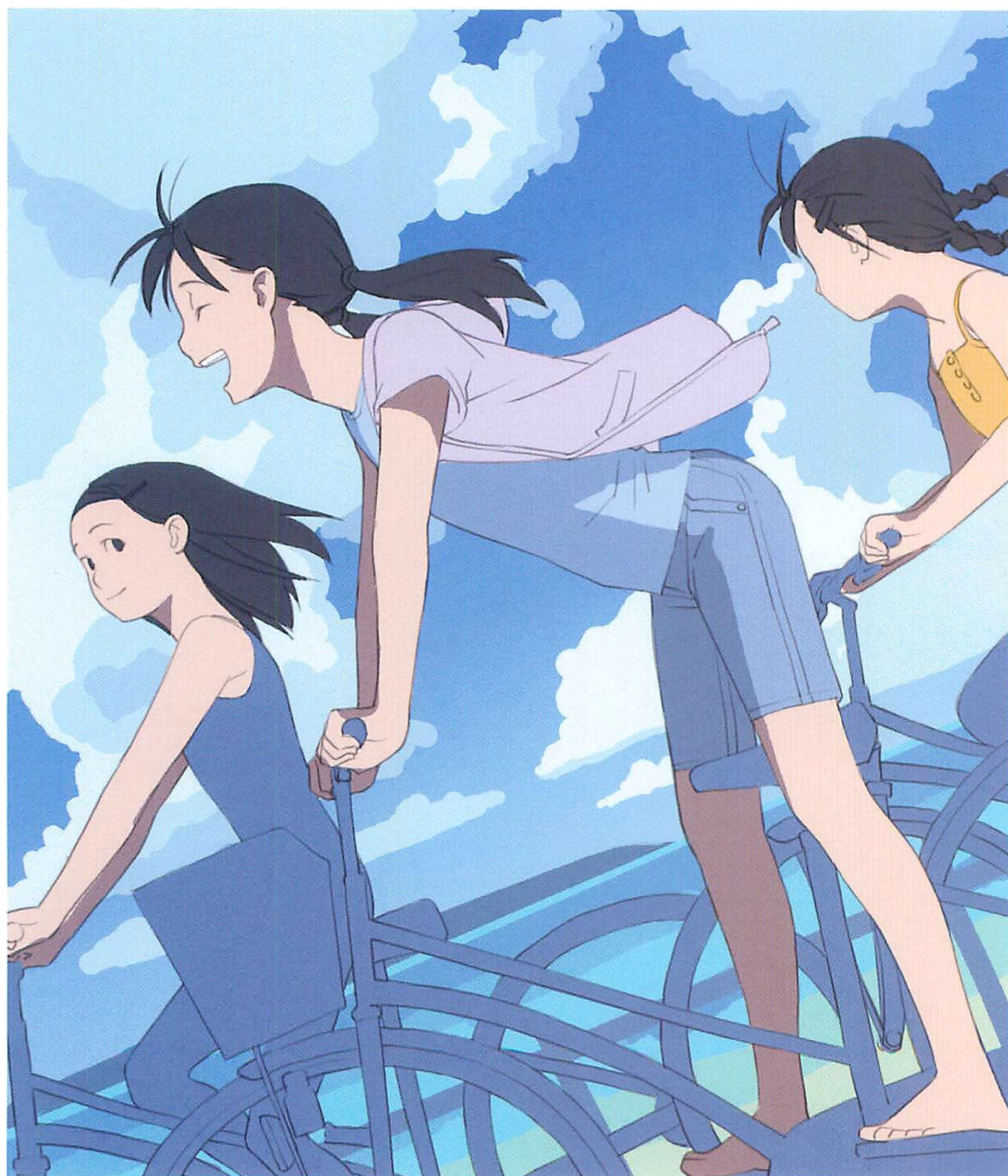
編 某インターネットでこの駅待合室を言い当てた人がいました。実際こんなふうになっていないのですが、ベンチの形や部屋の構成でそれを言い当てる鉄ちゃん（鉄道マニア）のすさまじい「鉄欲」はものすごくカッコイイ。彼らの赴く駅舎に、いろんな陽だまりの神様がいたりするんでしょうね。

編「たかみち"鉄っちゃん"疑惑の真偽は？」
た「鉄道には楽しい旅のイメージを持ってますけど詳しいことは良くわかりません。」
編「だそうです。」

宮 足元の陽だまりに合わせて、やわらかで暖かいイメージの表紙に出来たらなぁ…と思って制作していました。このストーブが懐かしい！です。

Design Rough*

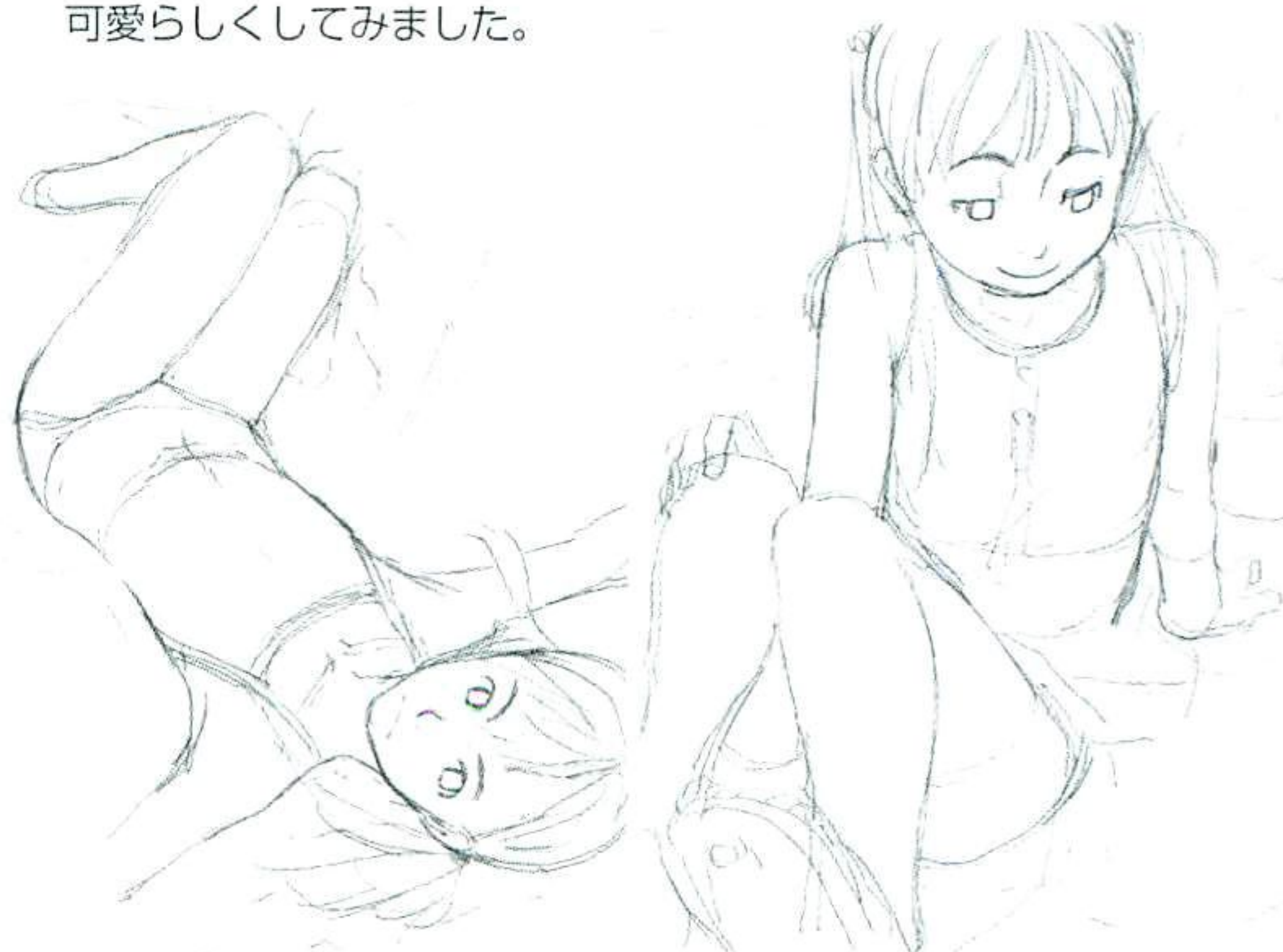
Finished Image

COMIC LO Volume. 49

Rough Illust*

た いろいろなものに挑戦していくといよいよこんなことにもなります。

編 この時も締め切りがキツくて、めずらしくムッとしたたかみちさんから「上がりました」と言われてダウンロードしてみれば、まあファンシーな絵だこと。ムッとしてファンシーな人も珍しい。怖いぐらいにピンクですので、LOとしてはこれまた珍しくエッチっぽい感じもしますね。ピンクはエロい。この仕事をしてて再認識しました。

編「ピンク色のLOって珍しいですよね？」
た「いろいろ描いているとこんなことにもなってしまいますね。」
編「このイラストを上げた時、たかみちさんが若干不機嫌っぽかったのを覚えているんですが、でもこの表紙ものすごく人気ありましたよ。特に女性読者から褒められてました。」

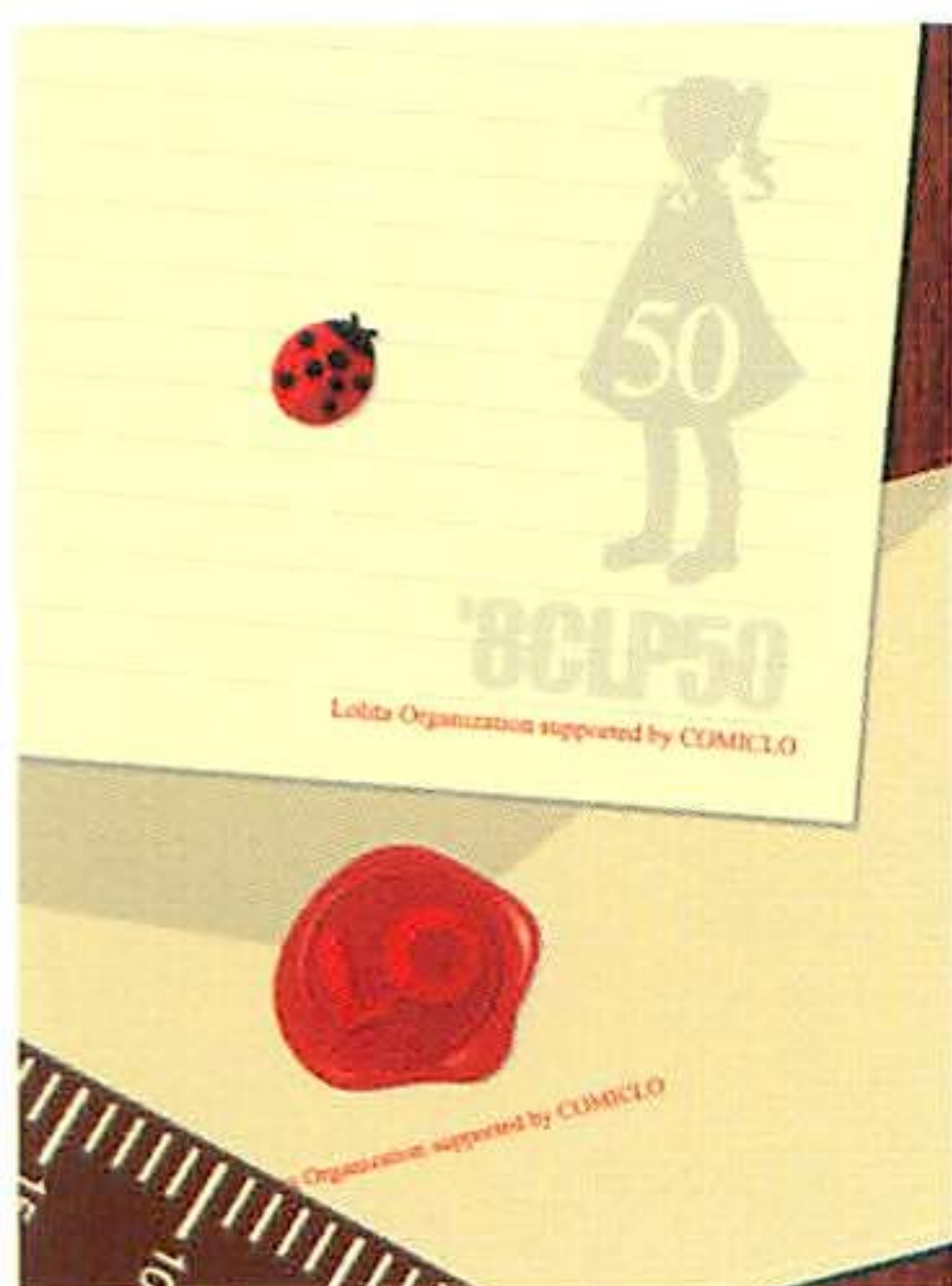
宮 珍しいピンクの表紙なのでキャッチコピーも、背も、いつもと違いファンシーで可愛らしくしてみました。

Finished Image

COMIC LO Volume.
50

Finished Image

宮 50号記念。記念に下のような手紙風の広告を作りました。

DesignRough*

編 めでたく50号記念。だからといって特別にランジェリーイラストとかにしないのが、たかみち的ジャスティス。50号記念だからといって、付録や特別企画とか一切無いのが、LO的ジャスティス…というか日々忙しすぎて忘れてました。私はどうも「予定を立てるがほぼ計画通り実行できない人間」らしく、この文章を書いている今の時点でこのLO画集がまだ半分以上できていないという無計画さで生きていますが、LOの未来もたぶんそんな感じです。LO画集第2弾も今から計画中ですが…どうか見守ってやってください。

た 桜も飽きたので梅を描いてみました。流鏑馬をテーマに持ってくるなら的は絶対に描かなければいけないのになにをやってんでしょうか。

Rough Illust*

編「絵の仕上げで注意することは？」
た「レイヤー統合した絵を上書き保存しちゃうこと。」
編「あー。…そういや最後に、家族にLOで仕事しているのがバレたりしてないんですか？少し心配で。」
た「電話での会話にて父：「LOの表紙の入稿は間に合ったか？」」
編「あああー。ちょっと安心しました。」

+ + + Creations
# COMIC LO

TAKAMICHI LOVE WORKS

2003年 Vol.2 『LOポスター』

2004年 Vol.4 『LOポスター』

2004年 Vol.5 『LOポスター』

2002年 Vol.1 『LOクオカード』

2005年 Vol.16 『LOテレカ』

2005年 Vol.17 『LOテレカ』

2006年 Vol.23 『LOシール』(未発表・お蔵入り)

TLW

POSTER/CARD/STICKER

Lastly.

This front cover illustration collection is made by various people and is supported. Then as a result of having consumed lots of materials, resources, I became a form. I want to thank the lots of people and objects first.

A magazine of COMIC LO is still continuing publication. Being a (September, 2008 present time) magazine will continue to make illustration world of "TAKAMICHI " to it even by also being destroyed someday. Since there is also a schedule that takes out book of pictures Vol.2 before long, I look forward and want to be waiting.

Now, how shall I do? as for a front cover of next month issue!?

LOVE

Lastly
This front cover illustration collection is made by various people and is supported. Then as a result of having consumed lots of materials, resources, I became a form. I want to thank the lots of people and objects first.
A magazine of COMIC LO is still continuing publication. Being a (September, 2008 present time) magazine will continue to make illustration world of "TAKAMICHI " to it even by also being destroyed someday. Since there is also a schedule that takes out book of pictures vol.2 before long, I look forward and want to be waiting.
Now, how shall I do? as for a front cover of next month issue!?

たかみち Takamichi

[生年月日]
1972年4月22日

[趣味]
デジカメ撮影　旅行

[作画環境]
PowerMacG4CUBE memory 1GB

[作画ソフト]
Photoshop3.0j、Painter6.0

[関連作品]
★漫画
「ゆるゆる」

★書籍
「おかあさん、もういちど　とんでよ!」絵本
「inclusion」小説・ビジュアルブック
「落下症候群」小説
「たかみち画集」画集
「果てしなく青いこの空の下で…」小説・ビジュアルブック
「カルシファード青嵐記・緋炎伝」小説
etc...

★ゲームソフト
「羅刹-Alternative-」
「inclusion」
「てんしのかけら」
「みずのかけら」
「HOSHIGAMI」
「果てしなく青いこの空の下で…」
「エアガイツ」
etc...

宮村和生 (みやむらかずお)

住：東京都在住　職：デザイナー
愛：お酒、音楽、2輪(バイク、自転車)
環：Mac/Illustrator/Photoshop
活：雑誌/小説/単行本/ロゴ等/グラフィックデザイン

FLOW COMICS

LO画集
-TAKAMICHI LOVE WORKS-

[発行日]　2008年10月15日　初版発行

[著　者]　たかみち TAKAMICHI

[発行者]　野田正修

[編　集]　株式会社 コミックハウス

[発行所]　株式会社 茜新社
〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-6-5 原島本店ビル1F
TEL：03-3222-1977(代)
FAX：03-3222-1985
振替：00170-1-39368

[装　幀]　宮村和生 5GAS

[印刷所]　光栄印刷株式会社

[製本所]　光栄印刷株式会社

Printed in Japan　ISBN：978-4-86349-028-4

TAKAMICHI
LOVE WORKS

9784863490284
ISBN978-4-86349-028-4
C9979 ￥2667E
1929979026677
雑誌 56454-45
発行 茜新社
定価 本体2667円 +税

TLW

-TAKAMICHI LOVE WORKS-

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

TLW

-TAKAMICHI LOVE WORKS-

ILLUSTRATION
TAKAMICHI
ART DIRECTION / DESIGN
KAZUO MIYAMURA

5GAS

LO

たかみちのいいしごと。

人気イラストレーター「たかみち」が描く、『COMIC LO』表紙イラスト集。
わりといろんな人に愛されてるっぽい気がするので、気合い入れて作りました。

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

A K A N E S H I N S H A

It is reason LOGOS and is LOSS and is LONELY and then is love LOVE from anything with "LO".
This book is a pretty girl cultural one part of Japan and also is the most point correctly at the moment.

茜新社
AKANESHINSHA

「LOは表紙も大好き」というファンの方、お待たせしました。
「LOは表紙だけ好き」という趣味的に真人間の方、
大変お待たせして申し訳ございません。
たかみちのLO仕事を余すとこなくギュッとまとめた
“死ぬまで持ってても恥ずかしくない”待望のイラスト集です。

- COMIC LOの表紙イラストを、たかみち氏完全監修の色彩で表現。
- 160ページにおよぶカラーページには描き下ろしイラストも多数収録。
- 多方面で高い評価を受けているCOMIC LO表紙・デザインの秘密を、イラストレーター：たかみち、デザイナー：宮村和生、編集長：Wのコメントと多数のラフスケッチ・写真・デザインコンテ・没イラストを交え詳細に解説。
- COMIC LOの表紙を舞台にしたスピンオフ小説『子供時間、最後の恋人。』を収録。文：姫野百合、挿絵：たかみちで、新たなLO世界を展開。

TLW

-TAKAMICHI LOVE WORKS-